

709
79



0000958-000

709-79

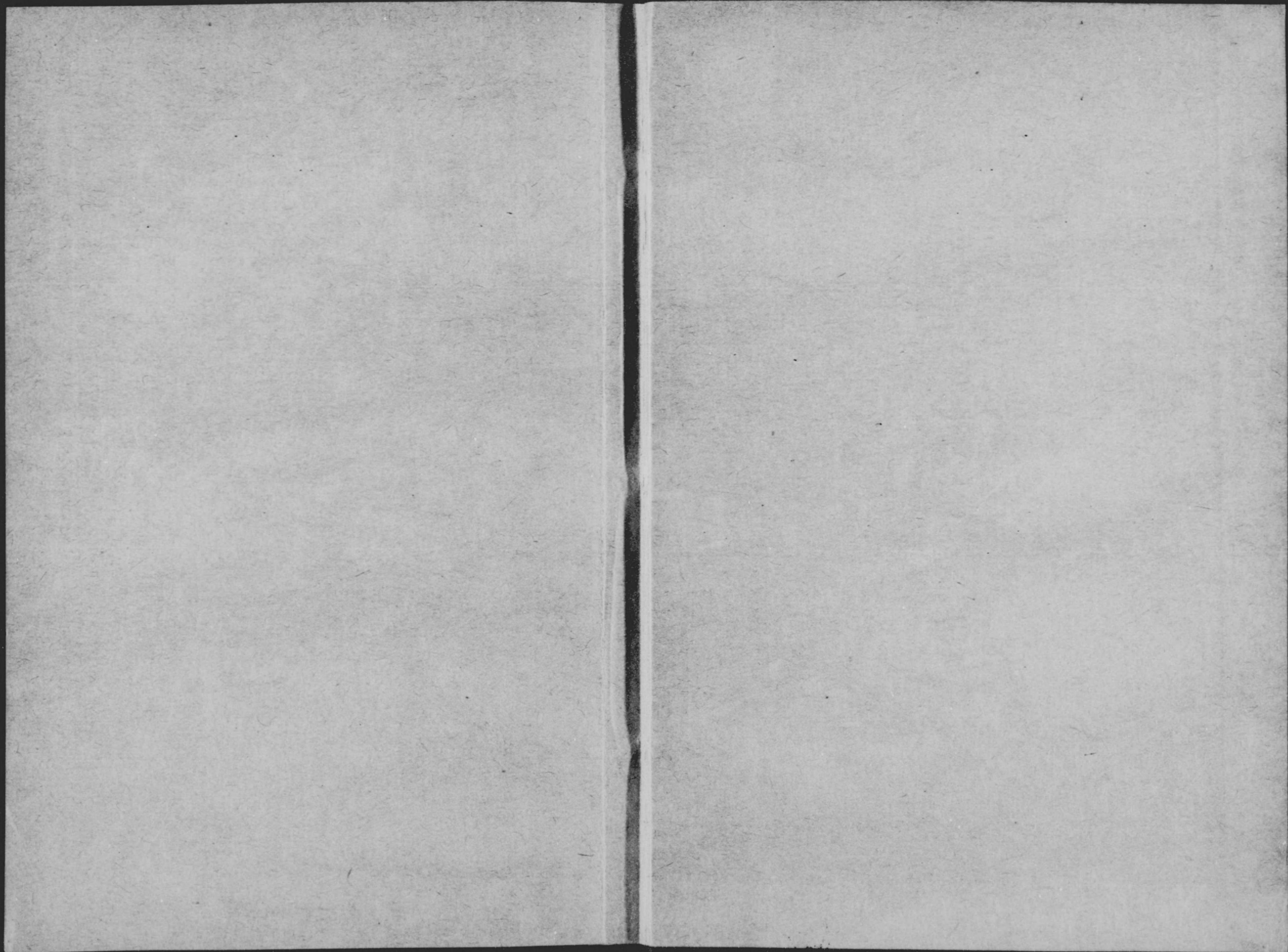
露国の心臓を衝く

東京日日新聞社、大阪毎日新聞社・編

東京日日新聞社

昭11

AAB

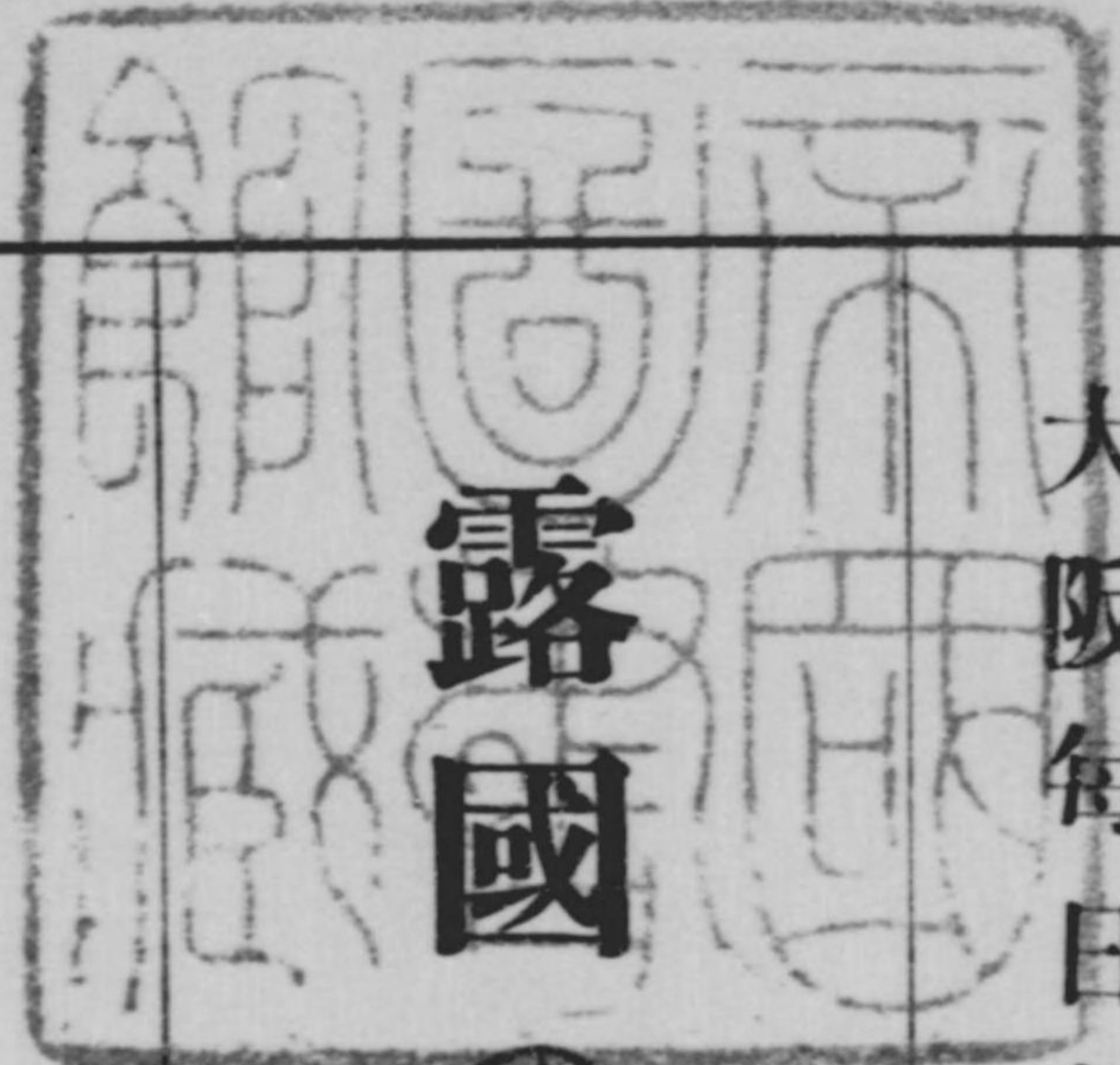


709
79

東京日日新聞社・大阪毎日新聞社編

露國の心臓を衝く

698



東京日日新聞社
大阪毎日新聞社 編

露國の心臓を衝く



東京日日新聞社
大阪毎日新聞社

709-79

序

「ソヴィエト聯邦」といへば立ちどころに「謎の國」として、これを神秘化、怪奇化し乃至は「赤い國」として危険視し、徒らに腫物に觸はるが如く、進んでその實體を追究探査することを避ける傾向があつた。

ところが近年、この「開かすの秘境」から頻りに建設の烽火が擧がり、或は軍擴の嵐が捲き起つて、反つて滿洲國邊境地帯を脅やかすにいたつた。

事實、漁業、石油、國境劃定等々、日ソ兩國間の懸案がいつでも停頓状態にある際滿ソ國境方面から頻々とソ側國境守備隊の越境、不法射撃事件、ひいては日滿國境警備隊との正面衝突等血生臭い事件を傳へ、徒らに「大事の前の小事」——國境異狀ありの印象を與へてゐる。

しからば、はたしてソヴィエト聯邦はしかく積極的であるのか。世界に誇示する赤軍の實力、第一、第二五ヶ年計畫による重輕工業、各種産業の開發

現況は果してどうか。

この疑問符を解き、ソヴェエト聯邦の實體、現況を究め、もつてソヴェエト聯邦研究の好伴侶たらしむべく本社は本社特派員としてロシア革命前後、現地にあつて通信戦線に活躍した布施勝治、黒田乙吉及び現在の建設時代を詳さに見聞きし検討して來た馬場秀夫、小林英生諸氏を動員して對ソ時事問題を蒐録、本著を刊行したのである。

東京日日新聞社
大阪毎日新聞社

目次

政治篇

一、政治機構……………一

プロレタリア獨裁……………一

一國社會主義建設と世界赤化……………三

政治の中心……………四

スターリン獨裁……………五

共産黨の威力と民衆……………六

ソヴェエト聯邦政府及び共産黨……………七

ソヴェエト聯邦とは……………八

ソヴェエト聯邦政府……………一三

全聯邦共産黨の實體……………一五

目次

黨中央機關……………一七
 共産黨補助機關……………二二

二、ゲー・ペー・ウー……………三三
 三、言論機關……………三四

新聞の特徴……………三四
 批判は禁物……………三五
 新聞の種類一萬千四百餘種……………三六
 無視出來ぬ特殊新聞……………三七
 有力紙と發行部數……………三七

四、コミンテルン……………三九

コミンテルンの生ひ立……………三九
 コミンテルンの主義主張……………四〇
 コミンテルンの組織……………四三

コミンテルン活動の變遷……………四四

外交篇

一、トロツキー時代……………三六

外交無用論……………三六
 無電外交……………三七
 無類の捨臺詞……………三八

二、チチエリン時代……………三九

『日本のシベリア出兵』折衝……………三九
 セノア會議……………四一
 表・平和、裏・革命の二元外交……………四一

三、リトヴィノフ時代……………四三

人質交換で歸國……………四三

國內建設と平和外交……………四四

新看板大當り……………四五

聯盟加入と對米國交回復……………四六

對獨より對佛握手へ……………四八

假想敵國ドイツ……………五〇

『退いて守る』對極東外交……………五一

平和——軍擴の積極策へ轉換……………五二

現在の動き……………五三

産業篇

一、異色の産業界……………五五

 全産業機關の國營化……………五五

 スタハローフ運動の意義……………五七

二、五年計畫の進展……………六〇

産業界の現状……………六〇

 五年計畫の重點を重工業に……………六三

三、經濟の重心漸次極東へ……………六四

四、ソ聯邦産業の缺陷……………六七

五、重大意義を持つ鐵道……………六八

國防篇

一、赤軍の實體……………七二

 赤軍は果して強いか……………七二

 赤軍の特色……………七五

 赤軍の現勢……………七七

二、國防第二線……………七九

 軍備擴張と産業組織……………七九

化学戦準備施設……………七九

三、復興目醒しき海軍……………八二

海軍充實緒につく……………八二

赤色艦隊の陣容と軍、要港……………八三

四、極東軍備の現勢……………八五

極東國境強化熱……………八五

極東軍の實力……………八七

極東海軍……………八七

五、目醒しき航空界……………八八

一流の航空國……………八八

空軍の威力……………八九

非軍事航空……………九〇

航空機の特殊な活躍……………九一

人物篇

ソ聯邦航空界の新記録……………九二

ソ聯邦の極北飛行……………九四

(A) スターリン……………九五

(B) カリーニン……………九八

(C) ウオロシロフ……………一〇〇

(D) モロトフ……………一〇五

(E) カガノーヴィチ……………一〇七

(F) トハチエフスキー……………一一〇

(G) リトヴィノフ……………一一四

(H) オルジョニキーゼ……………一二六

(I) ブリュツヘル……………一二九

(J) エゴロフ……………一三三

(K) フジヨシヌイ……………一三四

目 次
明日の領域 Ⅱ 極東シベリアの諸建設について Ⅱ

次

北氷洋の征服……………二二七

カラ海の商船キヤラバン……………一三一

極北の新都イガルカ……………一三三

レナとコルイマ……………一三五

強化さるゝ極東の交通網……………一三七

アルストロイとアングロストロイ……………一四〇

對極東關係

日ソ關係……………一四二

日ソ關係の第一期……………一四三

滿洲事變後の日ソ關係……………一四四

漁業問題……………一四八

石油利權問題……………一四九

滿ソ關係……………一五一

國境緊張……………一五一

國境不明確が禍根……………一五三

滿ソ國境とは……………一五四

ソ聯邦の重壓下に締結した協定……………一五五

尼布楚(ネルチンスク)條約……………一五九

愛琿條約……………一六一

天津條約追加條約(北京追加條約)……………一六四

ソ聯邦の傀儡・外蒙古……………一六七

滿・外蒙關係の緊張……………一六七

ソヴェト勢力の確立……………一六九

滿・外蒙國境紛争問題……………一七四

滿蒙國境線……………一七六

外蒙古の現勢……………一七七

露蒙修好取極……………一八四

目 次

ソ、外蒙相互援助條約……………一九一

ソ聯邦勢力下の新疆……………一九三

概 説……………一九三

英露の葛藤……………一九六

ソ聯邦と新疆の關係……………一九七

ソ聯邦の經濟的進出……………一九九

獨立運動と兵亂……………二〇〇

新疆政府の現状……………二〇三

新 疆 概 觀……………二〇三

ソ聯邦屬領化の唐努烏梁海……………二〇五

◇抗日プロツクとしてのソ聯邦、支那共產軍、南京政權……………二〇七

支那共產軍の山西進撃……………二〇七

對日共同戦線の結成……………二〇九

背後に伸びるソ聯の觸手……………二二三

政治篇

一、政治機構

プロレタリア獨裁

或る國の代議士がモスクワのクレムリンに某ソヴィエト大官を訪ね、該博な専門智識をもつて種
種突つ込んだ質問をなした際、大官の返答がどうも腑に落ちぬので首をひねつてみると、その大官
は矢庭に

「プロレタリア獨裁國のソヴィエト聯邦は全く世界に類のない、新設のものであるが故に資本主
義國の政治家がもつ既成觀念では批判されない。プロレタリア獨裁といふ独自の基礎智識にたち
戻つて咀嚼せねばソヴィエト聯邦の實體は解らぬ。これと同時に新しい建設に従事してゐる我々
も全く新しい智識をもつてこれをすゝめねばならぬ、しかもその地盤たるや處女地でなく、既に

帝政ロシア時代——帝國主義的に、充分とは言はぬが資本主義的に培はれたその土地に築き上げようといふのであるからその苦心たるや並大抵ではない。無論、對内的にも對外的にも大反對が起り、批判臺にのせられる位は覺悟の上であつた。又既成地盤を開墾し、新規耕作を始めるのは反對を知りつゝ極端な手段を執らねばならなかつた。こういふ段階を歩んでゐるが故に我々としても、いつ理想の樂園が建設されるか見通しはつかない。理想に近いものと考へてゐる間にいつか資本主義的な殘滓がくつついたりして、又これを艾除せねばならず、或は資本主義分子がプロレタリアの假面をかぶつて執拗にかちりついてゐたりするので時々大掃除を斷行せねばならぬ。先づどう考へてもこの地盤にこの大事業であるから、盤根錯節、そう簡單でないことは事實である。然しソヴィエト聯邦がソヴィエト政治本來の目的達成のためにプロレタリア獨裁であることに間違ひはない。」と説明した。

世界の六分の一、しかも全陸地續きといふ廣大なる地域を占め、人口一億六千八百餘萬人をもつ大國內で政治、經濟、社會等各方面とも特殊の制度が建設されつゝあるのであるから、實際において、ソヴィエト聯邦の各般の事情を正確に把握、理解することは仲々もつて容易でない。

一九一七年十一月の革命によつて労働者が政治支配階級となり、こゝにソヴィエト政權が樹立さ

れ、その政權の經濟的基礎を強化、安定するためにソヴィエト政治が行はれるやうになつた。そして同政治がこの目的達成のためプロレタリア獨裁制がとられたのである。

一國社會主義建設と世界赤化

世界共産化の急先鋒であつたトロツキーを斥けてスターリンが政權を握るや、あたかも世界共産化を忘れた如く一國社會主義建設の可能を説き、且つ第一、第二五年計畫をおしたてて頻りに社會主義經濟の確立に邁進したので世間の一部ではソ聯邦は世界共産化——世界赤化の方針を拋棄した如く考へるものさへ現はれた。

然し、ソ聯邦が世界赤化の希望を棄てたなどといふことはどう考へても誤謬である。「世界共産化の一段階として、先づ社會主義を建設するものである」とはつきり言つてゐるソ聯邦當局の説明を、まつまでもなく、急テンポの世界赤化が不可能と見てとつたので、差しあたり社會主義經濟を確立し、もつて將來、世界赤化戦開始の際の有力なる地盤とせんがために社會主義建設と看板を塗り替へたまでのことである。

ところが一國社會主義經濟の建設と一口に言つたところでそう簡單に達成されるものではない。

その間長い變轉期を經過せねばならず、従つてまた幾多困難なる問題に逢着せざるを得ないことは言ふまでもない。

即ち一國內において社會主義經濟を建設する關係上、先づ外側からの脅威を避けねばならなかつた。これがためには國際上においてソ聯邦の政治及び經濟的獨立を確保し、又その領域を保全するため、ソ聯邦を圍繞する諸國は無論、その他の世界諸國との間に平和的、經濟的關係の維持、増進または調整を必要としたが他方、國內においても社會主義經濟の基礎を建設する必要上、工業化と農業集團化とを根幹として國民經濟の各部門の社會主義公共化、労働の社會主義的組織或は全國民經濟の技術的改造等、幾多根本的問題の解決に當らねばならなかつたのである。

政治の中心

これ等内外の諸問題を解決するためにはソ聯邦政府が嚴存してこれにたづさはつてゐる。

ソ聯邦政府は後掲の表の如く、ソヴィエト大會を最高權力機關とし、これについて中央執行委員會、中央執行委員會幹部會、人民委員會議等が組織されてゐる。

そしてソヴィエト政治を支持するものとして、(一)二百八十萬餘の黨員からなる共產黨 (二)百

卅萬と稱せられる勞農赤軍 (三)約廿五萬の特別軍隊 (ゲー・ベト・ウー (國家保安部) 軍隊約十
六萬、護送軍隊約九萬) (四) 統制下にある言論機關及びその他の文化機關 (五) 廣大無邊の領土と
無限の天然富源 (六) 外國貿易專營制度 (七) 特殊の財政經濟機構 (八) ソ聯邦人の國民性 (九)
對外關係等が擧げられるが實際政治をなすものは政府機關は無論赤軍その他いづれの部門におい
てもソ聯邦内唯一の合法政黨たる共產黨員がこれを握つてゐるが故にソ聯邦の政治の中心は共產黨
にある。

スターリン獨裁

いづれの國家でもその動向を知らんとするにはその國のもつ政治機構を分析理解し、そのよつて
來るところを極めることが先決問題であるが、この點一國一黨のソ聯邦ではむしろ簡單である。前
項においてソ聯邦における政治の中心が共產黨にあることが鮮明にされたからいまこゝでは共產黨
の組織を分析すればその動向は明瞭とならう。

共產黨は共產黨大會を最高機關とし、中央委員會、中央檢査委員會、黨監督委員會等の機關が
あるが、黨の中樞部に政治局 (ポリトビュロー) がある。表面、政治局は黨の政治問題を處理す

るところとなつてゐるがスターリン始め黨の最高幹部がこゝに居を占めて黨の重要政策を議する。ソ聯邦の政治組織はソヴィエトを基礎とすることは衆知の事實であり、ソヴィエト大會がソ聯邦における最高機關であるが、これ等のソヴィエト機關は總て共產黨員が指導してをり、事實上ソヴィエト政治は共產黨の政治であり、ソヴィエト機關は共產黨の決定を國家の名において行ふための機關であると言へる、だから黨の最高機關たる政治局の決定がソ聯邦政治を動かし指導してゐるといふことは言ふまでもなく明瞭である。

現在の政治局は十人より成つてゐるが、いままでに幾度か局員の入替を行ひ今日では完全にスターリンの意中の人々のみとなり、彼の意志のまゝに動くやうになつたので、政治局は今や完全にスターリンの掌中に握られてしまつたのである。ソ聯邦政治の本源たる政治局がスターリンの権力下にあるのであるからソ聯邦全體がスターリンの権力下にあることになり、従つてソ聯邦はいまスターリンの獨裁下にあると言へるのは當然のことである。

共產黨の威力と民衆

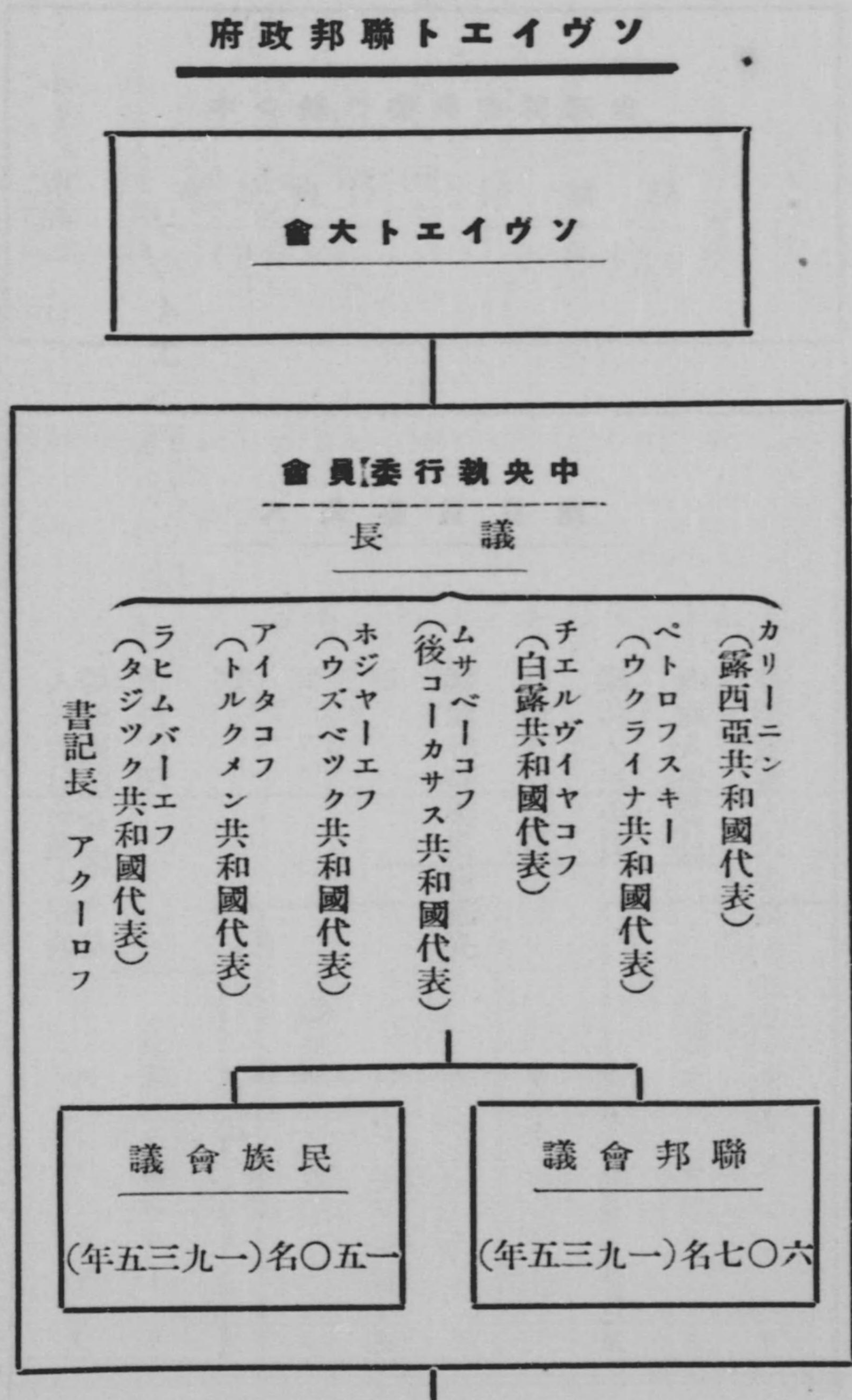
しからばスターリンを黨首とした二百八十萬餘の黨員をもつてよく一億六千八百萬餘の人口を左

右し、しかもよく難局を打開し、國力を充實して新建設に邁進することが出来るかといふことになり、これがこれには河を例にとることが判り易からう。

即ち河の兩側には高い堤防がある、その堤防を築いてゐるものは勞農赤軍であり、ゲー・ペー・ウー軍隊であり言論機關であり無限の富源、特殊の經濟機構等である。河の本流をなすものが黨であり、その又中軸が即ち政治局である。スターリンを水源とした河水は政治局を本流として大堤防の間を猛烈な勢で押し流して来る。一億何千萬かの民衆は高きより低きに流れる河水の如きもので、ただ、下流へ下流へと流される。もしも本流にさからうものがあつて堤防をくづさんとすれば堤防を築く各種の武器によつてなされたほされる。

かくて、民衆は河水の如く命のまゝに流れ、流されてゆくのである。無論河水に増減があり、清濁がある如く、ソヴィエト政治も必ずしも常に不變ではない、幾度か水嵩増して堤防が崩壊せんとしたこともあつた。然し何度かかゝる苦い經驗をなめた今日では堤防の補強工作も殆んど完成したので、ソヴィエト政權もスターリン治下に確固たる基礎を築いたといつてよい。

ソヴィエト聯邦政府及び共產黨

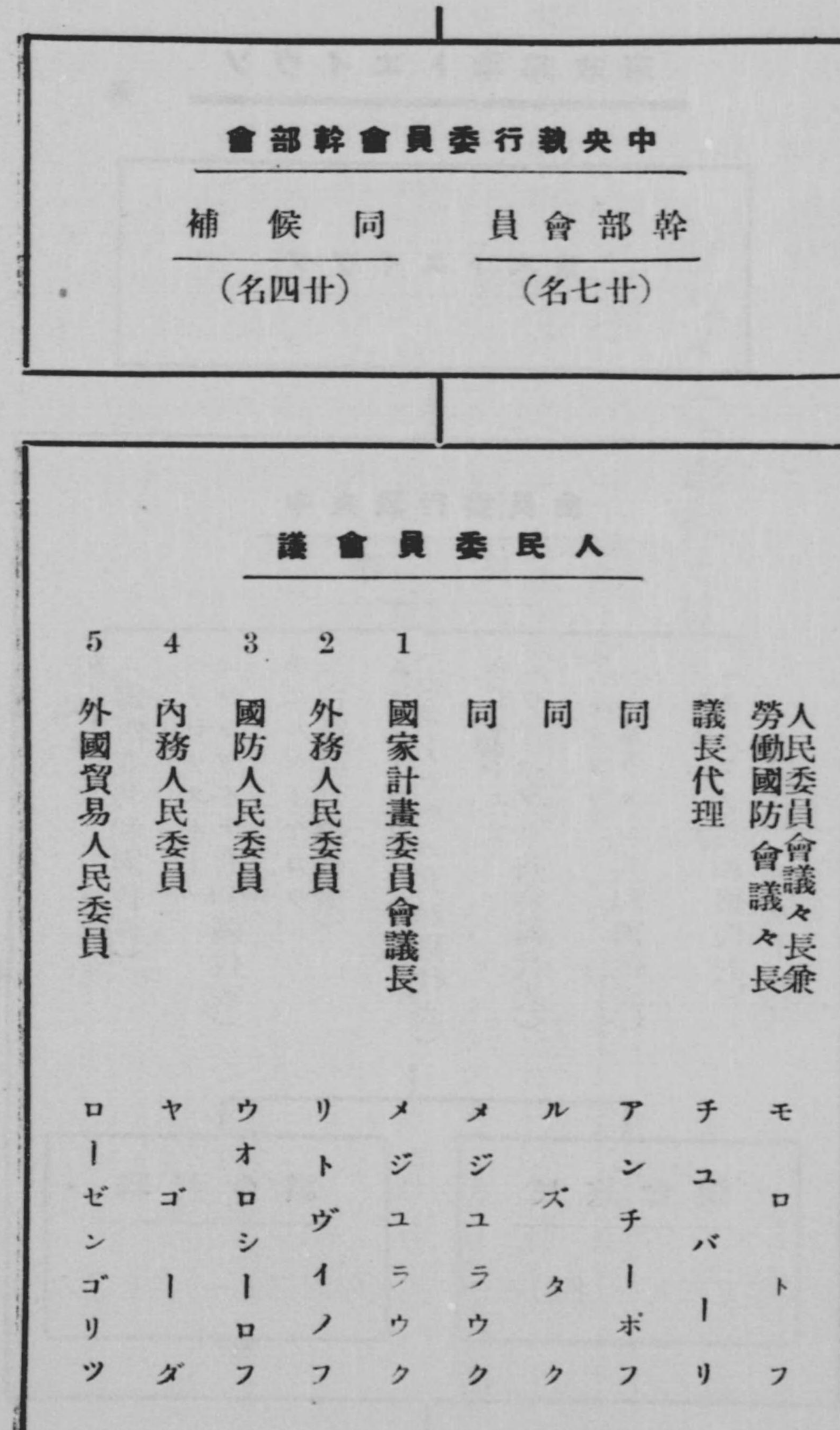
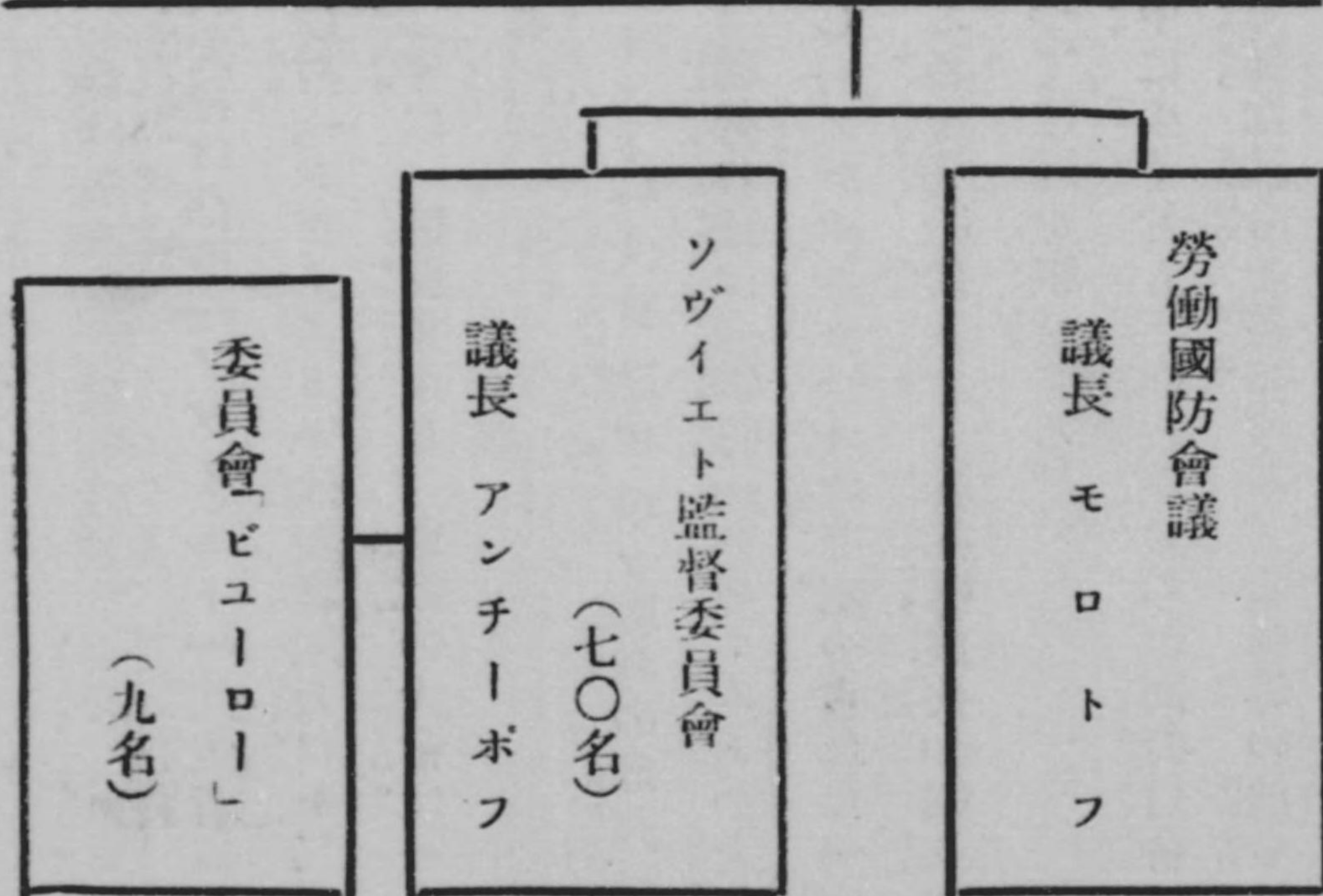


ソヴィエト連邦の政治動向に關する見通がついたので、いま順序としてソ連邦政府及び共産黨に關し、少しく解説して見る。

ソヴィエト連邦とは

簡単なことだが何故にソヴィエト連邦とかソ連邦といふのか。略してソ連邦と呼ぶソヴィエト連邦もまた略稱であつてソヴィエト社會主義共和國連邦といふのが完全な呼び方である。ロシア、ウクライナ、白ロシア、後コーカサス、ウズベツク、トルクメン、タジツクの七個の社會主義共和國をもつて結成されてゐるからこれを總稱して連邦といふのである。

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
財務人民委員	通信人民委員	水運人民委員	交通人民委員	國營農場人民委員	農務人民委員	國內商業人民委員	食糧品工業人民委員	輕工業人民委員	林業人民委員	重工業人民委員
グ リ ン コ	ル イ コ フ	バ ホ ー モ フ	カ ガ ノ ー ヴ イ チ	カ ル マ ノ ー ヴ イ チ	チ エ ル ノ フ	ウ エ イ ツ エ ル	ミ コ ヤ ン	リ ユ ビ ー モ フ	ロ ー ボ フ	オルジヨニキーゼ



ソヴェエト聯邦政府

一、ソヴェエト大會 ソ聯邦の最高權力機關である同大會は都市「ソヴェエト」代表者（都市の選舉人二萬五千人に對し一人の割合を以つて選出）及び村「ソヴェエト」代表者（人口十二萬五千人に對し一人の割合をもつて選出）を以つて組織され二年に一回召集する。最近の大會は一九三五年（二月廿八日—二月六日）開催の第七回大會である。

二、中央執行委員會 中央執行委員會は全聯邦「ソヴェエト」大會閉會中ソ聯邦の最高權力機關であつて、聯邦會議及び民族會議よりなつてゐる。聯邦會議は全聯邦「ソヴェエト」大會が聯邦構成共和國の代表者中より當該共和國の人口に比例し「ソヴェエト」大會で定められた一定の人数を選出してこれを組織し、民族會議は聯邦内における各民族の代表者、（聯邦構成共和國及び自治共和國より各五名宛、自治州より各一名宛選出）を代つてこれを組織する。

中央執行委員會通常會議は「ソヴェエト」大會閉會中に少くとも三回召集せられ同委員會は全聯邦の根本政策の樹立、國家機關の組織等に關する特に重要な法令を發布する。これ等の法令は總て前記聯邦及び民族兩會議を通過することを要する。中央執行委員會は中央執行委員會幹部會、そ

の他の機關の發布した命令決定等を停止又は取消す權利を有する。

中央執行委員會は聯邦構成各共和國の數に依り中央執行委員會幹部會員中より議長を選挙する。

（現在七名）

三、中央執行委員會幹部會

中央執行委員會幹部會は中央執行委員會閉會中ソ聯邦の最高權力

機關で中央執行委員會に依つて組織され、聯邦會議及び民族會議の幹部會員全部を含む廿七名の委員より成る、幹部會は全聯邦憲法の適用並に全聯邦「ソヴェエト」大會及び中央執行委員會決定の執行を監督すると共に法令を發布し又人民委員會議その他の機關に依つて發布せられる法令を審議しこれを停止又は取消す權利を有する。

四、人民委員會議

人民委員會議は内閣に相當する行政機關であつて人民委員は大臣に相當する

ものである。

人民委員部には左の種類がある。

(イ) 單一人民委員部 聯邦政府のみにあるもの、
 外務、國防、内務、外國貿易、重工業、林業、輕工業、食料品工業、國營農場、交通、水運、通信。

(ロ) 複合人民委員部 聯邦政府及び聯邦構成の各共和國政府に重複して存するもので、共和國政府にあるものはその共和國の中央執行委員會及び人民委員會に隸屬し且つ聯邦の當該人民委員部の命令に依て行動する。

農務、國內商業、財務、

國家計畫委員會は複合人民委員部と同様聯邦及び共和國の各政府に存する。

(ハ) 聯邦構成共和國政府のみにあるもの、

司法、教育、保健、社會保險、都市經濟、地方産業、内務、

前記(イ)(ハ)の内務人民委員部は同名であるが、(イ)と(ハ)は隸屬關係はない。ロシア共和國には(ハ)の内務人民委員部の代りに(イ)の内務人民委員部代表が置かれる。從來の合同國家

保安部(オ・ゲー・ペー・ウー)は單一内務人民委員部に包含された。

五、勞動國防會議 『ソヴィエト』監督委員會は何れも人民委員會直屬の機關で(イ)勞動國防會議『ストー』は財政經濟計畫の審議及び實現並に國防事項の審議等を管掌し(ロ)『ソヴィエト』監督委員會は社會主義實現に關する政府指令の施行状況を監視し『ソヴィエト』機關の紀律を

強固ならしむるもので黨大會で選出されるが人民委員會に屬する。

全聯邦共產黨の實體

全聯邦共產黨はソヴィエト聯邦における唯一の合法政黨である。ソヴィエト聯邦における全國家機關、即ち地方から中央へかけてのソヴィエト機關も、經濟、軍事機關その他文化團體等も總て共產黨の完全なる指導の下に組織、運用されてゐる。だから端的に言へばソ聯邦の全機關は共產黨によつて牛耳られ、その絶對勢力下にあるのである。

一に共產黨、二に共產黨といふ有様である。従つて黨の最高幹部がソ聯邦を指導操縦してゐることとは今更ら繰返すまでもない。

この全聯邦共產黨の母胎は一八九八年三月組織された露西亞社會民主勞動黨である。同黨が一九〇三年の大會でボリシエヴィキ(多數派)とメンシエヴィキ(少數派)に分裂して以後はこの多數派が現在の黨の前身となつた。今日黨を正確に呼ぶ際には『全聯邦共產黨(ボリシエヴィキ)』とボリシエヴィキの名を附してゐる。

全聯邦共產黨の組織原則は民主的中央集權であり、その組織を民主黨的にしてゐるが、然し分派(フラクシヨン)を許さず、單一の中心を置いて、これに絶對の指導權限を與へてゐる。だから全

黨員は中央指導部の命令に絶対服従し、如何なる場合でも課題遂行のためには粉骨砕心、獻身的努力を拂はねばならぬ。この點で黨の規律は鐵の如く嚴格であり、中央部における指導によつてソ聯邦の黨員即ち全機關は一糸亂れず動くのである。

中央の命令は絶対であるが故に、今日の命令がきのふのそれと全然反對であつても構はぬ。一度黨中央部の命令となれば絶対服従、しかも批判を許さぬ。もし、黨の命令に反し統制を亂すものがあれば只單に黨規違反の罪に問はれるばかりでなく反革命、反國家の罪名をおはされ嚴罰に處せられる。

黨組織の最下級單位はヤチエイカ（細胞）であつて工場、商工業企業、學校、集團農場等苟くも三人以上の黨員のゐる處には必ず存在する。ヤチエイカは日常の黨務として労働者、農民間の連絡、黨の主義、決議の宣傳及び實施、新黨員教育等に從事してゐる。

現在の細胞數は五萬五千餘に達してゐるが、これ等各細胞は各委員會または市委員會に統一せられ、州（地方）委員會又は民族共產黨中央委員會を経て中央部機關に達する。軍部内の黨機關は最下に細胞又は黨團があり、最高は勞農赤軍政治部である。

黨中央機關

一、黨大會

黨の最高機關で綱領規約の改正、重要國策の決定、黨中央諸機關の改選を行ふ。少くも三年に一回開催の規定であるが最近の大會は一九三四年（一月廿六日より二月十日まで）モスクワで開催された第十七回大會である。一九三四年一月現在の黨員は二百八十八萬七千八百八十六名（正黨員百八十七萬二千四百八十八名、候補者九十三萬五千二百九十八名）である。

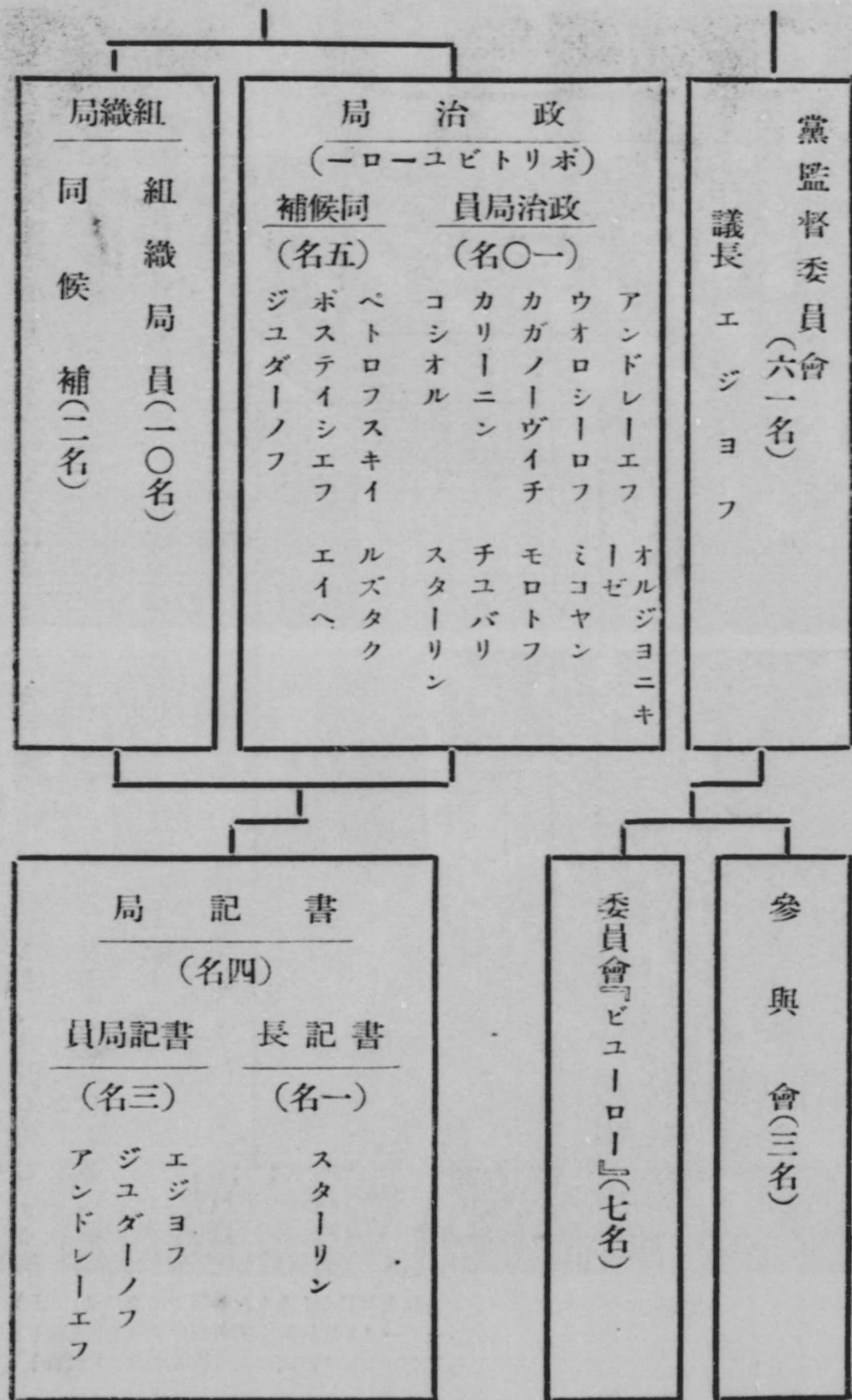
二、中央委員會

中央委員會は大會と次期大會との期間中黨務を處理し外部に對し黨を代表する。中央委員會は現在七十一名の委員、候補六十六名から成り四ヶ月に一回全體會議を開催、同委員會は黨務處理のため政治局、組織局及び書記局を設置する。

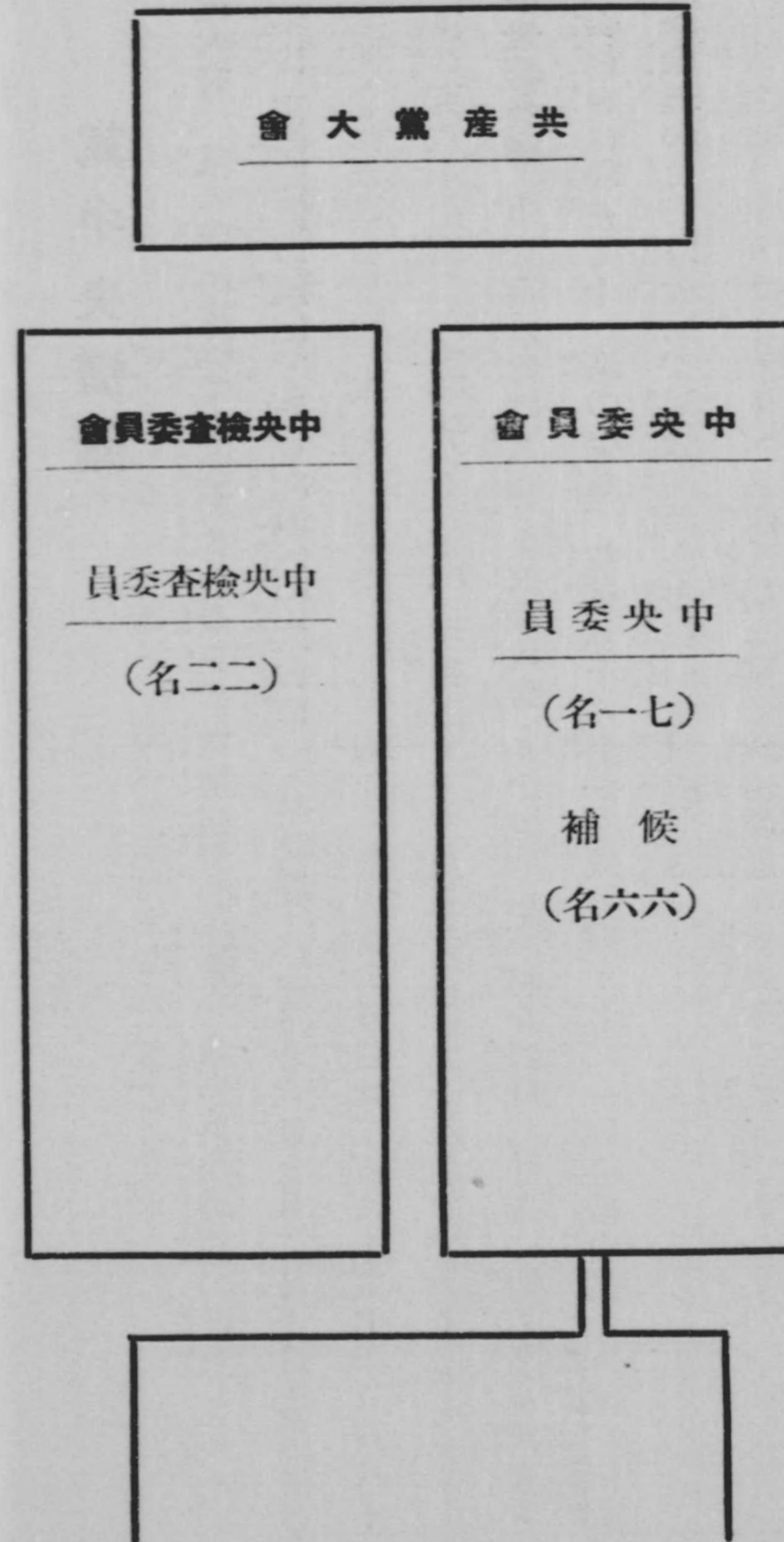
(イ) 政治局（ポリトビュロー） 政治局は黨の政治問題を處理する機關であつて、スターリン等ソヴィエト聯邦の最重要人物を以つて組織され黨の首脳部をなしてゐる。ソ聯邦の重要政策は總てこゝ政治局の劃策による。

(ロ) 組織局（オルグビュロー） 黨の組織問題に關する各種事務を指導する機關である。

(ハ) 書記局 組織及び執行に關する常務を管掌する、スターリンは、これが書記長である。



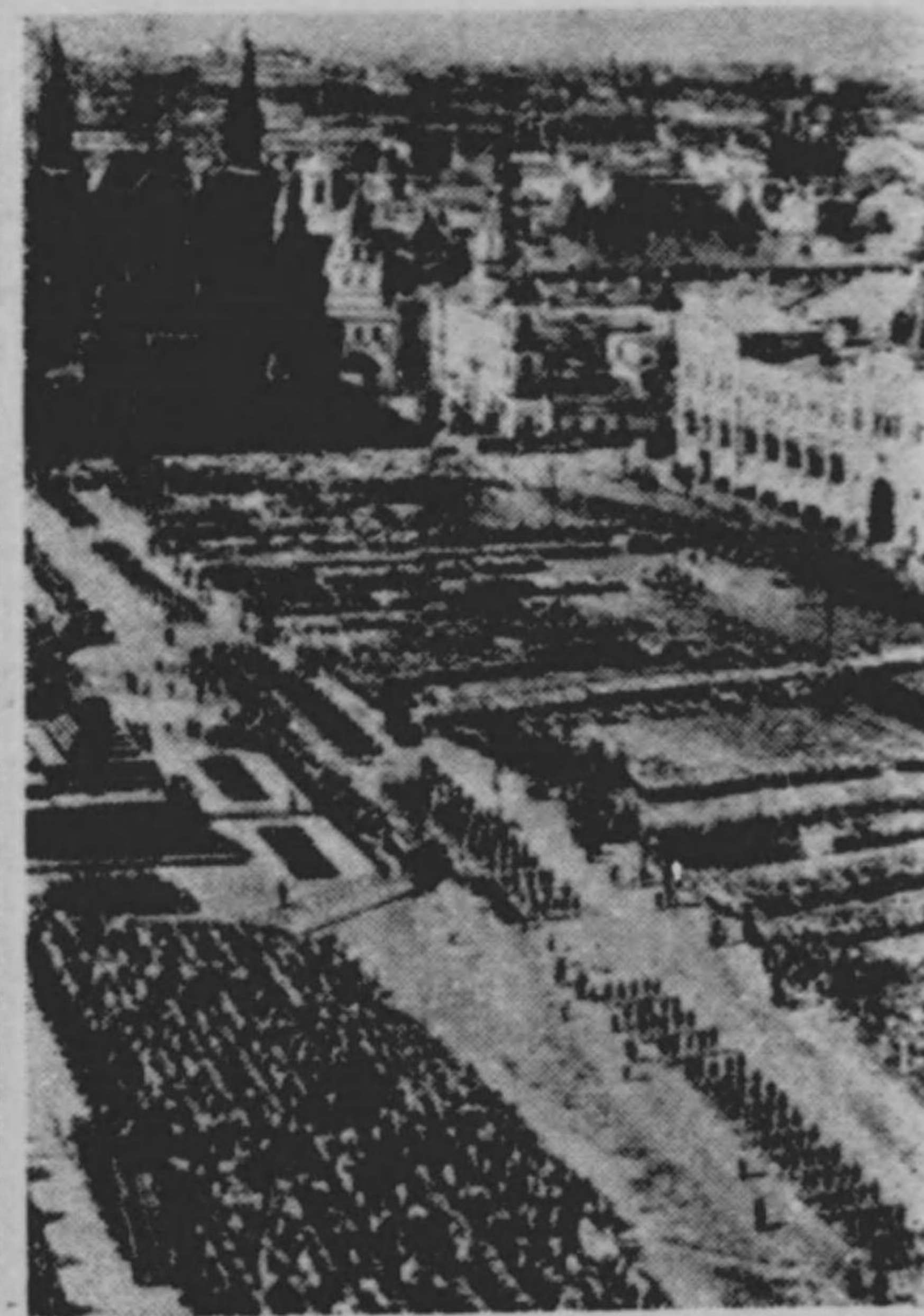
ソエト聯邦共産黨



三、中央檢查委員會 中央檢查委員會は黨中央機關の執行狀況並に會計を監督する機關。

四、黨監督委員會 黨監督委員會は第十七回大會で新設したもので黨の結束並に綱紀を監督し、黨の綱領及び政策の實行狀況を監視する機關、中央委員會に隸屬する。

(イ) 參與會 黨の體面、規律を取締る。(ロ) 委員會 (ビューロー) 委員會の常務處理機關。



氏ンリータスるす説演で(年四三九一) 會大黨産共回七十第九れか開でワクスモ (上)
ーデーメるけおに場廣色赤ワクスモ (右下)
氏フトロモるす説演に夫坑炭スバズク (左下)

共産黨補助機關

黨の任務がかくの如く重大であるから、これが未來の黨員養成には特に意を用ゐてゐる。現在
 一、共産青年同盟(コムソモール) 二、共産黨少年團(ピオネール) 三、共産黨幼年團(オクチャ
 プリヤータ)の三機關があるが、同機關における教育が即ちソ聯邦教育の中樞といふことが出来る。
 (A) 共産幼年團七歳以上十一歳以下の男女で組織されてゐる。ソ聯邦が独自の政治組織を行つ
 てゐるのは實にこゝにはじまつてゐる。團則に『幼年團員は少年團員、青年同盟員、共産黨員、勞
 働者、農民の手傳をなすべし』『幼年團員は將來少年團員となることを心掛くべし』とあつて諸外國
 の少年團の標語と略ぼ同様である。
 (B) 共産黨少年團十歳以上十六歳以下の少年少女をもつて組織され、共産青年同盟の指導監督
 のもとに將來共産同盟員となるに必要な教育をうける。標語『勞働、事業の闘争に備へよ』『常に
 準備完了』をもつて團律としてゐる。
 (C) 共産青年同盟共産黨の卵である、現在、同盟員六百餘萬人を持つてゐる。

一、ゲー・ペー・ウー

ゲー・ペー・ウーといへば今日ソ聯邦に關心を持つ程の人は知らぬものはないがソ聯邦内においては三歳の童兒もよく知るといはれる程『恐怖の殿堂』として存在してゐる。

ゲー・ペー・ウーはコミンテルンの對外的活躍と呼應して對内的に絶對、不可侵の勢力をもち、ソ聯邦大衆に深く滲透した存在であるから、爲政者は有力な武器としてこれを政治上に利用しつゝある。ゲー・ペー・ウーは軍隊、言論機關等と共に實にソヴィエト政治の掩護物として不可分の關係にある。

一昨年七月まではソ聯邦人民委員會に直屬した獨立機關であつたが内務人民委員部の新設されるや、その一部に併合され、權限が縮少されたかの印象を與へたが、事實は反對で時のゲー・ペー・ウー長官ヤゴグが内務人民委員となり、しかも従來の長官は人民委員會において發言權しか持たなかつたものが、人民委員となつて議決權を持つこととなつたので反つて權限が擴大され事實上一局部のゲー・ペー・ウーが内務人民委員部全部を代表するやうになつた。

然らば何故にゲー・ペー・ウーがかくの如き地位を獲得したか。ゲー・ペー・ウー（正確にはオ・

ゲー・ペー・ウー——統一國家保安部）は一九二二年、革命の當初、人民脅威の的であつたチエカ（反革命取締非常委員會）の改組されたもので政治的經濟的反革命運動、間諜、匪賊、密輸行爲の取締即ち革命的努力の統一を目的として生れたのである。

當時、法律的管轄指揮はこれを直接ソ聯邦最高法院檢察長に仰ぎ赤軍を自由に利用する權利を持ち、勤務員は軍務服役者と同等の待遇をうける恩典に浴することとなつてゐたが、その具體的組織、機構に關しては公表されたものがない、ただ數年前バリーで出版された元ゲー・ペー・ウー員ベドフスキーの著書にはゲー・ペー・ウーに關し大要左の如く書いてある。

即ちゲー・ペー・ウーは大體（イ）探偵部（反革命運動探索のため全聯邦に網を張る）（ロ）秘密部（共産黨の内訌、異分子の掃蕩、宗教撲滅）（ハ）經濟管理部（ニ）情報部（ホ）特別部（陸海軍監視）（ヘ）極東部（ト）機密部（チ）國境監視部（國境の警備、密輸出入の監視）（リ）外國部（國外にあるソ聯邦派遣員の行動監視、情報蒐集）等の各部に分れ各々相互に連鎖はあるが各部とも殆んど獨立的に行動してゐる。

以上の如き權力と統制組織力をもつて國家建設に邁進、徹底的に主義の貫徹を圖つて來たために漸次各方面に勢力を扶殖し、遂に今日の如く國境、鐵道、軍隊、工場、官衙、農村等を國內は無論

國外といへどもいやしくもソ聯邦人のゐる處にはその勢力が伸張侵蝕するにいたつたのである。

三、言論機關

新聞の特徴

ソ聯邦の新聞は『只單に宣傳家、煽動家であるばかりでなく組織者たれ』といったレーニンの言葉を鐵則としてゐる。従つてニュース本意の新聞といふ立場を棄て、全く政府黨の一員として立つてゐる。

新聞が新建設に如何に重大なる役割をつとめるか今更ら言ふまでもないが、革命前の地下運動時代から印刷に最も惱まされたソ聯邦當局は政權をとるや完全にこれをわが手中におさめ、最も有効にこれを利用したのである。現在ソ聯邦においては政府——黨機關の機關紙でないものは一つもない、又機關紙でないものは存在されぬ状態にあるのだから『統制』といへばこれ程完全に統制されてゐるところはない。

ソ聯邦の新聞は他國におけるやうに單に文化機關としてばかりでなく、立派に政治家的、指導者的役割を果してゐる。政府——黨——二位一體、不可分の兩者の最高方針を最も忠實に民衆に傳へ、理解させることがソ聯邦新聞紙に與へられた最大の任務である。だから新聞社の幹部は黨即ち政府の要人がこれにあたり、新聞に與へられた任務に忠實であるやう指導してゐる。従つて、ソ聯邦の新聞は官報であると批評する如く、一新聞を見てゐれば政府、黨の採らんとする方針の如何なるものかは或程度まで理解出来る譯である。

批判は禁物

ソ聯邦においては何から何まですつかり統制されてゐるから國民に自由がないといふが、ソ聯邦では飽くまで資本主義國で言ふ自由は眞の自由でなく、國民全部で建設した範圍内における自由が眞の自由であるとしてゐる。國民の政府、國民の黨で決定した方針、規定が最も正しいものであり、その範圍内における自由こそ眞の自由であるといふ見解を下してゐる。故に政府——黨最高幹部の決定は既に鐵則でありこれに對する批判は禁物とされる。従つて新聞も鐵則の報道傳達乃至はこれが徹底のため解説などはするが鐵則に對する批評は許されない。時々刻々、方針や訓令が變更されても常に新しいものが正しいとされる。きのふの訓令がけふ變更しても一度最高方針で決定さ

れた以上は何等の批判なくけふの決定が正しいものとされ、何故に變更したかとか、又はそれに對する批判などは一切禁物である。そして新決定は新聞によつて國民に告示される。役人など田舎へ出張する場合、新訓令の證據物件となるものは新聞で、新しい新聞に出たものが常に基本となるのである。

新聞の種類一萬千四百餘種

かくの如く新聞紙が重大なる役割を演じてゐるので當局のこれに對する努力も絶大なるがため、製紙能力の不足にも拘らず毎年激増してゐる。

年 度	種 類	部 數
一九一三年	八五九	二、五〇〇、〇〇〇
一九二八年	五五七	九、〇〇〇、〇〇〇
一九三二年	六、六八三	三五、〇〇〇、〇〇〇
一九三四年	一一、四〇〇	三六、五〇〇、〇〇〇

一九三四年度發行
紙中、約五千種は
農村で發行される
地方新聞及び黨政
治部の機關紙

無視出來ぬ特殊新聞

以上の如き中央、地方の所謂印刷される新聞紙の外に『労働新聞』『工場新聞』『農業新聞』『壁新聞』或は赤軍内の新聞等特殊な新聞の存在を無視することは出来ない。これ等特殊新聞はむしろ掲示板とも言ふべきもので印刷されずに工場、農村集會所等特定の場所へ書原稿や謄寫板刷りにして貼るのである。無論、自由勝手、無制限に貼り出されるのではなく、各々編輯部があり、そこで取捨選擇、飽くまで黨の方針の要求するところに合致したものとといふのが一貫した主義方針である。この特殊下級新聞が現はれたのは比較的最近のことであるがその發達は目ざましく各工場、コルホーズ及び赤軍部隊内で約五十萬の突撃隊新聞が發行され、また、工場、コルホーズ及び各企業内の壁新聞は數十萬にのぼつてゐる。

有力紙と發行部數

『フラウダ』(眞理) 全聯邦共產黨中央委員會並びにモスクワ委員會機關紙、發行部數約三百萬部
『イスヴェスチャ』(報道) 全聯邦ソヴェエト中央執行委員會機關紙、約二百萬部

『エコノミーチエスカヤ・ジーズニ』(経済生活) 通商、交通、財政三人民委員部機關紙十四萬部
 『クラースナヤ・ズヴェスタ』(赤い星) 國防人民委員部機關紙卅萬部
 『ラボーチヤヤ・ガゼータ』(労働新聞) 全聯邦共產黨中央委員部機關紙八十萬部
 『クレスチヤンスカヤ・ガゼータ』(農民新聞) 全聯邦共產黨中央委員部機關紙三百萬部

新聞外の出版物

新聞と同様、宣傳機關として重要任務を遂行してゐる書籍類の發行もめざましく、一九二七年ドイッを追ひ越し、現在では出版部數の點で世界第一位を占めるに至つた。ソヴィエト政權確立以來昨年五月一日までに四十三萬種の書籍が發行され、その部數は約四十七億に達してゐる。又、文藝兒童文學書等も相當擴大してゐるが、ソ聯邦當局の發表によるとマルクス、エンゲルス、レーニン及びスターリンの著書出版が特に激増してゐる。即ちマルクス、エンゲルスの著書は一九三四年度百四十萬部出版されたが、三五年度は百五十一萬部に達し、レーニンの著書は三四年の四百萬部が三五年には七百八十五萬五千部に増加し、スターリンのものは實に千三百三十二萬部上梓された。

四、コミンテルン

コミンテルン(共產黨インターナショナル第三インターナショナル)はソヴィエト聯邦にとつては全く鬼に金棒的存在である。

昨年(一九三五年)の第七回大會までは二年に一回開かれる筈の大會が丸七年間も開かれなかつた上に、コミンテルンの祖國ソ聯邦ではスターリン提唱の一國社會主義建設が始められ、對外的に『平和外交』『協調外交』が叫ばれて來たので外廓運動の本尊であつたコミンテルンは一時鋒鏑を納めたかの如き態度を示したのである。

これがため早くも世界各國にはコミンテルン解消希望群の活動が始まりコミンテルン死滅論などが公々然と傳へられるようになった。日本などでも相當有力な人が、したり顔してコミンテルンの死滅をとへたものであつた。ところが昨年夏第七回大會が蓋を開けた結果は從來と殆んど變りがなく五十ヶ國の代表五百十名が參集、そして決議したものをみると、本來の目的達成のために從來の行掛りを捨て、社會民主黨その他如何なる團體に屬するものとも手を取り共同戦線を張つて勃興期のファッシズムに反對し場合によつては××を反ファッシヨ的聯立内閣に參加せしむるのも妨

げず又、職業組合運動を統一してファッショ團體に加入せしめ内部的にこれを崩壊させんとするなど左右労働階級の戦線統一をはかつて資本主義國を内部から攪亂せんとする舉に出たので、コミンテルン死滅、解消陣營は忽ち動搖を來たしたのである。

且つコミンテルンは第七回大會において、ソ聯邦における社會主義の成功とその世界的意義に關する決議を採用し、ソ聯邦との關係、態度を鮮明にした。即ち「ソ聯邦における一國社會主義の建設實現し、國力强、大化した結果世界民衆の意識及び階級間の力の關係が社會主義に有利に變化し世界はプロレタリア革命發展の新时代に入った。依つて全力を擧げてソ聯邦を援助強化しその敵と戦ふは黨員その他反ファッショ民衆の任務である。」といふのである。

かくコミンテルンは外廓からソ聯邦に呼びかけ、ソ聯邦との關係を露骨にしてゐるが、周知のごとく従来ソ聯邦當局は諸外國よりのコミンテルンの活動に對し抗議をうけた場合コミンテルンは國際團體であつてソ聯邦政府とは無關係であると釋明して來た。

コミンテルンがその字の示す如く國際團體であることには異論はないが、然しその黨員がソ聯邦共産黨員正、準合して公稱二百數十萬(約二百五十萬)といふのに對し他の諸國における共産黨員はドイツ共産黨潰滅前ですら六十餘萬といはれてゐた程度であるから現在はおそらく二、三十萬

以下に激減しその實權はソ聯邦共産黨が完全にこれを握り、且つ世界唯一のプロレタリア獨裁國、ソ聯邦を祖國、地盤として成長して來たのであるからソ聯邦政治と歩調を合せ、しかもその鋒先となつて外廓運動にたゞさはつてゐたことは當然すぎる程明白のことである。且又、ソ聯邦政府がソ聯邦共産黨によつて單一的に指導されてゐる以上、ソ聯邦政府とコミンテルンが無關係であるなどといふことはどうしてもあり得ない。

コミンテルンの生ひ立

コミンテルン(第三インターナショナル)の産聲は一九一五年九月スウェーデンのチムメルワルドで開かれた國際社會黨會議、一九一六年四月のキエントール第二回會議、同じく一九一七年九月のストツクホルム第三回會議等において既に發せられてゐたが、いよいよ誕生したのは一九一九年三月四日である。

ロシア革命の成功を見たチムメルワルド派の極左派は革命主義に立脚した新しいインターナショナルの創設を企圖し、これをレーニン、トロツキー、ラコフスキー、ジノーヴィエフ等が具體化して一九一九年一月ロシア共産黨を中心とした八個の組織の名で各國革命黨に第三インターナショナル

ナル創立大會參加の招請狀が發せられた結果同年三月二十日廿ヶ國の代表五十一人がモスクワに參集、三月四日いよ／＼第三インターナショナル創立の宣言がなされたのである。

コミンテルンの主義、主張

レーニンはこの創立大會でコミンテルン結成の理由を説明し『モスクワ會議において第三インターナショナルを成立せしめざるにおいては共産黨は一致を缺ぐの感じを與へ、その立場を薄弱にし、却つて各國プロレタリアの曖昧分子の混同を増大するものである』としてその態度を鮮明にし、レーニン指導のもとに結成したコミンテルンは第一回會議において政綱を決定したが、それは左の如く極めて急進的であり、革命共産主義的のものである。

- (一) 世界的共産主義建設のためプロレタリア獨裁の實現
- (二) 植民地、半植民地の被壓迫大衆の解放
- (三) 農業労働者及び貧農の獲得、中農の中立化、富農及び地主との闘争
- (四) 協同組合による大衆の共産主義化

等であるが、當時既に政權を把握したソ聯邦を強固な地盤として誕生したのであるから、この勢は忽ち燎原の火の如く四方に擴大延焼したのであつた。

コミンテルンの組織

コミンテルンは第二インターナショナルの如く聯合組織でなく、民主的中央集權組織である。二年毎に開催される第の世界大會が最高機關であり、大會閉會中は半年に一回招集の執行委員會がこれに代る。

現在執行委員會は四十六名の委員と三十五名の候補者からなつてゐる。執行委員會は更に幹部會を選出するが、現在の幹部會委員は左記十九名の委員と廿名の同候補からなつてゐる。

◇執行委員會幹部會員(十九名) デミートロフ(ア)、ピーク(獨)、スターリン(ソ)、フローリン(獨)、フォスター(米)、エルコリ(伊)、岡野(日)、王明(支)、モスクウイン(ソ)、マヌイルスキ(ソ)、マルチ(佛)、レンスキー(波)、コブレニヒ(奥)、カシヤン(佛)、コラロフ(ア)、クシネン(芬)、ポリツト(英)、トレズ(佛)、ゴットワルド(チ)、

執行委員會は書記局(現七名)を選任、書記局は執行委員會、同幹部會並に組織局の執行機關である。世界大會が選出する國際統制委員會はコミンテルン最高の統制機關である。

コミンテルン大會開催年史

△第一回大會（一九一九年三月二日——十六日）卅ヶ國代表五十一名參加、△第二回大會（一九二〇年七月十九日——八月六日）四十一ヶ國代表二百十七名參加、△第三回大會（一九二二年六月廿二日——七月十二日）五十二ヶ國代表六百五名參加、△第四回大會（一九二三年十一月五日——十二月十二日）五十八ヶ國代表四百八名參加、△第五回大會（一九二四年六月十七日——七月八日）四十九ヶ國代表五百十名參加、△第六回大會（一九二八年七月十七日——九月一日）五十七ヶ國代表五百三十二名參加、△第七回大會（一九三五年七月廿五日——八月廿日）五十ヶ國代表五百十名參加。

コミンテルン活動の變遷

コミンテルンの華々しい時代は創立より第三回大會までである。世界大戰後各國が社會的、經濟的動搖をうけて革命危機の不安状態にあつたのに乗じコミンテルンは全面的に強襲又強襲を行つて世界××へと猛進した、だからこの時代にはソ聯邦はこれがためその外廓をコミンテルンで強化し、ソ聯邦即ちコミンテルンの如き印象を世界に與へた。

第三回大會から第六回大會にいたる第二期時代に入るや世界のブルジョアジーも、資本主義

の部分的安定、技術的、合理化に成功を収め漸次強化したのでコミンテルンの全面的強襲は不可能となつた。然し他方においてなほ

(一) 資本主義國におけるブルジョアとプロレタリア間、(二) 帝國主義國と植民地間、(三) 戰勝國と戰敗國間、(四) 戰勝國相互間、(五) 資本主義的世界とソヴィエト聯邦間。

等の矛盾、對立の尖鋭化に乗じ、その間隙につけ込み覘ひ射ちを行つた。

第六回大會より第七回にいたる第三期は既にソ聯邦もスターリン時代となり一國社會主義建設の一手段とする『第一五ヶ年計畫』實施の段階に入つたのでコミンテルンもソ聯邦の主義貫徹のため掩護運動を起し、攻勢より防衛の姿勢をとるにいたつた。

昨年の第七回大會においてはフアツシズムに對する共同防衛を口實に年來の政敵第二インターナショナルに泣きを入れ、後退又後退をなした。これなど明かにソ聯邦が一國社會主義建設の旗印と共に各國と『協調』『平和』主義を採用したので、これに調子を合はさん魂膽であることは明瞭である。

かくの如くコミンテルンはソ聯邦自體の動きと共に變遷してゐるのである。



外交篇

ソヴェイエト政府樹立以來既往十八年の間、外交人民委員は三度更迭した。初代のソヴェイエト外相はトロツキー、二代目がチチエリン、三代目にして、且つ現外相たるはリトヴィノフ氏である。しかして、ソヴェイエト外交は、その首腦の更迭毎に、これとほゞ時を同じくして、その方針に急轉向を來たした。従つて、ソヴェイエト外交はこれをトロツキー時代、チチエリン時代及びリトヴィノフ時代の三期にわけて解説するを便宜とする。



一、トロツキー時代

外交無用論

トロツキーは革命の當初、レーニンと並び稱せられた傑物であつて、最近こそ、トルコ、フランス、ノールウエー等に亡命流浪して、不遇の境地にあるが、十月革命初年頃のトロツキーは、たいした勢力であつて、一九一七年十一月ソヴェイエト政府が始めて建設された時、レーニンがソヴェイエ

ト内閣議長となるとともに、トロツキーは初代ソヴェイエト外相の椅子についた。十月革命によつて、政權を握つた當初のボリシエヴィキは、素晴らしい意氣込みで特に對外政策には、極端なる強硬方針をとり、最初は外交無用論をさへ唱へ、始めてソヴェイエト外相となつたトロツキーも『余はたゞ世界の人類に向つて、革命の宣言を投げつけ、直ちに外務省の店を閉ぢてしまふであらう』と傲語したものである。いふまでもなく、共産主義を奉ずるボリシエヴィキにとつては、資本主義の列國は、悉くその敵國である。しかして『敵國とは、外交の必要がない、たゞ戦争あるのみ』といつたやうな建前であつたので、外交無用論を高唱したわけであらう。然し『外交は無用だ、外務省の店をしめるのが、勞農外相の唯一の使命だ』と傲語したトロツキーも、さていよくその局に當つて見ると、國際のこと、なか／＼、さうは簡單に行くものでない。

無電外交

ソヴェイエト外相としてのトロツキーが、最初に直面した難局は、バリのエツフェル塔との『無電外交』である。當時フランス政府は、ソヴェイエト革命に對して、最も強烈な反感をもち、エツフェル塔の無線電信局から、全世界に向つて、ボリシエヴィキ攻撃の宣傳を始めたものである。即ち

『ボリシエヴィキは悪逆無比の暴力團體で、文明の公敵だ。レーニンやジノヴィエフはカイザーの手先だ』などと盛んにやつたものである。しかししてこのエツフェル塔の『宣傳』は當時非常の効果を奏し、ボリシエヴィキは、これがため、世界中の資本階級ばかりでなく、彼等の味方と目してゐる労働者の間にすら、懷疑の目を以て見られ、動もすれば、その同情を失はんとする形勢となつた。こゝにおいて、勞農外相 トロツキーも、つひに黙つてをられず、エツフェル塔の反ソヴィエト宣傳に對してペテルブルグの郊外にあるツアールスコエ・セローの無線電信局から、全世界を對手に、トロツキー一流の放膽な『赤い宣傳』を始めた。『トロツキーの無電外交』と云ふのがこれである。

無類の捨臺詞

ソヴィエト外相としてのトロツキーが、その局に當つた第二の外交使命は、アレスト・リトウスクの媾和談判である。しかし、トロツキーは自ら全權としてこの會議に臨んだにも係らず、ドイツ軍閥の前に頭を下げるは、潔くないとなし、レーニンの命令をしりぞけ、媾和締結に反對して、所謂『戦争も反對、平和も反對』といふ古今未曾有の『戦争脱退宣言』なるものを捨臺詞に残し

て、アレスト・リトウスクを引揚げてしまつた。そして、これと同時にトロツキーは外相の椅子を、チチエリン氏に譲つて、自分は陸海軍人民委員に轉じたのである。

一一、チチエリン時代



『日本のシベリア出兵』折衝

二代目勞農外相チチエリン氏は、皮肉にも、帝制時代の舊い名門の出身であつて最初帝制政府の外交官であつたが、在外勤務中に、社會民主黨に入り、トロツキー等の同志に伍して、歐洲大戦中、戦争反對宣傳の罪に問はれ、英國政府に捕へられて、長らく獄中にあつた。十月革命の直後、トロツキーがソヴィエト外相となるや『チチエリンを釋放せねば、在露英人全部を投獄する』と凄文句で、英國宣憲を威嚇し、辛ふじて救出することを得たのである。しかししてチチエリン氏は、英國の牢獄から出て、ロシアに歸へるや、直ちにアレスト・リトウスクに派遣され、レーニンの命令通り、所謂『條文を讀まずに、媾和條約に調印した』のであるが、この媾和の成立後、チチエリン氏は、調印の責任者として、外相の椅子を引き受けねばならぬこととなつた。

チチエリン氏は一九一八年の春から、一九三〇年の春まで、前後十二年間、ソヴェト外相の要職に當つたのである。就任の當初、チチエリン氏は、シベリア出兵の解消に苦心したが、何しろ、相手の日本と國交斷絶でとりつくしまがなく、チチエリン氏と最初の非公式交渉に當つたのが、當時バルチック方面にあつた本社の布施特派員である。當時の布施氏の手記によると、

私が始めてチチエリン氏と相識つたのは一九一九年のことで、同年私はフィンランドとエストニアから無線電信で、ソヴェト政府の對日外交方針を叩いたのであるが、チチエリン氏は、その都度、無線電信を以て丁寧な返事をして呉れた。當時チチエリン氏の私にあてた返電は、ソヴェト政府のわが日本に對する最初の意志表示として、新聞紙上大きなセンセーションを惹き起した。一九二〇年の春、私はモスクワに入り、チチエリン氏と親しく三、四度面會した。チチエリン氏は風變りの奇人、妙な變態の人であつて、終身妻帯せず、晝寝て夜働らき、列國代表の接見も、多くは夜中にやるので、私がチチエリン氏に會つたのも、夜の二、三時頃であつた。チ氏があの凄惨な眼を光らせ、低いさびのある聲で『ソヴェト政府は極東共和國を建設して日本との衝突を避ける方針に決した』といふ重要なニュースを與へてくれた様子が、今でも眼の前に見えるやうな氣がする。

ゼノア會議

チチエリン氏がソヴェト外相として、在職十二年間、最も得意であつたのは、一九二二年のゼノア會議の時であつた。當時ゼノア會議に『色』の變つたソヴェト全權が參列する。勞農外相がシルクハットをかぶつて出席する……といふ前ぶれだけでも、大きなセンセーションであつた。しかしてチチエリン氏がいよゝ會議にあらはるゝや、いきなり、わが石井全權に、恐ろしい見幕で喧嘩をふつかけて來た。それに對して、石井全權も、また、滿面朱をそゝぎ、拳で卓をたゝきながら應戰する。そのもの凄惨な光景には、ロイド・ジョージ氏始め列國の全權もアツといはされたとのことで石井子爵の述懐談にも、

ゼノア會議におけるチチエリン氏との一騎討は長い間の外交官生活を通じて最も痛快な記憶の一つである。

表・平和、裏・革命の二元外交

チチエリン時代のソヴェエト外交は、所謂『廿四ヶ國の包圍』を破り、列國との平和關係を回復して、親善をはかると、同時に、他の一方ひそかに列國內の革命運動、植民地における獨立運動を煽動して、世界をかきまはす『赤い外交』を進めるといふ二つの使命を帯びてゐたのである。チチエリン時代のソヴェエト外交は、ソヴェエト政府と第三インターナショナルとの二元外交であつたともいひ得るわけで、當時のソヴェエト外交官は、常に一方、表面ソヴェエト政府を代表して列國との修交及び通商回復の發展をはかるとともに、他の一方、裏面ひそかに第三インターナショナルの運動を援助し、同時に二重人格のつかひわけをやらねばならぬ立場に置かれた。しかも、この表裏二様の使命たるや、全然反對の方向に向ふもので、一方に力を入れれば、他の一方に支障を生ずる。そこでチチエリン氏が如何に列國に對して『平和親善方針』を高唱しても、列國は依然ソヴェエト外交は『赤い外交だ』、『第三インターナショナルの手代だ』となし、ソヴェエト・ロシアは結局『國際異端者』、『世界中にくまれもの』となつてしまつたやうなわけで、チチエリン時代のソヴェエト外交は、終始極めて面倒な難局に當つたのである。

チチエリン氏は一九三〇年七月、十二年間、引續き占めてゐた外相の椅子を、その次官リトヴィノフ氏に譲つて、隱退生活に入つた。チチエリン氏失脚の原因は何であつたか。リトヴィノフ氏

との折合がよくなかつたためであつたといふ説もあるが、その主要原因は、むしろトロツキーの失脚が、ト氏と親しかつたチチエリン氏の立場を不利ならしめたにあつたらしい。チチエリン氏はトロツキーと長い間の親交があり、従つてトロツキー派と目されてゐたので、トロツキーの失脚とともに、苦境に陥つたらしくトロツキーの亡命と前後して、一九二八年チチエリン氏はドイツへ轉地療養に行つた切り、病氣と稱して、度々歸還を命ぜられながら、歸らうとしない。その中に事實病氣も重くなり、遂に一九三〇年七月、外相を辭し、リトヴィノフ次官の昇進となつたのである。

二、リトヴィノフ時代

人質交換で歸國

マクシム・マクシモヴィツチ・リトヴィノフ氏は、ふるいボリシエヴィツクで、若い時から、左翼運動に關係し、機關紙イスクラに筆をとつたり、武器の買入れに當つたり、東奔西走、大いに黨のために働らいた。革命後ロシアに歸り、一時駐英代表に任ぜられたが、間もなく英國官憲に捕へられ、當時モスクワで反革命陰謀に加擔して逮捕された英國領事ロツカート氏との人質交換で、歸

國し、一九一八年から、ソヴィエト外務省参事官にあげられ、エストニア駐在公使、ゼノア、ヘーグ會議の全權等を歴任し、チチエリン外相の下に、長くクレスチンスキー、カラハン兩氏とともに、次官の職にあり、専ら歐米方面の外交を擔當してゐた。

國內建設と平和外交

リトヴィノフ氏が、チチエリン氏に代つて、ソヴィエト外相に就任したのは、恰かもスターリンがトロツキー派を打倒し、獨裁權を把握したのと、時を同じうした。しかしてスターリンの獨り舞臺となつたソヴィエト聯邦は『世界革命』のユートピアから目醒めて、所謂『一國社會主義』の新原理により、國內建設に全力を傾倒する方針をとつて、先づ五ヶ年計畫の實現に、邁進することとなつたのであるが、國內建設、殊に五ヶ年計畫の如き大事業を遂行するためには、先づ列國との親善關係の確立が、何より緊切なこととなつたわけで、その結果、ソヴィエト外交も亦、從來の二元外交から脱脚し、平和政策一枚看板でおし通ほす方針に轉向を餘儀なくされたのである。

一九三〇年七月、リトヴィノフ氏が始めて、外相に就任した時、モスクワ駐在の各國記者との會見において

ソヴィエト外交の最大使命は社會主義の建設のために、平和を維持し、外國との紛争から自由な立場を確保するにある。ソヴィエト聯邦は、その建設計劃の規模大にして、且つそのテンポの急速度を加ふるに従つて、益々平和の確保を急務とする。我等は現在資本主義國にとりまかれた一國において、社會主義の建設をなすべく餘儀なくされてゐる。我等は資本主義國家と社會主義國家との二つの異なる社會組織の平和的共存の方法を見出すために、最大の努力をつくすであらう。

との新外交方針を聲明した。

新看板大當り

かくして外相新任のリトヴィノフ氏は『一國社會主義』の新原理の下に、先づその外交の重點を、前記の聲明に語つた如く『資本主義國の包圍の中で、社會主義國の存在を安定せしむること、そのため益々列國との平和を確保し、親善關係を増進する』ことに置いた。固よりソヴィエト外交は從來も平和政策をとつて來たのであるが、トロツキーやチチエリン時代のソヴィエト外交は、他の一面コミンテルンの運動を援助しなければならぬ立場におかれ、表裏を異にする二元外交であつ

たことは、前項所記の通りであるが、リトヴィノフ氏外相就任後のソヴィエト外交は明らかに表裏とも平和方針を強調することとなり、その結果コミンテルンの行動に對しては、極度の制肘が加へられることとなつた。しかして二元外交から一元外交に轉向後のソヴィエト外交は、俄かにその赤色が褪せて來たわけで、その結果、從來ソヴィエト聯邦を目して『赤い國』『國際異端者』となし、これを忌避し、指彈してゐた列國も追々その對ソ態度を緩和し、中には積極的にソヴィエト政府と親交を結ばんとする國もあり、ソヴィエト聯邦の國際地位は、著しく好轉して來たわけで、この點、リトヴィノフ氏はたしかに前任者チチエリン氏に比して、遙かに幸運であるとしなければならぬ。チチエリン氏が二元外交の難局に當り、『世界中にくまれもの』の苦境に立つたのに反して、リトヴィノフ氏は平和外交の一枚看板をおし立て、不可侵條約や侵略國定義協定の締結を提議する、時に五ヶ年計劃に伴ふ巨額の註文を餌にして列國を釣るといつた筆法で、その歐洲の國際舞臺における縱横無盡の活躍振りは、まことにあざやかなものである。

聯盟加入と對米國交回復

リトヴィノフ氏の歐米方面における平和工作として、特に記すべきことは、米國との國交回復

と、國際聯盟加入の二つである。米國はソヴィエト革命以來、約十六年間、ソヴィエト政府の承認を肯せず、兩國は國交斷絶の状態を續けて來たのであるが、一九三三年ルーズヴェルト大統領の就任とともに米國政府の對ソ政策一轉して、こゝに兩國は十六年振りで、國交を回復することとなり、リトヴィノフ氏先づワシントンに大統領を訪問し、ついでモスクワには米國大使として革命の初年レーニンを訪ふたことでロシアでもその名を知られたブリット氏、ワシントンには初代ソヴィエト大使として前駐日大使トロナノフスキー氏が駐在することとなつた。

國際聯盟はチチエリン時代のソヴィエト政府が『資本主義列強の討赤同盟機關』となし、終始敵視して來たところである。然るにリトヴィノフ氏の外相となるや、國際聯盟に對する従来の態度を一變し、却てこれに接近する方針に打つて變り、つひに自ら進んでこの聯盟に加入するに至つた。しかしてソヴィエト聯邦の聯盟加入の動機は、その當時スターリン氏の表明した如く『國際聯盟は、世界平和の確保上有力なる機關であると認められたからである』といふのである。即ちソヴィエト政府は、平和確保のために、革命當初來の傳統政策をさへ抛擲して、國際聯盟加入の決斷に出たのである。

對獨より對佛握手へ

ソヴェイト政府の歐洲方面における平和外交の最初の努力は、獨佛伊等の列強を初めとして、西隣諸小邦ならびに近東諸國の不可侵條約の締結と、西南隣接諸國との『侵略國定義協定』の成立にあつた。しかして、この間、リトヴィノフ外相の最も苦心した點は、佛國との接近であるとしなければならぬ。革命の當初からつひ三、四年前まで、歐洲列強中、多少でもソヴェイト聯邦に對して、好意的態度をとつたのは、たゞドイツ一國のみである。資本主義の列強中でも、ドイツだけは、一つは戰敗國として、英佛伊等の戰勝國に對して、反感を抱いてゐたのと、今一つはその國際的立場の苦しい點において、ソヴェイト聯邦と、相似た状態にあつた關係から、ドイツは『赤いロシア』に對し、これを忌避し、嫌惡するといふより、むしろ同情し、接近したのである。しかしてソヴェイト聯邦が、ドイツと接近すればするほど、フランスとそりがあわなくなつたことは、當然の勢ひである。殊にフランスは對露債權國の筆頭國として、國債を踏み倒したソヴェイト政府に對し最も強硬な態度に出たのである。加ふるに、フランスの保護下にあつたポーランドが常にソヴェイト聯邦及びドイツの兩國から壓迫を受けたので、フランスはポーランドを庇護する關係からしても、ロシアに對して敵意を深くしたのである。然るにこの形勢は、最近三、四年の間に急轉直下的に變化した。ドイツはナチスの世となり、ヒットラーの天下となるや、その親露態度を一擲し、やゝもすれば、ソヴェイト聯邦を西方から脅威するの姿勢をとることゝなつた。ヒットラーがその著書『マイン・カムフ』において、

『新ドイツの使命は東方にある。しかしてそれは、領土的發展を主眼とする。』と喝破したことは、たとひそれが一つの對佛カムフラージュの宣傳であるかも知れぬにせよ、ソヴェイト當局が、これを眞に受け、ドイツに對して、非常警戒を張つたのは、當然のことである。否、ソヴェイト政府をしてその西方國境に、脅威を感ぜしめた原因は、これのみに止まらない。即ちポーランドがドイツのファツシヨ化以來フランスの保護から離れて、ドイツに接近し、従つてドイツと同じく對露敵對態度をとるに至つたことは、相手は小國であつても、直接國境を接してゐることゝして、ソヴェイト聯邦には、嚴しくこたへたわけである。獨、波の提携結成は實にソヴェイト聯邦にとつて、由々しい脅威であらねばならぬ。しかし同じ程度にフランスもまたドイツを警戒せねばならぬ形勢となり、こゝについで三、四年前まで睚眦合つてゐた佛ソ兩國は、俄然從來の敵對關係をすて、互ひに手をのべ、對獨共同戰線を張ることゝなつた。

シアに對して敵意を深くしたのである。然るにこの形勢は、最近三、四年の間に急轉直下的に變化した。ドイツはナチスの世となり、ヒットラーの天下となるや、その親露態度を一擲し、やゝもすれば、ソヴェイト聯邦を西方から脅威するの姿勢をとることゝなつた。ヒットラーがその著書『マイン・カムフ』において、

假想敵國ドイツ

ソヴェエト政府の對佛接近の第一歩は、佛ソ不可侵條約の締結で、その第二歩は佛國政府と、もに東歐ロカルノ條約の締結を提唱したことである。モスクワとパリの間には頻々政客往來し、協力もつてナチス・ドイツの爆彈行爲に備ふべく、出來得べくんば、ドイツ及びポーランドをも包容して、歐洲現状の確保を劃策したのであるが、東歐條約は、ドイツ及びポーランドの反對によつて、一大頓挫を來たした。然し、その代り、一九三五年五月二日、佛ソ兩國政府の間に、新たに相互援助條約が締結された。同條約は國際聯盟の規約範圍を出でないことを條件としてゐるが、ドイツへ對する軍事同盟であることはいふまでもない。その後引續いて、チエツコ・スロヴァキアとも同様の條約が締結され、更に他の關係諸國をも、この相互援助條約の圈内に引入るべく、佛ソ兩國政府は、百方その勧誘につとめてゐる。但し佛ソ條約に對しては佛國內部に、種々の議論があり、上下兩院の通過を見たのは、漸やく本年三月のことである。要するに、ソヴェエト政府の對歐外交は、主としてドイツを假想敵國となし、他の列國と協力してこれにそなへ、特に西南隣接諸邦との間には不可侵條約及び侵略國定義協定、對獨利害において最も大きな共通點を有するフランス及びチエツコ・スロヴァキアとは相互援助條約を締結し、二重三重に平和確保の保障を築き上げたわけである。

『退いて守る』對極東外交

一方東洋方面に對しても、ソヴェエト政府は、特に滿洲事變以來頻りに平和工作を焦せり、日本政府に對しては不可侵條約、滿洲國政府に向つては、北滿鐵道讓渡を提議し、百方日滿兩國との衝突を避ける方針をとつた。

ソヴェエト政府は北鐵讓渡を決意すると、特に外務省極東局長カズロフスキー氏を東京に派し、日滿兩國との間に交渉を進めること足かけ三年に及び、つひに三國紛争の『最大禍根』たる北鐵問題を根本的に解決した。この一事、たしかに、クレムリンの日本に對する平和方針を、最も力強く立證したものだといはなければならぬ。

然し、ソヴェエト政府は、一方北滿鐵道の讓渡によつて、北滿洲より後退したと同時に、他の一方滿洲國境一帯において、トーチカと稱する新式要塞網を築造し、いはゆる『退いて守る』姿勢をとり、これがため、滿洲國內における對ソ紛争は絶えたが、滿洲國境一帯の空氣は却て異常の緊張

を示すことゝなつた。最近、右の如き満ソ間の國境紛争に引きつゞき、外蒙古と滿洲國との間に、同様の國境事故が頻發し、且つ、外蒙古問題の國際化するにつれて、ソヴェト政府の極東政策は俄かに硬化して來た。しかして最近ウラン・バートル（庫倫）において、ソ蒙代表が相互援助條約を締結したことは、いふまでもなくソヴェト政府が、いよゝゝ外蒙古を以てその保護國となし、場合によつては、武力をもつてこれを援助するの決意を内外に向つて明示したものと見なければならぬ。

平和と軍擴の積極策へ轉換

かくして、最近三、四年間のソヴェト外交は、一面、たしかに不可侵條約、侵略國定義協定の締結、國際聯盟への加入、米國との國交回復等々、平和政策の遂行において殆んどトン／＼拍子の成功を續けて來たが、しかし、他の一面、東西同時にドイツ及び日本といふ強敵をひかえることゝなつたわけで、ソヴェト政府はこれに對し、外交だけでは、不十分であるとなし、この三、四年間、東西兩方面に對し、軍備の大擴張を決定した。

今年初頭のソヴェト議會において、首相モロトフ氏と國防次官トハチエフスキー元帥とは、東

西兩方面からの脅威に對する警戒の急務を叫び、莫大なる國防費の支出を要求した。即ちソヴェト政府は、陸海空軍費をあはせて一昨年度に五十億ルーブル、昨年度に八十二億ルーブルを投じ、本年度の豫算においては、百四十八億ルーブルの巨費を計上し、赤色軍の常備兵力を一昨年度において六十五萬より九十四萬に、昨年度において百卅萬に増員し、本年度には更に百五十萬に漕ぎつけるであらうといはれてゐる。しかして、ソヴェト外交が、最近特に各方面に對し、積極的となつたのは、一つは軍備の強化といふ強力なる後援を得た結果であると思へ、同じ「平和の確保」を目標としても、従來の不可侵條約や侵略國定義協定の如き「積極工作」から相互援助條約といふ「積極工作」に一步を進めたのは、その最も適切なる目前の實例である。

現在の動き

ソヴェト外交はかくして最初、第一、トロツキー時代の『外交無用論』もしくは『無電外交』にスタートを切り、第二、チチエリン時代の『表は平和裏は赤化』の二元外交を経て、最後に第三、リトヴィノフ時代の『資本主義國との協調時代』に入り、今日に及んだのである。しかしてリトヴィノフ外交は、或は列國と不可侵條約、侵略國定義協定、相互援助條約等々幾多平和保障の條

約を締結し、或は自ら進んで國際聯盟に加入するなど、從來の孤立状態から脱却して、資本主義國の列伍の中に投入するの方針に邁進し、すでに幾多の成功を勝ち得たが、しかしまた西において、ドイツ及びポーランド、東においては日本及び滿洲國と反目し、東西同時に、強敵の脅威を受くることとなつた。こゝにおいて最近のソヴェト外交は、先づ一方ドイツ及び日本との衝突緩和の工作を進めると同時に他の一方、なるべく多數の第三國と提携して、對日獨共同戦線をはることに、最大の努力を注いでゐるのである。しかして特に昨年から本年にかけて成立したフランス、チエツコ・スロヴァキア及び外蒙古との相互援助條約は、この點におけるソヴェト外交の最も大きな成功と見るべきであらう。

産業篇

一、異色の産業界

全國産業機關の國營化

地球の六分の一を占める廣大なソ聯邦の領土には鑛産、林産、水産、電力源、農産など汲みつくせぬ富源が藏されてゐる。その探査と開發は近年に至つて益々進められて、世界記録的な事實が絶えず報ぜられてゐる。この豊かな資源が社會主義建設の重要な基礎であることはいふまでもない。またかゝる無盡藏の資源なくしては社會主義社會も從つて共產主義社會の實現は絶對困難なものとしなければならぬ。

ソ聯邦の産業原則は何よりもまづ社會主義經營といふことである。もつと具體的に言へば社會主義共和國による國營といふことである。つまり一切の産業機關を國有にしなければならぬといふの

である。そしてこの原則が第一、第二の五年計画によつて實現され、今日ではソ聯邦産業機關は百パーセント國家の一手に收められてしまつたのである。たゞごく一部の手工業および個人農が國營によらず私の經營を行つてゐるが、その占める生産はごく少く、その重要性は全く問題にならない。農業は大部分が共營農場となつてゐる。厳格な意味においては社會主義的な國營の所謂國營農場が大部分でなくてはならぬわけであるが、事實國營農場は共營農場の割そこゝである。ともかく大農組織の問題は既に一段落をつけたものといふべく従つてソ聯邦農産物收獲増加の道はただ今後の收獲時における政府當局の監督如何によつて左右されるものと考へることが出来る。

軍備においては自他共に世界第一を誇るに至つたソ聯邦の今後は各種産業においてもまた世界第一を誇るに至るべきを期してゐるものとしなければならぬ。スターリンの言葉を引用すれば「ソ聯邦の今日は社會主義社會から人類のバラダイスであるべき共產主義社會の第一の段階に踏み込まんとする新時代である」といふのである。即ち人間が各々自己の働きの量に應じて報酬を受くべき現在の社會主義社會は漸次姿を變へて新時代に入らんとしてゐるのである。しかしてその新時代とは即ち人間は報酬に關係なく働けるだけ働く、その代り人間は自分に必要なだけの物資を收得する共產主義社會の實現である、といふのである。もしこのバラダイスに生活を享樂せんとするもの

はスターリニズムに忠實に働いて働き抜け、そして産業を益々振興し、生産を多くせよといふことがソ聯邦の今日の聲である。もとよりかういふ時代を出現させるがためには産業各部門の著しき能率増進、生産増加を期することに一大馬力をかけねばならない。今日のソ聯邦産業はこの主義の下に大飛躍時代に入つたのである。

スタハーノフ運動の意義

ここでまづソ聯邦今日の産業を語るには最近ソ聯邦の全産業を風靡してゐるスタハーノフ運動を最初に紹介せねばならない。

スタハーノフとはそも／＼何か、スタハーノフ運動とはそも／＼どういふ運動をいふのであるかを説明せねばならない。

スタハーノフとはソ聯邦ウクライナ炭坑に働く一労働班長の姓名である。かれは昨一九三五年九月一日に石炭採掘に物凄いレコードを作つたのである。つまりかれは今日までの石炭採掘労働法を合理的に研究し一日に今日までの採掘量の五、六倍を生出し、ついには廿五倍まで産出したのである。ソ聯邦當局がかれのこの物凄い労働ぶりを激稱したのはいふまでもない。このスタハーノ

フ氏の労働ぶりをソ聯邦全産業労働者の模範としてこそソ聯邦今日の産業に一大革命を来さしうるのであると考へたのは當然である。こゝにおいてスタハーフの名を附した全産業の能率増進運動が大宣傳され開始されるに至つたのである。一労働者が一人倍の能率をあげたといふだけのことであるとするれば、ことそのことは外國ならば別に大して珍しいことでもなく、またあれほどまでに大騒ぎとなるものではない。しかしソ聯邦では第二五年計畫終了の前年に當つて、ちようと各産業生産増大の必要に迫られ労働能率の増進法が考究されてゐる矢先のことであつたので、かれはこゝにたちまち英雄の如く歴史的人物として押上げられてしまつたのである。もう少し具體的に説明すればスタハーフ氏は六時間労働で百二トンの石炭を掘り出すことに成功したのであるから、今日までの平均一人分六乃至七トンの生産に比べると正に十數人分の能率を上げた結果となつたのである。

とにかくソ聯邦ではこれを機會に石炭のみに止らず一般産業にわたつて頗る貧弱な労働生産力に一大刺戟を與へ、こゝに全國的、全産業線に互つて生産増加の猛運動を開始するに至つたのである。こゝにおいてソ聯邦ではスタハーフに非ずんば人に非ずといふような状態となり、政府も刊行物もこの運動にやんやと太鼓を打ち出したのである。ついには三千名に上る各産業のスタハーフ

フ労働者がクレムリンに招待されるに至り、中には砂糖大根栽培に豫定以上の大收穫を挙げたといふのでコルホーズの十七歳の娘がスタハーフの列に加へられ、しかも革命に死を賭した古武者と同じレーニン勳章をさへ授けられるといふ騒ぎにまで立至つた。各産業部門はこれがため今日までの生産プランをすつかり新プランに変更し、猛烈な能率的労働が開始されたのである。この運動の猛烈さに反抗的態度をとるものが出たのは當然である。一時はサボタージュも起つた。技師達がたちまち第二五年計畫の末期の今日において新プラン立案の必要に迫られて不平を並べたつたのも無理からぬことである。また一方今日まで出来高拂ひの賃銀制度であつた關係上から猛烈な生産能率が發揮された以上、勢ひこゝに今日までの一労働者一日當りの生産標準がいきなりぐんと引上げられるに至つたのである。かくてはスタハーフの列に入りえない技師、労働者連中から反對の烽火が擧げられるのも亦やむをえぬことといはねばならない。もとより政府當局としてはこれら反對者に対しては反國家的分子として嚴重な處分を加へたのはいふまでもない。スタハーフ運動は種種の難關にぶつゝかつたが、ともかく今日着々成功を収め運動發生地ドンバスの如きは既に労働者の平均採炭量が約今日までの三倍近くになつてゐることである。また他の例を拾ふならばスターリンググラドのトラクター工場では今日まで七時間労働で一日にトラクター七十二臺そこゝを

生産してゐるが、この運動の結果百六十臺のレコードを出すに至り、つひに今後は一日百五十臺製造を正式標準とすることに決定した。トラクター一臺が二分半毎に製造されるといふ物凄い状態である。もしこの産業躍進の状態が今後押し通されるならば急テンボの飛躍を特長とするソ聯邦産業生産品の世界市場への進出はまことに一大驚異といはねばならない。

二、五年計畫の進展

産業界の現状

そこでひるがへつてソ聯邦産業界の現状に眼を轉じよう。ソ聯邦政府が一九二八年産業振興の五年計畫の實施に着手してから早くも七年を経過した。本年は既に第二次五年計畫第四年に當つてゐる。しかして本年をもつて露國政府はスタハーノフ運動の生産増加により第二次五年計畫を完了せりと發表する意向であると傳へられてゐる。さきに五年計畫が發表されるや、世界はその計畫に對して殆んど不可能な夢であると悲觀的觀測を下してゐたのである。しかし今日七年間の成績を通觀するに、その成績は明にこれが夢の如き計畫でなかつたことを雄辯に物語つてゐるのである。われら

は今その状況を再檢討して見よう。五年計畫の第一課題はあらゆる個人企業を撲滅しこれを國營若しくは公營とすること、換言すれば資本主義を根底より打倒して社會主義經濟を建設するといふにある。しかして今一つの課題は産業の工業化機械化によつて大いにその能率増進を計り全國の生産高を五ヶ年毎に倍加しようといふにある。

まづ第一個人工業について見るに現在ソ聯邦には前述の如くたゞ最後の殘骸をとめてゐるに過ぎず、工業は百パーセントの社會主義化に成功したものといはねばならない。ついで農業を見るにこれまた一九二八年頃には全國農業の九七パーセントまでが個人農の手にあつたものがこれまた現在では根こそぎ個人農を撲滅したものといふべく、僅かに數パーセントの個人農を残してゐるのみである。五年計畫の第二の課題であるところの生産高を五年毎に倍加しようといふのは驚くべき大計畫である。しかしかゝる大計畫の實行に當つてはもとより莫大な資金を必要とする。しかも社會主義建設のための資金を資本主義國に期待するは不可能なことである。こゝにおいてソ聯邦當局は五年計畫發表の劈頭、國家國民の收入の五割を動員してこの計畫資金に當てる決意を表明した。しかしてこの方針の下に第一次計畫のために投ぜられた資金は實に五百五億ルーブル、第二次五年計畫のためには一千三百卅四億ルーブル即ち第一次の二倍半の増加を示したのである。この第

二次の龐大な豫算を別の方法によつて考へると一分間毎に五萬七百六十一ルーブルを投ずることになるのである。

しからばかゝる大投資の結果はどうであるかを見なければならぬ。まづ何よりも特記しなければならぬことは全國産業の急激なる増加である。五年計畫は最初から工業に重點を置き産業の工業化、機械化を主としたので農業は工業に比し投資額も少く従つて、農業は工業に比しその生産高も増加のテンポがおそい、農業生産高は一九三二年の百卅一億ルーブルから一九三七年の二百六十二億ルーブル、即ち二倍の増加をなすことになつてゐるが工業は一九三二年の四百卅三億ルーブルを一九三七年度において九百廿七億ルーブル即ち二倍以上増加することに豫定してゐる。しかしかゝる急激な工業生産の増加には種々の弊害と無理が伴ひ、國民は非常な苦痛と犠牲をしのんだのである。勢ひ重工業に偏して輕工業が輕視された結果は國民生活に必須な日用品に大缺乏を來し、地方によつては一時は着るに服なく、はくに靴なしといふ慘狀を呈するに至つた。もとより政府としてはこの現状をそのまゝ放任することは出来なかつた。殊に第一次五年計畫の初に當つて五年計畫さへ完成すれば國民の生活は必ず幸福に、物資は豊富になると約束した手前、第二次五年計畫に當つては大いに輕工業に力を入れ織物類から靴類に至るまで生産増加に力を加へたので最近では目立

つて輕工業品が市中に現れるようになり國民は一時の不便な陰鬱生活を大いに明朗化するに至つたことは確である。

五年計畫の重點を重工業に

五年計畫の重點が重工業にあれば、この重工業發展のためには鐵と石炭が必要である。従つて露國は石炭、鐵の生産増加にまづ馬力をかけた、新聞紙は毎日鐵、石炭の生産高を發表し豫定量に達せぬ時は鞭撻し、豫定量超過の時はその功績を表彰するといふ方法までとるに至つた。この一事をもつてもいかに當局が鐵、石炭に力を入れたかを知ることが出来る。今その生産ぶりを見ると、一九二三年には鉄鐵が六百廿萬トン、銅鐵五百九十萬トンの生産ぶりであつたが一九三七年には鉄鐵一千六百萬トン、銅鐵一千七百萬トンを生産しようとしてゐる。石炭もまた一九三二年の六千四百卅二萬トンから一九三七年度は一億五千二百五十萬トンまで増加することになつてゐる。鐵は今日世界第三位、石炭は第四位を占めてゐる。もしスタハーフ運動によりこれが一層増加せんか、露國産業品の世界進出の脅威は想像に餘りあるのである。鐵、石炭に次いで露國重工業に力を與へるものは石油である。現代露國の最重要輸出品たる石油は露國産業中最も順調に進んでゐる事

業の一つである。第一次五年計畫においては最初の二年半で既に豫定生産量を超過し昨今ますます順調の道を辿つてゐる。石油生産のこの順調さはもとより無盡蔵に埋藏する天恵によるものであることは論を待たない。露國石油の最大産地は南露コーカサスのバクーを中心とする油田でその埋藏量の豊富、採油、製油設備の大規模は世界第一と稱され、最近十五年間の産油量は一億二千八百卅萬トンに上り、もしこれを普通型のタンク車に入れて一列車を組み立てんか、それは地球を二回四分の一巻くほどの長さには達するといはれる。バクーに次ぐのはグロースヌイ油田であるが、これらの舊油田が年々生産を増加しつつあると同時に各地に新油田が續々発見され、裏海の海中に石油の渦がまいたり、石油の噴水がトルキスタンの砂原に吹き出すといふような状態で石油は益々物凄く勢ひで増加し、米國に次ぐ第二の石油國にまでなつた。一九三二年の産額は二千二百十萬トンであつたが一九三七年にはこれを四千六百八十萬トンまで増加することになつてゐる。即ち前記タンク列車の比例によれば、一ヶ年の生産量で世界一周になん／＼とするタンク列車が出来るわけである。

三、經濟の中心漸次極東へ

こゝにおいてわれ／＼が特に注目しなければならぬことはソ聯邦の經濟的中心が急激なテンポによつて歐露からウラルを越えバイカルにおよび、そして極東地方に移動されつつあることである。ソ聯政府は極東地方の自給自足問題の解決を眞剣に研究し、この目的に向つて第二次五年計畫においては各種産業の開発に力を注ぎ種々なる施設が行はれつつあることは注目すべきである。なほ引つゞき行はるべき筈の第三次五年計畫においては一層この地方に重點が置かれるものと思はねばならない。

ソ聯邦當局がいかに極東地方の開発に力を注いでゐるか、二三の例を挙げれば更に明瞭とならう。

- 石炭 一九三三年の三百萬トンを三七年には一千二百萬トン。
- 石油 一九三三年の卅萬トンを三七年には百五十萬トン。
- 電力 三三年の六萬キロワットを三七年には四十萬キロワット。
- 林業 伐採三三年千萬立方メートルを三七年には二千五百萬立方メートル。
- 製材 三二年百八十萬立方メートルを三七年には四百六十萬立方メートル。
- 含鐵金屬 目下同金屬鑛業を建設中で三七年には四十四萬トン産出の豫定。

鐵道運輸 三三年の貨物運輸高八百八十萬トンを三七年には三千餘萬トン。

交通路 三七年末までに一萬六千キロの新道路建設。

以上の外あらゆる部内の開發に乗り出してゐるが就中、滿洲國に接したユダヤ人移住地たるビロビジャン自治共和國における自然富源たる鐵礦、石炭、石綿、石鉛、マグネツト鈔、或は外蒙古と境を接したブリヤート蒙古共和國内の石炭等の生産には特に力を注いで成功を期してゐる。

かく極東地方に産業の中心をおくにいたつたことは言ふまでもなく極東は極東で自然自給自足、獨立體形をとれるやうにしたのがその本意で、昨年來ソ聯邦當局が口を揃へて國防上におけるヨロツバと極東の二分説をとなへた如く、産業もこれと同様の歩みをとつてゐるのである。

なほ石油、重油、揮發油等を獲る極東唯一の工場にして、將來極東における軍需工業の一大據點となる製油工場始め自動車修理工場、發電所、農具工場、製粉合同等がハバロフスクに建設される外、セメント、石灰、煉瓦、發電所、造船、製鍊、製糖、製麵工場等二十有餘の各種工場が極東各地に建設され、これ等の中には既に竣工してゐるものもあるが、いづれにしても本年中には全部完成、直ちに生産、作業を開始する筈であるからその結果は見るべきものがあらうことはいふまでもない。(極東の鐵道計畫は「明日の新領域」参照)

四、ソ聯邦産業の缺陷

しかしながらソ聯邦の産業にも缺點が大いにある。こゝにそれを挙げて見るならば、

一、單一國民經濟計畫の結果、一産業部門における故障とか齟齬は直ちに他のこれと關係ある産業に影響して廣く計畫遂行に齟齬を來すことである。例へば昨年度は採炭業が極めて不振であつたので、ゴスプランから採炭業の不成績はソ聯邦國民經濟を立止らせるものであるといはれたほどである。

二、各企業機關が國營であるために官僚主義に陥り易い。この現象が顯著であるためにソ聯邦當局は官僚主義排撃運動を起してゐる。

三、鐵道事業の不振のため運輸が亂脈を極め産業發達に著しい妨害を與へてゐる。

四、資本主義社會では利益の收得が生産を刺戟してゐるが、ソ聯邦においてはこれがないため計畫遂行上に多大の困難を來すことがある。これがために或は工場と工場、或は甲ソフホーズと乙ソフホーズの間において生産の大小、品質の良否等を競争せしめ、優良なるものを表彰したり、乃至は前述のスタハーノフ運動によつて働く者にはいくらでもその量に應じて報酬を與へるといふ方

法等々によつてこの缺陷を克服して計畫を遂行することに命がけともいふべき努力を拂つてゐるのである。

五、重大意義をもつ鐵道

ソ聯邦における鐵道は經濟、國防上、特に重大なる意義を持つてゐる。

西部支那に沿ふて走るトルクシブ鐵道を初めウラル・クズバス、ノヴォシビルスク・レーニンスク、トロイツク・オルスク鐵道その他第一次五年計畫に完成した新線五十、總延長五千五百卅三キロに達してゐるが、いづれも經濟、國防上の見地より建設されてゐる。

國土の大きいのと、全機關を國家の手に收めてゐる關係上運輸、交通機關の根幹をなす鐵道建設には非常に力を注いだ。

帝政時代一九一三年五萬八千キロの鐵道線をもつてゐたロシアはソ聯邦となり革命、國內戰爭等によつて各地とも大破壊を蒙つたが、これを漸次回復し一九三一年には總延長七萬八千四百餘キロ、同三四年八萬三千二百餘キロに達したが、三五年更に千キロを新設して同年末には八萬四千餘キロとなつた。

かくの如き鐵道線の建設もただ建設のみではその目的を達しないのは當然で、これに伴ふに機關車、貨車、技術員等が揃はねばならぬ。

ところが路線の延長に比例して他の方面は従來圓滿な發達を遂げえなかつた。これがため各地の產物乃至は軍隊輸送等に大支障を來たし一時ソ聯邦の鐵道はもつともおくれたもの一つに算へられた程で、シベリア線のウラヂオ、モスクワ間で二三日遅延する事もあつた。

これがため、殊に極東地方へ軍隊の集中の必要にせまられ且つこれに對する物資の補給に事かくなつたので、この方面に一大改革の手がさしのべられ、しかもスターリン輩下の四天王といはれるカガノーヴィチ自ら交通大臣として乗り出してこれにあたつた。

本年初めかれカガノーヴィチはわざ／＼極東地方視察に出かけて來、ザバイカル、ウスリー兩鐵道の複線化を急速に完成すべきことを命令したりしたが、政治の總てがスターリンの完全なる統制下にある以上カガノーヴィチの一舉手一投足も亦スターリン政策の現れ以外のなものでもなくかれの言つたことは必ず將來斷行、實現されることは間違ひない。

殊に面白いのは鐵道は運輸、交通がその任務であるが、軍隊を輸送し、これに伴ふ物資の補給が必要とあれば全機能をこれに向ける。ソ聯邦では、一般國民の勝手な旅行はかなり厄介で簡單に出

来ないが、よし動き出しても貨物輸送に急を要する場合には客車は貨物車の通るまで待避線へさげねばならぬといふ有様である。だから客車はむやみにおくられる。國家が一目的に向つて進む場合には全機關は總てこれに追隨するのである以上これも當然であらうが實に徹底したものである。

國防篇

一時一に世界赤化、二に世界共產化の烽火を擧げ、所謂「赤い線」によつてその外廓を築いてゐたソヴェト聯邦は近來頻りに自ら軍備擴張を論じ、最近では強化された赤軍は世界有數、否世界隨一であるとして誇示、豪語するにいたつた。この油がきゝすぎてか世界各國は「赤化」の脅威より、むしろ擴充されたその軍備によつて威壓を受けるやうになつた。

「東西何れの國境においても國防を強化するため赤軍の準備は既に成れり」と赤軍幹部が口を揃へて豪語するのみか、事實表面に現はれた逐年激増する赤軍兵力、或は國防費等を見ればその擴大振りは一目瞭然である。こればかりでなくメーデー及び革命記念日の春秋二回の國祭日にモスクワ始めソ聯邦内各主要中心地において行はれる閱兵式に出動する赤軍が毎回その陣容を充實し、或は特別大演習等で示される赤軍の擴充振り、且つは極東滿ソ國境地帯等における頻々たる赤軍の越境、不法射撃等その積極的行動によつて赤軍威力は可成り各方面に強く印象づけられ、赤軍おそるべしの聲さへ揚るにいたつた。

かゝる情勢にあるが故に現在のソ聯邦の實相を知らんとするには赤軍の實體、即ち赤軍の任務、内容等を検討、熟知することが緊要であり、むしろ第一義的のものとなつた。

一、赤軍の實體

赤軍は果して強いか

しからは現在の赤軍は果して強いか、この問題は何人も知らんと欲するところであるが、この疑問符を解き得るものはおそらく何人もあるまい、相手と比較、對照して初めてその強弱が判別する以上赤軍が果して強いか、いづれと比較して強いかしかく簡單にはわからぬ、しかし現在示されてゐる實體を検討してその程度を推測することは不可能ではない。

本年一月十五日モスクワで開かれた中央執行委員會總會の席上國防次官トハチエフスキー元帥は國防に關し「ソ聯邦は東方日本、西方ドイツより受くる威嚇に對し東西双方において同時に國防を充實するの必要に迫られた、陸軍に關しては編成を變更し從來正規師團と民兵師團の割合二六%對

七四%であつたものを反對に七七%對二三%たらしめ又空軍についても大なる發達を遂げしめた。海軍も亦潜水艦の發達に力を注ぎ、他の艦種についても絶えず擴張せしめ、水上機も亦増大せしめた結果今や赤軍總兵力は百三十萬人に達した」と論じた。

いまこの兵力數を見るにソ聯當局の公表によるも一昨年六十餘萬であつた赤軍が昨年九十四萬となり本年は更に百三十萬といふ激増振りである以上、數字上の増加率に比例して内容、兵備の充實が果してどの程度に達してゐるか疑問である。

又國防豫算は左の如くである。(單位千ルーブル)

一九二七年度	六三五、四八〇	一九三二年度	一、三九六、五〇〇
一九二八年度	七八〇、〇〇〇	一九三三年度	一、五七三、七〇〇
一九二九年度	九七九、〇〇〇	一九三四年度	一、七九五、〇〇〇
一九三〇年度	一、一五九、〇〇〇	一九三五年度	八、二〇〇、〇〇〇
一九三一年度	一、三九〇、〇〇〇	一九三六年度	一四、八一六、〇〇〇

(實際支出額)

赤 軍 の 實 體

以上の數字より見るも一、二兩年間の激増振りは驚くべきものである。而して右の如き著しき軍事費の膨脹に對しその理由として昨年度は空軍、装甲隊及化學隊の整備充實、本年度は赤軍員數の

増加その技術的裝備の強化、兵營及び住宅の増設、政治教育施設、切符制度廢止に依る支出増加等を擧げてゐるが、この豫算數字の増加が直ちに軍の内容強化に貢献してゐるとは考へられぬ。無論ソヴェト聯邦の如くスターリン政權のもとに完全に統制されてゐる(政治篇参照)政治のもとにおいては國防豫算の割當、赤軍の擴充等は必要に應じ、何等の躊躇なく斷行出來るのである。それを他國の嫌ふ國防力、國防費を何が故に麗々しく誇示するか、そこに疑問をさし挾まざるを得ない。

スターリン政權確立後のソ聯邦は對外的に「平和」「協調」外交をとのふると共に軍備即平和の主張を露骨に示して來た。

本年三月ドイツがロカルノ條約破棄の爆彈通告を發してライランドの非武装地帯に侵入するや周章て、フランス上院は懸案中の佛ソ相互援助條約案を批准した。右條約が佛ソ間に締結されるにいたつた主なる原因は對獨共同戰線であるが、フランスがソ聯邦に接近した動機はフランス前空相ピエール・コットが一九三四年ソ聯邦を訪問した際その空軍を見せられその威力に驚嘆した結果であるといはれてゐる。それ程ソ聯邦の軍備は外交上に利用され、又貢獻してゐるのである。クレムリンの巨頭連が何を考へてゐるか不明であるが彼等の操縦によつて西に東に一糸亂れず動

作する政治機構である以上外交の背後に強力な赤軍のあることは如何にこれを有力化してゐるか想像するまでもない。

そしてまた西に東に赤軍の強大を誇示する必要にせまられてゐる關係上チャンスある毎にこれを赤裸々に示してゐるのも事實である。而してその積極的行動はいまのところ正面衝突を覺悟しての本意からではなく相手を見縊つての對内外示威運動と見られることが多い。

赤軍が今後國內産業の充實、發展とともに益々強化されるであらうことは論ずるまでもないが、現在の如く麗々しく數字を並べて豪語する間はなほソヴェト一流の宣傳が加味されてゐるとは明白で、眞にかれ等が自信をもつてその擴充を誇り得るのは即ち沈黙時代に入つた時ではなからうか。

赤軍の特色

赤軍建設の目的は資本主義諸國の攻撃に對しソヴェト聯邦を擁護するを主としてゐるが、なほ狀況によつては資本主義×××のプロレタリアートの××に際し之を××するを認め、赤軍野外教令中には赤軍任務として「赤軍は、ソ聯邦の防衛に任ずるとともに、その存在の事實を以つて、全世界における被壓迫勤勞民の自由解放に對する鬭争を支援するもの」なる旨を述べてゐる。



以上によつて明白なる如く赤軍は一面自國防衛に關しては他國の軍隊と異ならぬが、他面全世界における勤勞大衆の解放闘争を支援し、世界革命の強力な支柱をなすといふのが重大使命となつてゐるところにその特色がある。コミンテルン（政治篇参照）が第七回大會において世界革命の強力なる地盤たる祖國ソヴェトを守れと決議してゐる如く赤軍も同様世界革命への強固なる地盤たるべきソ聯邦の擁護にあたつてゐる。

強力な獨裁的政治機構と結ばれた赤軍が戦争指導に對して獨裁的力を多分に必要とすることは言ふまでもないが、この點ではソ聯邦の政治組織は極めて好都合に出来てゐる。軍の政治も他の政治同様少數の最高幹部によつて全く獨裁的に實施されてゐる（政治篇参照）戦争準備並に戦争指導乃至は國防強化等總て統一された獨裁力が平時より自由に活動出来るような組織になつてゐるのである。昨年始めの第七回ソヴェト大會の際トハチエフスキー國防次官は赤軍内における黨員比率に關し左の如く述べた。

わが赤軍中では黨員及共產青年同盟員は四九・三%の多數を占め、指揮官中にては六八・三%の高率に達してゐる。更に指揮官中の各階級別に見ると、聯隊長級では黨員七二%師團長級では九〇%軍團長級では一〇〇%に達してゐる。

勞農赤軍がボリシエヴィキの軍隊である以上、昨今の如くソ聯邦が「赤化」より軍擴の時代と化しても、来るべき時代には終局の目的として世界赤化に向ふべきは疑ひない。

赤軍の現勢

(イ) 兵役制度 ソヴェト共和國憲法の條文に「社會主義的祖國防護を以つて共和國人民の義務なりとし、人民皆兵の制を定む。武器を手にして革命を防護するの名譽權は勤勞民衆にのみこれを與へ、非勤勞分子は他の軍務に服せしむ」と規定してゐる。徹底せる國民皆兵主義であり、男子として兵役に服することを名譽なる權利となし、これに服することを許されぬ者（非勤勞者、身體に缺陷ある者、宗教上の信念によつて軍務に服せざる者）等は國家的作業、災害救済防止等の事業に賦役させられ又特別の税金を徴收される。

服役年限は十九歳より四十歳までで次の如く區分される。

B、召集前の準備教育を十九、廿歳の二年とし、二年間に二ヶ月の教育を實施する。

B、現役年限を五年とする。正規軍の種類及在營、歸休年限左の如し。

赤 軍 在營二年 歸休三年 空 軍 在營三年 歸休二年

海軍 在營三十四年 歸休二十一年
 ゲー・ペー・ウー 軍
 民兵は現役五年間に歩、砲兵は八ヶ月、騎兵十一ヶ月の召集教育を受ける。
 豫備役を十五年とし、廿六歳より卅四歳までを第一豫備役、卅五歳より四十歳までを第二豫備役とする。

(口) 平時現有兵力(昭和十一年一月現在)

正規軍、民兵軍基幹部	約七十五萬	飛行機	四千機以上
民兵軍交代部	約六十萬	戰車	四千臺以上
ゲー・ペー・ウー軍隊	約十六萬	機械化兵團	十數個
護送軍隊	約九萬	装甲自動車	千臺以上

二、國防第二線

軍備擴張と産業組織

獨裁政治下にあるソ聯邦における諸政治が如何に當局希望の通り意のまま實施されるか前篇にお

いて既に詳述されてゐるが、總ての産業もまた國營下にあるので時と必要に應じ總動員して國家の方針にむけられる。軍備が必要なれば産業各部門を直ちにこの方面に全面的にむけることが出来るのである。

一九三一年七月の共產黨大會の決議にも「五ヶ年計畫遂行に方り第一義的重要任務は、ソ聯邦の國防力増進に關係ある部分を發達せしむるに在り」と示してゐる如く産業、工業總て國家の手にある以上、政府の命令によつて「右向け」といへば即座に全産業が右に向くことはソ聯邦にとつて如何に好都合であるか、この統制振りは全く羨やましい許りである。

これを聞いて日本人の中には或は國民が不平を持つてあらうと考へるものもあらうが、政治篇で詳述されてゐる如く、政府―黨の最高機關の決定は絶対であり、國民には常に最善として教へられてゐるが故にこの懸念は絶対でない。國民はただ易々諾々とこれに服し、これを守るのみである。

化學戰準備施設

一九二二年頃より將來における化學戰の必現を豫期して軍部及び民間で諸種の施設を行つてゐることは注目に値する。

A、軍部の施設

イ、化學戰特別研究委員會

ロ、化學戰部——化學兵器研究所

化學兵器製造所、化學戰大學（將校教育）

高等化學戰學校（將校教育）

速成化學戰學校（下士以下教育）

化學聯隊（化學獨立大隊）

ハ、軍隊における化學戰部隊

化學戰施行のため小單位部隊に至るまで總て化學戰部隊を設けてゐる。

B、民間の施設

特筆すべきは國防飛行化學協會の施設である。同協會は第二線の國防擔當機關として重大なる意義を持つてゐる。

一九二七年一月國防飛行協會と飛行化學協會の合同によつて同協會が組織されて以來年々發展し本年一月會員千八百萬人を數ふるにいたつた。同協會は又「婦人を國防に近づけよ」との標語の

下に婦人會員を勧誘し現在六百萬人の婦人會員がある。

同協會の事業は軍事訓練、軍事宣傳、航空事業の發達普及、對化學戰防護並に防空、體育、乘馬、軍用犬、傳書鳩の養成、海事、農業等廣範圍に亘り直接、間接國防に關係ある殆んど一切の事項を包含してゐるがその主要なるものは左の如くである。

イ、軍事教育 大衆に對する軍事訓練の機關として數萬の射擊團體並に軍事技術團體を有してゐる。軍事教育を行ふため各所に軍事訓練所を設け多數の青年に呼びかけてゐるが現に設置されてゐるそれ等の機關は、軍事知識クラブ二七、八〇〇ヶ所、射擊クラブ一六、〇〇〇ヶ所に達してゐる。

ロ、航空事業 國民に航空思想普及宣傳のため飛行競技會、巡回飛行、講演會を開催する。飛行知識普及會の數は既に二千四百、飛行クラブ二千餘に達してゐる。

航空要員養成に關しては「模型飛行機よりグライダーへ」、「グライダーより輕飛行機へ」、「輕飛行機より軍用機へ」の標語をもつて兒童青年に呼びかけ効果をあげてゐる。同協會は飛行機數百をもち、赤軍への獻納機六、七百を算へてゐる。

この外グライダー學校二百五十、パラシュート學校廿、主要都市におけるパラシュート練習塔は千個以上に達してゐる。

ハ、化學防空事業 對瓦斯並に防空教育に努力してゐる。

三、復興目醒しき海軍

海軍充實緒に就く

ソヴェエト聯邦の海軍はその國土、地勢の關係上陸軍に比し劣勢である。日露戦争による帝政ロシアの大艦隊滅亡後、海軍復興運動が起つたが、その計畫中歐洲大戰、革命國內戦と引續き勃發したため極度に縮小、先づ陸軍と空軍に力が注がれた結果海軍に關しては消極的であつた。

その後漸次補充計畫をたて一九二九年五月海軍部長は「過去二年間において赤色海軍は着々整理を進め、六隻廢艦處分を行ひ十隻新造せるを以つて實勢力において一萬三千トンを増加した」と聲明したが、その十隻は小型軍艦であつた。しかしこの頃より外海の演習或はドイツ訪問等に出かけたことより見るも、その後のソ聯海軍は整理時代に入り今や漸やく充實期に入つたものと見られる。

現在は防禦に必要程度の兵力整備であるが、本年初頭の中央執行委員會總會の際國防次官トハチエフスキー元帥が「従來は潜水艦を主とする奇襲小艦艇の建造に努めたるも今後はその他の艦種、

水上艦艇にも及ぶ云々」とその方針を披露した如く、責任當局がかく海軍の擴充を計畫してゐる以上、これまで國防費の一二%といふ少額が海軍費にあてられてゐたが今後陸、空軍の充實とともに、海軍方面の豫算は何倍かに増加されるであらうし、その曉こそ急テンボの擴充がなされるものと信ぜられる。

赤色艦隊の陣容と軍、要港

赤色艦隊はバルチック艦隊を主力とし、黒海、裏海、極東(太平洋) 黒龍江艦隊の五隊に分れ、その軍、要港は左の如くである。

- △軍港 レーニングレード、クロンシュタット、ウラヂオストツク、ボシエツト、セワストーポリ
- △要港 アルハンゲリスク、ハバロフスク、ニコラーエフ
- 各艦隊の現陣容 (極東 黒龍江兩艦隊は次項に別掲)
- イ、バルチック艦隊

戰艦 (舊式改装) 三隻 (二二、〇〇〇ト)	練習艦 (戰艦) 一隻 (一一九、〇〇〇ト)
同 三〇センチ砲一二門速力二二ノット)	同 (巡洋艦) 一隻 (六、八〇〇ト)
同	同 (砲艦二隻) (二、七〇〇ト、一、三

〇〇トン)

驅逐艦(大型)十二隻(一、三〇〇トン)

(小型)三隻(六〇〇トン)

水雷艇 十七隻

潜水艦 約五十隻(一、〇〇〇トン乃至八〇

〇トン)

潜水母艦 二隻(約三、〇〇〇トン)

その他補助艦艇若干

ロ、黒海艦隊

戦艦(舊式改装二隻)(二、三〇〇〇トン、三

〇センチ一二門 二三ノット、二三、〇〇〇

トン、三〇センチ四門)

巡洋艦 三隻(一隻七、六〇〇トン、二〇セ

ンチ四門、三三ノット、二隻六、八〇〇ト

ン、一三センチ一五門、二六ノット)

練習艦(巡)一隻(六、八〇〇トン、一三セ

ンチ一四門、二三ノット)

驅逐艦(大型)七隻(約一、二〇〇トン、三

三ノット)

(小型)廿二隻(約四〇〇トン)

水雷艇 三隻(約四〇〇トン)

潜水艦 約廿隻(一、〇〇〇トン乃至八〇〇

トン)

潜水母艦 一隻(三、〇〇〇トン)

その他補助艦艇若干

ハ、裏海艦隊

砲艦 二隻(六〇〇トン)

水雷艇六隻(五八〇トン) その他若干

因にソ聯邦における造船所は大型艦建造能力あるレニングラード、ニコラーエフ兩所外セワスト

1ボリ、クロンシュタット、ウラヂオ、ハバロフスク、コムソモリスク(建造中)等がある。

四、極東軍備の現勢

極東國境強化熱

一昨年二月、極東軍司令官ブルユーヘルは「極東における日ソ關係」の題下に日滿兩國を攻撃し

われは日本帝國主義の軍事工作を觀察して無關心でありえない。故にソヴェト極東の國防に關しては黨及び政府の決定に基き目下方策が講ぜられてゐる。この方策とは何か、先づ第一は國境の強化である。われはわが國境を固く鎖した。わが國境は鐵筋コンクリートで固められ、最も丈夫な齒に對してさへ持ち堪へることの出来る程堅固となつた。第二は軍隊の強化である。軍隊は優秀な幹部によつて強化された。その増大の數字について今述べる必要がないが、わが軍隊は質的にも又數的にもわれが安んじてその業務を繼續し得る程度に達してゐる。次にわが黨及びスターリンは何事かを始むれば必ず終りまで成し遂げることは周知の事である。極東の國防も終局までなし遂げらるゝであらう。

と論じ、また昨年一月末のソヴィエト大會において國防次官トハチエフスキー元帥はわれ等は極東における諸情勢紛糾前、極東に有する新式戦闘技術手段の配備を以ては満足することが出来なかつた。わが國は領土が廣大であるから一九一四—一八年ドイツが東西兩戦線の間を機動した如くには機動することは不可能である。一九一四年ドイツ軍司令部は六日乃至七日を以て佛國戦線より東プロシア戦線に歩兵六ヶ師團を移動せしめたがソ聯邦にあつては全く事情を異にしてゐる。ドイツはベルリンよりリエーンまで鐵道により歩兵一個師團を集結する爲千五百萬キロを要したに過ぎないがわれ等は同じく一個師團をモスクワよりウラヂオへ移駐するためには二億キロを要するであらう。従つて所謂國內作戦輸送機關による大軍の迅速なる移駐には餘り期待をかけることが出来ないから、西部國境並に東部國境はこれを別々に確保しなければならぬ、最も可動性に富む空軍すらも必要に應じて東部より西部へ移駐するとは困難である。右の事情に鑑みわれ等は極東に完全なる一體制をなす獨立航空、戰車、砲兵部隊を設置するの餘儀なきに至つたと述べ豫算を増加すると共に赤軍兵力を従來の六十餘萬より九十四萬に増兵し、更に本年にいたつては極東における空軍、海軍力の充實をもつて豫算を激増、且つまた總兵力を百卅萬に増加したのである。

かくの如き赤軍當局の再度の聲明、或は對極東軍備の積極的態度によつて軍備熱を煽つたため近年兵力に「トーチカ」堡壘に、空軍に、極東軍はとみに強化された。

極東軍の實力

極東ソ領の赤軍は極東特別軍編成前は歩兵三師團、騎兵二旅團であつたが一九二九年の露支紛争後一ヶ師團を増加し、こゝに極東特別軍が編成されブリユーヘル元帥が總司令となり、クラスノヤルスク以東の警備に任じた。その後滿洲事變と共にシベリア、歐露より兵力を増派、次第に強化し現在においては兵力廿數萬、飛行機九百、戰車また八百（海軍別項）を算ふるにいたつた。該飛行機中には百前後の超重爆撃機（搭載量約七トン、航続距離二、五〇〇キロ）が整備されてゐる。また滿洲國との接境地中樞要の地區即ちボグラニーチナヤの東方地區、黑龍江及び松花江合流地區、ブラゴウエ附近乃至は滿洲里西方地帯には最新ベトン式「トーチカ」築城、鐵條網等をもつて永久要塞地帯を構築した。

極東海軍

極東における海軍は陸、空軍同様、歐洲方面におけるドイツの脅威と極東方面不安の情勢に鑑み、兩方面に獨立の作戰をなし得るやうな海軍を建設せんとしてゐる。滿洲事變前老朽海防艦數隻であつたがその後最新式各種艦を建造、移入して整備した結果大體左の如き陣容となつてゐる。

△極東艦隊

潜水艦 約四十隻（一、〇〇〇トン乃至四〇〇トン）
驅逐艦 五隻（約八〇〇トン）
驅潛艇（高速度）數十隻
假裝巡洋艦 約十五隻
碎氷船 四隻

△黑龍江艦隊

砲艦（大型）十隻（一、〇〇〇トン、一五乃至一二センチ數門）
（小型）七隻（三五〇乃至二〇〇トン八センチ二門）
砲艇 約卅隻（三〇乃至一〇〇トン機銃）

五 目醒しき航空界

一流の航空國

ソヴイェト聯邦の如く陸地續きの大陸を擁した國家が航空事業に全力を注ぐことはただ國防上の見地からのみならず、運輸、交通上よりするも當然のことである。が今日その機數といひ、航空距

離、運輸能力乃至は整備の點よりするも歐米列強に比し殆んど遜色ないのみか、寧ろ先進國の一に算へらるゝにいたつたことは實に驚くべき躍進振りである。

しかも革命後の二、三年間は國內騷亂のため全く不振の状態にあつた。政府當局が本格的に努力し始めたのは一九二二年頃であつたが軍事航空施設の大擴張とともに非軍用航空界も頓に活況を呈して來た。しかし非軍用航空事業が實際的に活動を開始したのは一九二三年以後であるから、眞にソ聯邦航空界が躍進し出したのは、僅か十年程の間である。

最高政治機關の決定によつて各關係部門が一致協力、これが完成に邁進出來ることにソ聯邦の得意とするところであるが、航空界もまたこの波に乗つて大躍進をなしたのである。

空軍の威力

空軍の兵力は一九二二年陸上部隊約廿中隊を擁するに過ぎなかつたが、一九二五年約八十中隊、二八年約百中隊となり今や三百五十中隊、その機數四千臺以上を算へ世界に冠たる存在となつた。就中、戦闘、爆撃機の増加、發達は驚くべきものといはれてゐる。

これ等空軍の充實、擴張に對しては最初、ドイツ、イタリー、イギリス、フランス等の諸國よ

り器材、飛行機を購入し、専門家を聘して航空機製造工場の整備をなしたものであるが、第一次五ヶ年計画の進捗と共に、航空工業及びその原料資源開發が促進され且つ技術、専門家の養成が敏速に行はれたため、現在においては、自力によつてどしどし新鋭機が製造されるやうになつた。

ソ聯那空軍が世界に誇示してゐるものに空中投下部隊がある。ソ聯那におけるパラシュート技術の發達は極く最近のものであるが、一度これと決定するや何事によらず大躍進を示す如く、パラシュートもまた近年における大飛躍中の冠たるものである。

この空中投下部隊とは、戦闘部隊を落下傘によつて敵の背後に投下し後方より攻撃を行はしめ、もつて後方を攪亂するのであるが、昨年九月ウクライナ共和國の首都キエフ市附近で行はれた大演習の際には約一聯隊の兵が空中投下によつて敵軍の背後に降下行動したといふので忽ち世界的にセンセーションを巻き起した。

非軍事航空

非軍事航空とは所謂民間航空を意味するが、ソ聯那の如く、總ての機關が國營組織となつてゐるところでは純民營事業といふものは存在しない。定期航空をやつて、あたかも諸外國における民間航空事業の如き體裁をとつてゐるが、總て國防上の考慮を第一義として企畫、經營され、航空路の開拓及び飛行家の養成等いづれもこゝに重點がおかれてゐるが故に非軍事と稱せらるゝのが正鵠をえてゐる。

非軍事航空事業はソ聯那當局の發表によるも一九二三年外國製飛行機十二臺をもつて總延長千六百六十六キロメートルの航空路を有し、一年の乗客數三千人、貨物輸送量二萬三千二百九十一キログラムに過ぎなかつたものが、軍事航空の發達と共に大躍進をなした結果一九三五年末機數千餘となり、航空路は實に總延長七萬七千キロに達した。且つ昨年度の輸送量は乗客十一萬人、郵便物六千六百トン、貨物五千トンを算えた。この數字を十二年前のそれと比較するとめざましき發展振りに只驚く外ない。

航空機の特殊な活躍

ソ聯那における非軍用機は運輸、交通上のみならずまた特殊な方面に活躍してゐる。即ち寫眞測量、北極における漁業及び海獸捕獲事業、害蟲驅除、播種乃至は北極探検等の産業或は開拓事業に應用され優秀なる成績を擧げてゐる。昨年度の成績は森林調査三千五百萬ヘクタール、播種面積十二

萬ヘクター、農業及び林業の害虫駆除五十六萬ヘクター、マラリヤ蚊駆除二百四十三萬五千ヘクターであつた。

ソ聯邦航空界の新記録

躍進また躍進のソ聯邦航空界は當局の獎勵と呼應し、また各方面に新記録を示してゐる。昨年中あげられたものを左に摘記して見やう。

(イ)遠距離飛行の世界記録　グローモフ飛行士は愛機「RD」號を操縦九月遠距離無着陸飛行を決定して滞空時間七十五時間、翔破距離一萬二千四百一十一キロメートルの大成功を収め、政府より「ソ聯邦の英雄」の稱號を貰つた。

(ロ)高空飛行の新記録　八月十日エウセーエフ飛行士は自ら組立てた酸素吸入器を備へつけた單座飛行機を操縦し一萬一千八十メートルの上空に昇つた。これ實にソ聯邦における歴史的新記録である。

(ハ)パラシュート降下の新記録　ソ聯邦における最近のパラシュート熱は驚嘆に價する、公園などにパラシュート降下を機械的にとりいれたパラシュート練習臺などを備へて頻りにパラシュート

熱を國民に煽つてゐるため猛烈な熱で盛大となり頻々と新記録を示してゐる。六月六日コズリヤ飛行士は七千四百四十五メートルの記録を作つたが、同月廿三日にはアミンタエフ飛行士は七千六百十二メートルの驚異的記録を樹てた。なほ當時ハラホフ飛行士が「錐揉み」状態にあつた飛行機から夜間パラシュート降下を試み、またバラスーヒン、シチウキン兩飛行士が飛行中の自由氣球のゴンドラから身を躍らせてパラシュート降下を試みたことなども特記すべきである。

男子に對し婦人のパラシュート熱も非常なもので、三月卅日赤軍將校夫人のヴェーラ・フョードロヴナが六千三百五十六メートルの上空から酸素吸入器を持たず降下し國際婦人新記録を樹て、更に六月十七日にはモスクワの女流パラシューター六名が同じく七千三十五メートルを降りて前記録を破り、七月にはまたモスクワの女流パラシューター、ガリナ・ビヤセンスカヤとアンナ・シシマリエウナの兩名が酸素吸入器を用ひずに實に七千九百廿三メートルの新記録を樹立した。これは男女を通じての世界新記録である。

(ニ)成層圏飛行の世界記録　六月十六日飛行士ヂルレ、プリルツキー兩氏は二千二百立方メートルの容積を有する成層圏氣球を操縦して八千五百メートルの上空に昇り、それより二日経て同氣球に搭乘、一萬五千メートルの上空に昇り幾多の科學的觀測をなした。

六月卅一日にはロマノフ、バブイキン兩飛行士は千六百立方メートルの容積を有する成層圏氣球で滞空正に五十六時間五分の滞空世界記録を樹てたがこれはアメリカのセツツル飛行士の滞空時間を凌ぐこと實に五時間と五分である。

ソ聯の極北飛行

ソ聯邦當局は周知の如く極北航空路の開拓に銳意力を注いでゐるが一九三四年から三五年にかけての冬には十指に餘る極北飛行が決行され輝やかしい成果を収めた。モロコフ飛行士はスウエルドロフスク、ノウオシビルスク、クラスノヤルスク、イガルカ、ドウジンカ等を経てモスクワ——チクソン島間を翔破した。ヴァダビヤノフ、リンヂエリ兩飛行士はモスクワ——シユミツト岬間を翔破したがこの距離實に一萬三千五百キロに達した。またグラシエフ飛行士はモスクワ——チクシ灣、アホトキン飛行士はモスクワ——チクソン島間を無事翔破、マヅルカ飛行士は六日間でモスクワ——北樺太を翔破した。
最後に「ソ聯邦の英雄」モロコフ飛行士はモスクワよりクラスノヤルスク、ヤクーツク經由ウランゲリ島に到着してゐる。

人物篇

A スターリン

ソヴェエト聯邦といへば直ちにスターリンを聯想する如く、今日の彼ほど世界的にその名を轟かせてゐるのも少ない。

スターリンは一八七九年後コーカサス、ジョルジア國チフリス縣の一農家に生れたといふから本年數へ年五十七歳の働き盛りである。一説には彼の生家はチフリス市のアジェリハーノフ製靴工場（靴工場）の職工ともいはれてゐるが、いづれにしても純然たる東洋民族である。

東洋人としての几帳面さと、強い信念とを持つた彼は、その通稱スターリン（鋼鐵の人）が示す如く強固な意志とたゆまぬ闘争力をもつて終始一貫奮闘を續けて來た。無論豊かでない生家に人となつた彼は世にいふ親譲りの何ものもなく、幼少の頃から貧困のうちに文字通りの辛酸を嘗めて育

つた。だから、今日になるまでには人並ならぬ數奇の過去を突破して來てゐるのである。十七歳で既に神學校内の革命團指導者となり、首領となつた。そのため神學校で放校處分に處せられたがこれが動機で爾來燃ゆる闘志をもつて實際運動に携つた。當時ロシアの情勢は彼のこの



思想を容れるには餘りにも反動的であつたから捕へられ
ては流され、脱出しては監禁され、かくて幾度か脱走、
逮捕、脱走を繰返した。それほどの辛酸をなめながら、
なほたゆまず堅い信念をもつて終始革命運動に没頭、マ
ルクス、レーニン主義の忠實な遵奉者として身命を投げ
うつて來たのである。

今日彼がレーニン歿後のソヴィエト聯邦を双肩に擔ひ
一糸亂れぬ統制のもとに元首とし、獨裁官として臨んでゐる態は、ただこの「意志の人」を如實に物
語つてゐる證左である以外の何ものでもない。あくまで共產黨書記長として蔭にかくれながら政敵
トロツキーをしりぞけ次いで右派日和見派のジノヴィエフ、カール・ネフを追ひ、着々鋭鋒をあらは
し、遂にルイコフ、ブハーリン、トムスキーなどを屈服させて、人口一億六千五百萬、世界の六分の

一といふ領土を有する大國ソヴィエト聯邦を完全にわが手に收めた彼の功績はまた偉大である。

現在のソヴィエト聯邦において彼の一言半句は絶対的のものであり、すべて金科玉條となる。ソヴ
イエト聯邦のいかなる片田舎へ行つても、聖像がいつかレーニンと並んでスターリンの像、乃至は畫
像とかへられてゐるとは別に不思議でもなんでもない。ソヴィエト聯邦における彼の實勢力を示す
ものである。彼が天下を取つてからは、内に「一國社會主義建設」の理想をふりかざした半面、外に
向つては協調外交を唱へ、遂に國際聯盟加入を斷行して、資本主義の中に喰ひ込む策をとつた。それ
以後といふものは従來の蔭の支配者から脱け出し自ら一線に出て、イーデン英國特使始めラヴァル、
ベネシユなど佛、チェッコなどの代表と會して堂々懇談、協議を重ね極く最近では入露したフラン
スやアメリカの新聞記者を引見して活潑に政局就中極東情勢などに關し意見を述べたりしてゐ
る。殊にまた近年はスターリン主義實行の手段として平和——即ち軍備の態度を明瞭に現はしなが
ら自らも軍擴論を堂々やつてのける態度に出た。かくソヴィエト聯邦は頻りに動いてゐるが、この
動きの源で糸を引くのは彼スターリンで、彼は全くソヴィエト聯邦政治動向のまさに原動力で
ある。

因にスターリンといふのは通稱で本名はヨシフ・ウイツサリオノヴィチ・ジユガシユヴィリであ

ることを附記しておかう。

B カリーニン

中央執行委員會議長（大統領格）カリーニンといふよりソヴェエト聯邦ではミハイル・イワーノヴィチと呼ばれて一般から至極親しみ懐しまれてゐる。

一八七五年の生れであるから本年六十一歳の還暦、現ボリシエヴィキ巨頭連中での最長老である。トウヴェルスカヤ縣トロイツァ村の百姓家に生れた彼は幼時から聡明で地主の家に雇はれそこから小學校に通つたが、學校から歸ると地主の圖書館にもぐり込んで勉強した。その後地主の主婦の計ひでペテルブルグの砲兵工廠の職工となり、十六歳の時ブチロフスキー工場の旋盤工となつた際革命秘密結社の同人と知合ひになつた。これが彼が革命運動に入つた第一歩であつた。廿四歳で社會民主主義者の團體に加入、レーニンと共に労働階級解放闘争同盟を造つて逮捕されたが、爾來幾度か逮捕、追放、脱走を繰返した。

一九一九年共産黨中央委員に選ばれ同年全露中央執行委員會議長となり、二三年ソヴェエト聯邦

が成立したので、全聯邦中央執行委員會議の第一回議長となつて今日に至つてゐるのである。また一九二六年には黨の最高幹部たる政治局員となつた。だから現在は政治局員、ソヴェエト聯邦中央執行委員會議長（大統領格）、ソヴェエト聯邦會議長、ロシア共和國中央執行委員會議長等を兼ね、公職



としてはソヴェエト聯邦最高の顯職にあるわけである。レーニンが彼のことを「労働者として生ける經驗を、農民として農村生活の委曲に通ぜる人として、彼は十月革命が民衆中より躍出せしめたる幾多人物中においても最も色彩に富める人物の一人である」と評したのは餘りにも有名であるが、彼カリーニンは大統領格の顯職に就きながら依然古びた上衣に皺くちやのズボンをはいて

平々凡々たる好々爺振りを發揮してゐる。

各國の大公使の信任状はカリーニンに捧呈されるのであるが、大禮服に威儀を正した大公使が背廣服姿の彼に接し、啞然とするが、好々爺然たる彼の風貌を見るといかにも親しみがあつてにくめぬといふのが一般の印象である。

クレムリンの壁に對したところにカリーニンの公式接見室がある。白聖館、三層樓の一室で一週一回何人と限られた一般の人々に接し希望を聞くことにしてゐるが、彼がじゅんじゅんと諭し聞かせる態度に誰も彼も感服して引下るといふことである。

純スラヴ人として、また農民出身者としてロシア農民から絶大の信望を集めてゐる。なんといつても目じりのあがつた獐猛揃ひの革命巨頭連の間に交つて彼の如き好々爺は愉快な存在である。

C ウオロシローフ

新ソヴェエト元帥の筆頭であり、国防委員長として赤色陸海軍の最高地位を占めてゐるウオロシローフも、その幼少時は貧困、饑餓、流浪、失業等々あらゆる生活難と血みどろの悪戦苦闘をつゞけたものだ。一八八一年南露はエカテリノスラーヴ縣ウエルフネといふ片田舎に、呱呱の聲をあげたクリメント・エフレノモヴィチ・ウオロシローフは、生れ落ちた時から、當時の革命労働者にふさはしい艱難辛苦の人生の第一歩をふみ出した。父は鐵道の番人で母は日雇労働者、貧困と饑餓は咽喉元をもしめるやうな苦痛だ。學問をしたくても學校に入る餘裕がない。七歳になつたばかりのクリメ

ントは、もう炭坑の坑内に入れられ、日給十哥で働らかされた。十歳の時、父とともに職を失ひ、地主に雇はれて牧羊を追うたりした。十二歳まで目に一丁字なく本を手にすることさへ出来なかつた。十三歳の時近所にゼームストラの小學校が出来たのでそこへはひつた。この小學校は小クリメントが卒業し得た唯一の學校であつた。その後の教育を



與へた「學校」は、波瀾重疊悪戦苦闘の人生であつた。一八九六年、彼はアルチエフスカヤ驛の鐵工場に雇はれたが、この工場こそ、彼がいよいよ革命家としてのスタートを切つたところらしい。一八九九年の騒亂に際し十七歳のウオロシローフは、早くも鉄鐵鑄造部の同盟罷業を煽動し、その罪に問はれて、解雇された上に逮捕

の處分を受けた。爾來ウオロシローフの名は、警察のブラック・リストに載せられ、彼の往くところ追跡迫害の手がついて廻つたのである。

一九〇三年、ウオロシローフはルーガンスクでロシア社會民主労働黨に入黨し、その左翼即ちボリシエヴィキに加擔した。一九〇五年の動亂にはルーガンスクの罷業運動の采配をふるひ、逮捕投

獄されたが、幾千の労働者が團體をつくつて救出の運動をしたおかげで同年末釋放された。一九〇六年ルーガンスクの黨部から選出されてストックホルムにおける黨の大會に臨み、そこで始めて黨首レーニンに逢ひ、その知遇を受けた。

ロンドン大會から歸つたウオロシロフは、間もなく捕縛され、アルハンゲリスク縣に流されたが巧みに流刑地を脱出し、一九〇八年黨本部の密命を帯びてバクーに派遣され、そこで、始めてスターリン、ヂャバリゼ、シヤウマン等のジョルジア支部の幹部と知合ひ、ともに黨務のために奔走した、その後ペテルブルグに歸來、再び捕へられてアルハンゲリスク、メンゼン、チエルドイン等に流され一九一四年漸やく釋放されてドンバスに歸來、歐洲大戰の始まつた時は、恰度ツアリン市の大砲工場の労働者であつた。

大戰中、労働者間に戦争反對の宣傳を試み、警察の壓迫をのがれてペテルブルグに來り、スルガイロ工場に入り、露都に潜むボリシエヴィキの一派と連絡をとつた。三月革命後直ちにペテルブルグ・ソヴィエト(勞兵會)に入り、ボリシエヴィキの代表委員として活躍した。間もなくルーガンスクに招かれ同市のソヴィエト議長に推され、つゞいて市長となり、同市をあげてボリシエヴィキの勢力下に入れてしまつた。十月革命後、ペテルブルグに歸りジェルチンスキーを助けてチエカーの組

織に參劃し、翌一九一八年三月、再びルーガンスクに到り、第一社會主義バルチザン隊を編制して獨軍と戦ひ、ついで第五ウクライナ軍司令官にあげられたが、獨軍の壓迫に押されてツアリン市方面に退却した。この退却はウオロシロフの手記にも「幾萬かの士氣沮喪し疲勞困憊の極に達した敗殘兵と労働者とその家族を満載した幾千の車輛が風雨狂ふカザツクのドン地方を東へく退却したありさまは、目もあてられぬ慘狀であつた」と記してをる如く悲痛慘憺を極めたものであつたが、しかもなほ彼は敗殘の兵をかき集めて第十軍を新たに編制し、一九一九年の春、寄せ來る大敵デニキン軍の包圍攻撃に對抗し、ツアリン市の籠城死守に成功した。ツアリン市の防守戦は、實に赤色軍史の最も光輝ある一章をなすもので、またウオロシロフの武將としての閱歷を飾るものであつたといはれてゐる。その後、第十四軍司令官、騎兵第一軍參議委員等に歴任し、デニキン、ポーランド、ウランゲル各正面に轉戦したが、ウランゲル正面におけるオトラダ村の騎兵戦では、敵の包圍に陥り、危ふく身を以て逃れたことがある。

ウオロシロフの南露及びコーカサス方面に轉戦中のことで特にこゝに記しておくべきことは、彼が當時の陸海軍委員長トロツキーと折合はず、屢々トロツキーにたてつきその感情を害し、トロツキーも亦屢々彼を逮捕して軍法會議に廻附せんとしたことである。然るに、トロツキーの軍令は

その都度途中で何者かの手に抑へられ、少しも徹底せぬのみか、ウオロシローフは、却て益々その勢力を増大し流石のトロツキも、遂に手のつけやうもないこととなつてしまつた。而して當時ひそかに、ウオロシローフを庇護し、トロツキの軍令を途中で有耶無耶に葬り去つたものは誰かといふに、それは當時この方面における政務長官であつたスターリンその人に外ならぬのであつた。スターリンは、ウオロシローフをその最も危険な窮地から救ひあげたわけで、もしスターリンの庇護がなかつたならば、ウオロシローフはトロツキのために逮捕され、重刑に處せられたかも知れぬ。即ちスターリンはウオロシローフにとつて『生命の親』ともいはれ得るのである。

ウオロシローフは生粋のロシア人で、且つ生え抜きの労働者出身である。そして性格明朗、風貌豪快、ソヴェエト巨頭中素晴らしい人気者であるが、その人気のよいことから、往々にして、彼がスターリンにとつてかはるなどいふ説を傳へるものがあるが、兩者の關係は前記の如く切つても切れぬ恩義的緣故があり、むしろ赤色軍がウオロシローフの指揮下にある限り、スターリンに叛旗を翻へすが如きことは想像も出来ないところであるといはなければならぬ。

ウランゲル軍の平定後、ウオロシローフは、北コーカサス軍管區司令官にあげられ第十六次黨大會において黨幹部に選ばれ、次いで一九二四年六月、モスクワ軍管區司令官に榮轉し翌一九二五年十

一月六日フルンゼ氏の死後、そのあとを受けて陸海軍委員長に任ぜられ、爾來同職にあること既に十有一年、昨年元帥にあげられ、名實ともにソヴェエト陸海軍の大巨頭となつた。彼は他の四元帥と同じく三つの赤色章を胸間に輝かせてゐる外、腰に最高武勳の表彰たる名譽刀を横へてゐる。なほウオロシローフは、一九二六年一月、全聯邦共産黨政治局員に選ばれて以來、たゞに軍事に止まらず、ソヴェエト一般政治の最高樞機に與り、スターリンの最も有力なる補佐役である。

Dモロトフ

ヴァチエスラフ・ミハイロヴィチ・モロトフの経歴を摘記すると左の如くである。

一八九〇年ヴヤトカ縣に生る。商業學校卒業後高等商業學校に入學したが三年で追校。一九〇六年社會民主黨（ボリシエヴィキ）に入黨。爾來地下運動にたづさはる。ペテルブルグ工科大学經濟部に入學、ボリシエヴィキ青年を結成す。『ズヴェズダ』『ブラウダ』新聞の編輯に關與。一九一八年北部國民經濟會議長に就任。一九二〇年ニージエ縣執行委員會議長、黨支部長就任。一九二一年ウクライナ共産黨中央委員會書記。一九二四年政治局、組織局員に就任。一九二六年コ

ミンテルン執行委員に選ばれる。一九二八—二九年モスクワ委員書記。一九三〇年十一月十九日人民委員會議長に就任、現在にいたる。

一九三〇年、右翼日和見主義者としてブハリン、トムスキー等とともにスターリン一派から排



撃され失脚したルイコフの後を襲ひ現榮職に就いた。ルイコフの失脚も彼モロトフの就任も當時人々は全く意外としたところであつた。果して首相就任の翌月、初施政演説の機会がおとずれ彼は初登壇した。いはば首相試験の第一日であつた。この議場は長い間智慧囊ルイコフが足跡をとどめてゐたところでありルイコフによつて會議が存在したやうな空氣のあつたことさへあるほどであるからルイコフに代つたモロトフの姿が如何に貧弱であつたか數等見劣りのしたことはいふまでもない。そして初登壇の一聲長講一席は彼がどもりの上に訥辯ときてゐるのですつかり味噌をつけたものだつた。この當時である、モロトフ首相のもとにソヴィエト聯邦政權が大分軽く見られたのは、然し彼の熱意、努力はその後この苦境を美事征服し、天晴れ一代の總理振りを發揮するにいたつた。

モロトフが首相に拔擢された時が即ちスターリン政權が確立への第一段階であつた。だから、彼がスターリンに引きあげられ、そしてまたスターリン政權の確立に向つて全力を傾注したことはいふまでもなく、スターリン意中の四羽鳥の一人となつていまその權勢を誇つてゐる。

E カガノーヴィチ

滿ソ國境地帯に暗雲低迷、しかもコムを挾んで日滿・ソ兩國が極度に緊張してゐる最中、鐵道視察のためわざ／＼モスクワから極東にやつて來たカガノーヴィチが一段と聲を高めて「ウスリー・ザバイカル鐵道の複線工事を速急に完了すべし」と命じ、更らに一國境監視部隊に「カガノーヴィチ部隊」などと命名して悠々引上げたので最近彼の名も大分極東方面で有名になつた。が然し交通人民委員としての彼よりスターリンの後繼者として下馬評の中に現れた彼の方が古く且つ世界的であらう。彼の本名はラザリー・モイセーヴィチ・カガノーヴィチであるが本年四十三歳。ウクライナの靴屋の息子として生れた彼は幼少の頃から靴工場の徒弟として働き正規の學問をうけなかつた。

一九一一年、即ち十八歳で社會民主黨(ボリシエヴィキ)に入黨したがレーニンが革命の警鐘を打

鳴らした當時はまだ廿四歳の若者であつたから、革命勃發時代ボリシエヴィキ政治家中の新参者であつた。入黨後ウクライナ黨委員、製靴工組合長として靴工達に革命思想の吹き込みにつとめた頃からめき／＼鋭鋒を現はして來た。若いながら彼もまた革命家としての經歷には遜色なく、脱走しては捕はれ、捕はれては逃れた歴史を繰返してゐる。



一九二〇年トルケスタンに派遣され黨委員會の組織強化につとめ、その功績が認められて一九二二年には黨中央委員會組織監督部長、中央委員會書記に任命され、後ウクライナ共産黨中央委員會書記長に選ばれ、隆々たる勢をもつて一九三〇年には一躍政治局員に拔擢されスターリンの片腕としてめき／＼頭角を現はして來た。一

九三四年黨統制委員會議長となつて二百五十餘萬黨員の任免與奪の權を收めて黨の統制、淨化につとめ、スターリン政權をいやが上に鞏固のものとしたことは著名のことで、彼の功績は大きい。スターリン政權の確立過程にあつてもつとも軟弱とされたものに鐵道運輸交通があれば彼自ら他の榮職を棄て、交通人民委員となつてこれが完璧を期し彼が就任後各鐵道線とも一躍成績を擧げ

たことは餘りにも有名な話であるが、それよりも軍事上の意義も多分にあるといはれる世界一を誇るモスクワ地下鐵の竣工を見たことは彼の手柄として甚大のものである。彼自ら地下鐵工事の工事場に入つて工夫を督勵したことは知らぬ人は無い。

かくの如く、彼カガノヴィチは當代ソヴィエト巨頭の中でも若く且つ政治局員として五年餘りの經歷しか持つてゐるに過ぎぬが早やくもスターリン後繼者の下馬評にのぼつて確固たる地盤を築いてしまつた。理論家として實際家として兩面備はつた人は革命家多しと雖も彼の右に出づるものはないといはれてゐるが、意志の人としての彼カガノヴィチは強い信念をもつて常に堂々たる陣を張つてゐる。スターリンが片腕として彼をひきつけてゐるのは當然で、スターリンはカガノヴィチの長所によつて自分の缺點を補つてゐるといはれてゐる。

カガノヴィチは政治局員中唯一のユダヤ人であるが故に彼がめきめき頭を持ち擧げるとともにユダヤ人の天下説が傳はつたが、彼は少しもそれには氣をかけようとしなかつた。然しソヴィエト聯邦内に隠然たる勢力をもつユダヤ人から絶大なる信望の的となつてゐることは事實である。今後スターリンを中心にして彼かどう動くか、この邊かソヴィエト聯邦の動向を決定するものではなからうか。

F トハチエフスキー

ソヴィエト国防次官トハチエフスキー元帥は、毎年々頭ソヴィエト議會における國防に關する報告演説で内外にその名を知られ、最近また英國ジョージ五世の大葬参列と、佛ソ相互援助條約成立の機会に英佛を訪問、國際舞臺にまで乗り出し、今やウオロシエフ元帥に次いでソヴィエト軍部の中心人物と目されてゐる。



た一九一四年のことで、若きトハチエフスキー少尉は直ちに戦線に送り出された。翌一九一五年獨

ミハイル・ニコラエヴィチ・トハチエフスキー元帥は

一八九三年生れで元帥中の最年少者であり、且つ唯一の舊貴族出身である。彼の祖先はかなり大きな地主であつたが祖父の代頃から零落し、彼の少年時代は、貴族の家庭とはいへあまり裕福ではなかつたらしい。彼がアレクサンドル士官學校を卒へたのは恰かも歐洲大戰の始まつ

軍に捕虜となつたが五度脱走を企て漸やく十月革命の直前、革命亂中の故國に歸ることを得た。十月革命に際し兵卒に選ばれて中隊長に推され、ソヴィエト政府に宣誓したのが、トハチエフスキー出世の第一歩であつた。一九一八年四月、正式に共産黨に入黨し、暫く全露ソヴィエト中央執行委員會の軍務部に勤務したが、間もなく東部戦線に出陣し第一軍及び第五軍を率ゐてコルチャク軍と奪闘した。一九二〇年の初め、二十八歳の青年を以て東南方面軍司令官に任ぜられ、デニキン軍の掃蕩に當つた。同年夏、對波戰爭に當り西部方面軍司令官として難戰苦闘、戰爭は不利に終つたが彼の奮闘振りは味方も敵も讚歎し、ポーランド獨裁官ピルスズキー元帥さへトハチエフスキーを稱して『偉大なる武將』と推賞したほどである。

一九二二年には、當時レーニン始めソヴィエト巨頭をして慄然たらしめたクロンシュタットの叛亂に當り、第七軍を率ゐてこれが鎮定に向ひ、同年またアントノフ軍を討伐し、到るところ拔群の功をたてその武名を轟ろかした。一九二二年反革命軍の鎮定を終つてモスクワに凱旋し、間もなく赤色陸軍大學校長に任ぜられ次いで一九二四年參謀次長に轉じ、一九二五年西部軍管區司令官、翌年參謀總長、一九二八年レーニングラード軍管區司令官を歴任して、後國防次官に任ぜられ、今なほ同職にある。舊貴族出身、且つ帝制時代の士官にして、彼の如くソヴィエト政府の信頼を得

榮達昇進をなしたものは他になく、この一事を以てしても彼の反革命軍鎮定における勳功の如何に偉大であつたかを知ることが出来る。殊に國防次官就任後のトハチエフスキーは聯邦軍務の中樞を把握し最も重要な役目を演ずることとなつた。なほ詳しくいへば、今日のソヴェト國防次官は極めて重要な地位であつて、他の國の陸軍次官の比ではない。第一、ソヴェト政府の國防省は他の國のそれと異り陸海空軍、即ち國防の全局を管掌するものであり、第二、現任の國防人民委員ウオロシロフ元帥は前記の如く、近頃、國防人民委員としてよりも全聯邦共産黨の政治局員として聯邦の最高政策の方により多くの時間をさかねばならぬ立場にあり、國防省よりもクレムリンの方に在ることが多く、従つて、國防省のことは、多く次長のトハチエフスキー元帥が、その局に當つてゐる。即ちトハチエフスキーは事實上の陸海空軍總長であるといつても過言ではないのである。昨年、本年も、年頭ソヴェト議會における國防豫算説明の大役に當つたのはトハチエフスキー次長である。

ソヴェト聯邦の國防は、今日の職制からいふと事實上の國防人民委員にして軍政の實務に當つてゐるトハチエフスキー元帥、作戰計劃の全責任を負ふ參謀總長のエゴロフ元帥及び政治方面を擔當し教育總監ともいふべき職にあるガマルニク氏の掌中に收められた、この三人が日本の「軍部

三長官』に比すべき要職を占め、而してその上に、ウオロシロフ元帥が總元締めをやつてゐると見てよいのである。

なほトハチエフスキー元帥に關する最近の重要ニュースは、本年々頭英國ジョージ五世大葬に際し、ソヴェト政府から正使の外、交總長リトヴィノフに隨伴し副使として特派されたことである。當時リトヴィノフ正使が大葬參列の後、英國新皇帝に拜謁を賜り、長時間にわたつて英ソ國交の全局につき重要な意見の交換があつたと傳へられ、リトヴィノフの國際舞臺における活躍振りは、いつもながらあざやかなものであつたが、然し、當時ソヴェト遣英特使に對する世界の視線は、寧ろ副使たるトハチエフスキー元帥の上に注がれた。彼は英國より更にソヴェト聯邦と相互援助條約を締結して同盟となつた佛國を訪問したが時恰かも、ロンドンにおける軍縮會議が日本の脱退によつて難局に直面し、歐洲國際紛争の次第に險惡化するにつれて、列國の軍備競争益々熾烈を加へんとしつゝあつた際、ソヴェト聯邦の軍部代表たるトハチエフスキー元帥のロンドン、次いでパリにあらはれたことは、何としても一九三六年々頭の重大な出來事たるを失はなかつた。果して彼の訪英訪佛は、英國におけるソヴェト聯邦の武器大量購入説、それに伴ふ英國の對ソ四千萬ポンド借款説、佛ソの軍事協約の強化説等々頻りに物々しい報道のたねとなつた。昨秋トハチエ

フスキーの元帥新任に際しラデツク氏はイズヴェスチヤ紙上に「トハチエフスキー元帥は、十五年間赤色軍が勝利のために必要なるすべてを具備せんことに努力した。勝利のために缺くべからざる強き意志と偉大なる軍事的天才とは、トハチエフスキー元帥を推して赤色軍最高指揮官の地位にあげた」云々とて、若き新元帥推賞の一文を掲載した。

G リトヴィノフ

外務人民委員（外相）マクシム・リトヴィノフの名は餘りにも有名である。

第四回軍縮準備委員会にソヴィエト聯邦代表としてジュネーヴに乗り出したのが國際外交の檜舞臺を踏んだ第一歩であるが、初登壇の第一聲において、彼は聯盟の過去の事業を痛烈にこきおろし、軍縮の誠意なきことに論及し「完全に一般的な軍縮を即時實行する案を提出。陸・海・空軍の即時全廢」を主張して並居る各國の代表連をアツといはせた。彼の提案は否決されたが、この時既に外交界の利権者といふ評判をとつた彼は一九三〇年老猶外交家チエリンが病氣引退するや拔擢されて外相となりソヴィエト聯邦外交の實權を握つて今日にいたつた。

彼も今年六十一歳 見るからに圓熟した風貌の持主となつてゐるが、幼少の頃から革命思想をもち、一八九八年二十二歳の折共産黨に入黨した彼は革命家のもつ苦難、逮捕、脱走を一通り味はつた。遁走先を多く外國に選んだ彼は時機を見てはロシアに歸り宣傳、地下運動にたづさはつた。



一九〇五年ベテルブルグにおいて新聞『新生活』を創刊して革命思想を吹き込み、翌年外國に脱れ、黨の武装蜂起のための武器購入に奔走して功績をあげた。革命後駐英大使となり、在英一年にして外務人民委員部參與にあげられチエリン外相のもとに辣腕を振つた。然し彼の得意時代は外相就任以後にある。

スターリン政權が確立し、スターリン政策の『一國社會主義建設』が軌道に乗るや、彼リトヴィノフは協調、平和主義をもつて外廓工作に乗り出し、先づ西方邊隣諸國と不侵略條約の締結に着手し、一九三一年七月アフガニスタンとの條約締結に成功して以來引續き大當りを見せた。

圓轉滑脱の彼の活躍振りには人の知るところで、こゝ數年間にジュネーヴに十數回、或はロンドン

パリ、さては米國、イタリー等に席の暖まる暇なく轉戦よく成果を収めた。一昨々年十一月末、米國のソヴェエト聯邦承認といふ大きな收穫をえて以來、國際聯盟加入、ひいては親佛、親チ政策を強化し、遂にフランス及びチエツコ・スロヴァキア兩國と相互援助條約を締結して、對獨陣を固め更らに本年初の英國のジョージ五世陛下の大葬參列を機會に對英工作を施し、東方においては外蒙古と相互援助條約を結んでこれまた東方強化につとめるなど有卦に入つた外交振りを發揮してゐる。スターリン政權の確立によつて浮んだ彼は飽くまでスターリンの寵兒としてぐんぐん外交上に押しの一手で凌腕をふるつてゐるのである。

H オルジョニキーゼ

共産獨裁王スターリンを圍繞するソヴェエト巨頭中、スターリンの信頼最も厚きは誰であるかといへば、先づ重工業人民委員オルジョニキーゼを、その第一人に數へなければならぬ。オルジョニキーゼはスターリンと同郷で、同じジョルジャ民族出身であり、且つチフリスやバクーにおける地下時代に辛酸をともにした間柄である。スターリンがトロツキー一派を打倒してわが手にソヴェエ

ト政權を確得し、『一國社會主義』の新原理によつて五ヶ年計劃の實行に着手するや、同計劃の主要部分たる重工業をあげてオルジョニキーゼに一任したのは、一つは年來の友誼に報い、一つはその絶大の信頼を表示したものであるといはれてゐる。



グリゴリー・コンスタンチノヴィチ・オルジョニキーゼ（黨内ではセルギー・オルジョニキー

ゼの名を以て知られてゐる）は一八八六年、コーカサスに生れ、ジョルジャ出身で、一九〇三年以來の黨員であるから、ボリシエイツクとしてはかなりふるい先輩である。一九〇五年チフリスの看護手學校を卒業したが本職の方には見向きもせず、専ら労働者間の宣傳に奔走した。アハチヤの革命に參劃し、武器密送の發覺で逮捕されたが間もなく保釋されてドイツに遊び、一九〇七年バクーに歸來、再び宣傳運動に狂奔し、メーデーの示威運動で逮捕され、一時アンガラ地方にも流されたことがあつたが、例によつて巧みに脱走してバクーに歸り、波斯に渡つて同國の革命運動にも加はつた。一九一〇年フランスに渡りパリにおける黨大會に列し幹部に選ばれた。歸國後一九一二年ベ

テルブルグで逮捕され、三年間シリツセブルグの牢獄で服役し、一九一五年ヤクーツクに流された三月革命にはヤクーツクのソヴィエト執行委員にあげられ、六月ベテルブルグに來り、十月革命後ウクライナ、南ロシア及び北コーカサスの政務官を歴任し、反革命動亂に際しては、コーカサス及び南ロシア各地に出動しハリコフ奪回後、コーカサス方面の革命軍事委員となり、一九二〇年五月一日のバクー奪回戦に参加し、またジョルジャ及びアルメニヤにおけるソヴィエト政權確立のために奔走した。一九二六年勞農監察委員長に就任し、ついで一九二八年五ヶ年計劃着手とともに重工業人民委員の重職に就きまた黨の政治局員に選ばれた。オルジョニキーゼの今日は、一方重工業人民委員として所謂社會主義經濟の『基礎工事』を擔當し、他方、政治局員として一般政務の最高樞機に參劃し、ソヴィエト人民委員會議長モロトフ、國防人民委員ウオロシロフ元帥及び交通人民委員カガノーヴィチと相並んでスターリン配下の四天王の一人を以て自ら任じてゐるのである。

オルジョニキーゼは資性謹嚴、やかましい規律主義者で、たしか昨年春のことであつたか、地方のある一工場長が髪も髭も蓬々とはやし、よごれた勞働服のまゝで人民委員室に入つて來たところ「髭を剃り、着換へしたうへ出直して來い」と命じたといふ話はその頃モスクワでも話題の一つ

に上つた。

I ブリュツヘル



赤色軍の巨頭中、東洋方面において最もよくその名を知られてゐるは、いふまでもなく極東獨立

赤色軍司令官ブリュツヘル元帥である。彼は極東赤色軍司令官たること既に八年、その間一九三〇年頭、滿洲里の役における戦勝と、最近時々問題となるハバロフスクのラヂオ怪放送で益々有名となつて來た。

ワシーリー・コンスタンチノヴィチ・ブリュツヘルは、一八八九年生れ、勞働者出身のコミニストで、十月革命赤色軍の編制に盡瘁し、また反革命軍の討伐に當り戦功をもつて三度赤色章を授けられ、極東共和國政府からは感状を受けたこともある。歐洲大戰前、ムイチシチエンスクの車輛工場勤務中、一九一〇年同盟罷業のリーダーとなつたのがそも

そも彼の勞働運動への第一歩であるが、間もなく捕はれて二年八ヶ月の禁錮に處せられた。一九一四年歐洲大戰始まるや、帝制露軍に召集され兵卒から軍曹に昇進したが、翌年重傷を負うて兵役免除となり、再び勞働者となつてソルモテ造船工場、カザンのオステルマン機械工場に勤め、一九一六年ボリシエヴィキに入黨し、十月革命の際はサマラ市の革命委員會員として活躍し、ついでドウトフ將軍の反革命軍討伐に従事し、その戦功により一九一八年、赤色軍最初の赤色章を授けられた。その後師團長に累進してコルチャツク軍の討伐に當り、次いで南路のウランゲル正面に轉じ、カホフ平地、セラブズク、ペレコープ、ユーシユン等の激戦に参加し、到るところ戦功をたてた。一九二二年極東共和國建設されるや、ウエルフネ・ウージンスクに來り、同共和国の陸相、總司令官兼軍事參議會議長に任ぜられた。翌年極東共和國解消さるゝや再び歐露に歸り、第一狙撃軍團長レニングラード要塞地帯衛戍司令官等に歴任した。

ブリユツヘルが世界的にその名をあげたのは、支那の孫逸仙に招かれて廣東革命軍の教官になつた時のことである。當時彼はガロンなる匿名を用ひ、政治顧問のボロチンと相並んで軍事顧問として専ら國民革命軍の編制、訓練に當り、殊に蔣介石を扶けて黄埔軍官學校に教鞭をとり、蔣介石が北伐を企つるやその作戰を擔當し長驅武漢に進出した。當時ガロン將軍はボロチンとともに内外に

その雷名を轟ろかし、一時支那は『ガロンとボロチンの天下』となつたかの觀さへあつた。然るにその後間もなく、蔣介石の寢返り、反赤クーデターによつて支那國民革命は一大轉向をなしガロン將軍もまたボロチンもつひに志を得ずして空しく支那を去ることゝなつた。然し、蔣介石麾下の支那軍隊の幹部中には今もなほガロン將軍の教育を受けた者が少くない。彼はソヴィエト聯邦に歸國するや再びブリユツヘルの本名に立ちかへり、極東獨立赤色軍司令官に任ぜられ、今現に同職にあり、主として日滿兩國に對する國防の局に當つてゐる。ブリユツヘルの極東獨立赤色軍司令官としての功績にして特記すべきことは、一九三〇年、東支鐵道の紛争に際し張學良麾下の滿洲里駐屯軍を包圍し、一舉にして全軍を捕虜にしたことで、この戦勝の功によつて極東獨立赤色軍は特に軍の名を以て赤色章を彼に授けた。滿洲事變後、同軍はその兵力を倍加し飛行機、タンク等の裝備を完備したほか、滿ソ國境四千三百キロにわたり要所々々に所謂『トーチカ』と稱する最新式築城工事を施し大いに軍備の強化をはかつた。一朝極東に事起らんか、極東方面軍總司令官の任に當るは當然ブリユツヘル元帥であらうといはれてゐる。

J エゴロフ



赤色軍參謀總長アレクサンドル・イリイチ・エゴロフ元帥は、一八八五年農家に生れ、若い時は運送業の労働に従事し、また鍛冶工となつたが、労働の片手間に苦學力行して中等學校の試験に及第し、カザンの歩兵學校に入ることを得た。然し同校卒業後、革命青年の間に入出したため、警察のブラツク・リストに載せられたが、ともかく三年間兵役に服し、歐洲大戰に際しては最初から最前線に立つた。しかして到るところ奮戦力闘、負傷五度に及び、その間の勳功により破格の拔擢を以て大佐に進級し、聯隊長となつた。

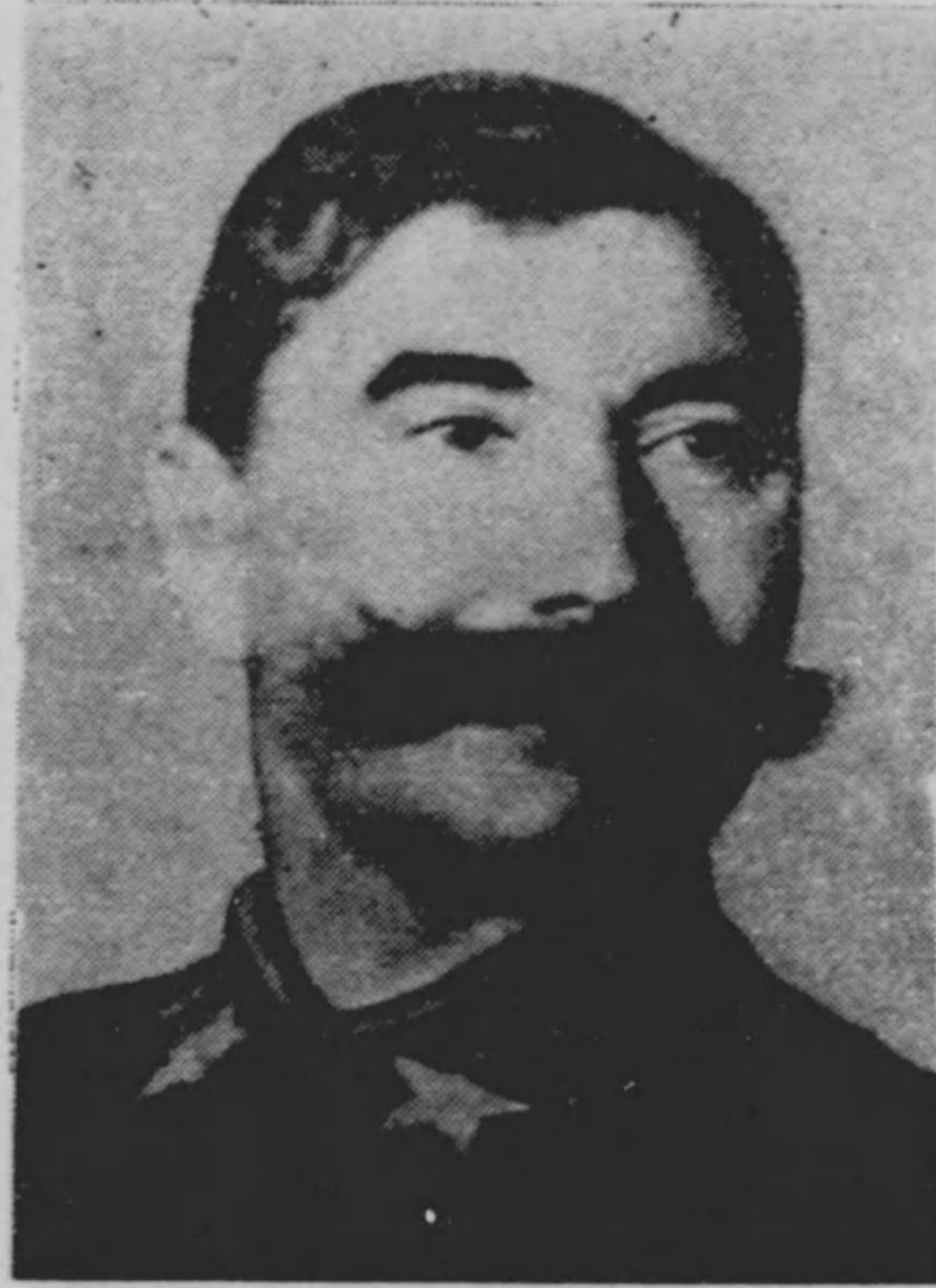
三月革命後、左派社會革命黨に入り、軍隊民主化運動の急先鋒となり、特にケレンスキー政府攻撃の演説を試みたかどで、罷免の上起訴され懲役の判決を受けたが、十月革命とともに第二次全露

ソヴィエト大會に選出され、中央執行委員會の軍務部に勤務しウクライナに派遣されたが、キエフにおいてペトリウラ軍のために逮捕され、間もなく赤色軍に救はれモスクワに歸來、特に軍事専門家として赤色軍編制委員に任ぜられ、左派社會革命黨の叛亂後同黨を脱してボリシエヴィキに入黨した。

一九一八年、第九軍司令官に任ぜられ、クラスノフ將軍の率ゆる白軍をバラシヨフ、カムイシンの線に撃破し、次いで同年末、ウオロシエロフに代つて第十軍司令官となつたが、間もなく騎兵の襲撃戦に参加して重傷を負うた。一九一九年夏、第十四軍司令官となり、キエフ方面の防禦に當つた。同年秋、デニキン軍の總攻撃に當り、南方面軍司令官に任ぜられ、當時の前線政務長官スターリンとともにデニキン軍の撃滅に當つた。一九二〇年、エゴロフは西南方面軍司令官に轉じ、内亂平定後、二三軍管區司令官を歴任し一九三一年赤色軍參謀總長に榮進、爾來同職に止まり今日に至る。

一九二五年、支那國民革命の當時、北京におけるソヴィエト大使館付武官となつたことがあるが在任數ヶ月にして間もなく同革命の右傾轉向ともに、北京を引揚げたので、支那におけるエゴロフはあまりその名を知られなかつた。

K ブジョンヌイ

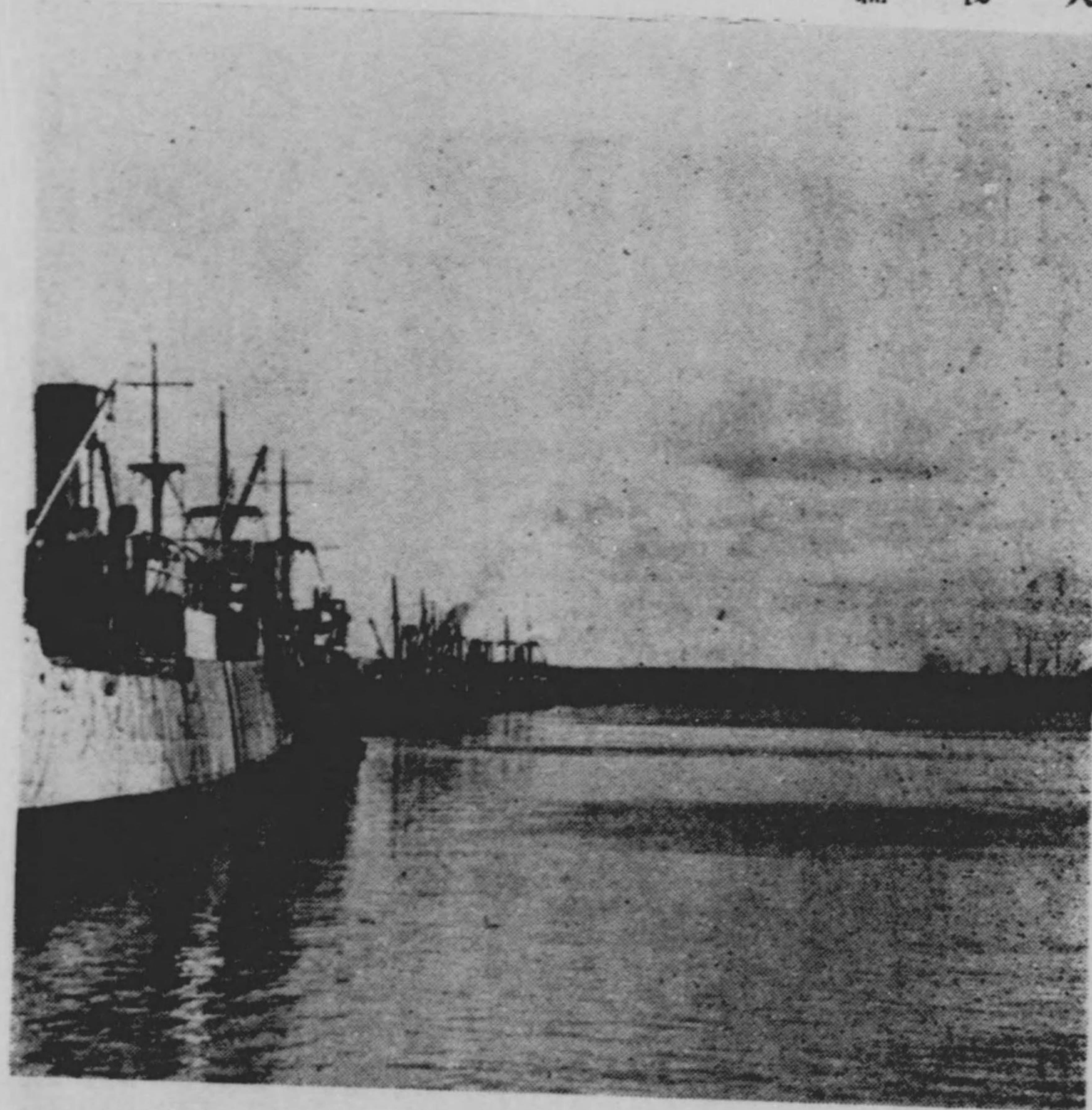


赤色軍騎兵監セミヨン・ミハイロヴィチ・ブジョンヌイ元帥が、十月革命の初年、騎兵團を率ゐる。南露の平原に嚇々の殊勳を樹てたことは、赤色軍史の最も光輝ある一章を飾るもので、一兵卒から身を起し騎兵監、元帥の地位を占むるにいたつたのも、主として内亂當時における實戦の勳功によるものとしなければならぬ。

ブジョンヌイは一八八三年、ドン州の一農家に生れ、日露戦争には一兵卒、歐洲大戦には軍曹として出征した。一九一七年三月革命勃發するや彼は盛に兵卒間の革命宣傳に活躍し、聯隊及び師團の革命委員に推され、十月革命に際してはドン地方におけるソヴィエト政權樹立のため百方奔走した。ブジョンヌイが嶄然頭角をあらはし武名を内外に轟かしたのは、彼が赤色騎兵團を組織して南露各地に神出鬼没の活躍をな

した時に始まる。即ち一九一九年一、二月ツアリツイン附近の激戦においてデニキン軍の智將クラスノフ將軍の率ゆる騎兵團を破り、ついでホムトフスカヤ驛の戦鬪では一個師團を以てボクロフスキー將軍麾下の騎兵一個軍團を撃破し、ブジョンヌイの名は白軍恐怖の的となつた。一九一九年の秋デニキン軍が北進してアリヨール市を占據した時は、モスクワのソヴィエト政權は全く風前の燈の危地にあつたが、ブジョンヌイの率ゆる騎兵軍團は長驅白軍の背後に迂廻し、ウオロネージとカストルナヤの激戦でマモントフ及びシクロフ兩將軍の率ゆる騎兵二個軍團を粉碎しデニキン軍をして總退却の餘儀なきにいらしめた。その勳功により軍團長から騎兵第一軍司令官に昇進したが、騎兵第一軍司令官としてのブジョンヌイは、常にウオロシーフと行動を共にしドン、クーバン及び北コーカサス方面の白軍掃蕩に當つた。この間、ゴレイツカヤ驛附近における戦鬪で一九二〇年二月、パウロフ將軍麾下のドン及びクーバン騎兵六個軍團を撃破したことは南露白軍に最後の致命的打撃を與へたものであつた。

一九二〇年四月、露波戦端を開くや、ブジョンヌイはコーカサス方面から強行軍を以てポーランド正面に出動し、スクウイラー附近においてポーランド軍の正面を突破してその背後に出で、同軍をして急遽ウクライナから後退せしめた。ブジョンヌイのポーランド軍突破は騎兵戦術上の好模



範として今もなほ軍事専門家の研究
題目となつてゐる。その後三ヶ月間
轉戦して東部ガリシヤからレンベル
グに出でたが、露波戦局のおさまる
や再び南露正面に歸りウランゲル軍
と戦つて同軍を潰走せしめた。

ブジョンヌイはかくして反革命動
亂中、騎兵戦を以て終始し騎兵専門
の權威と認められたので、内亂平定
後騎兵監にあげられたが、何しろ貧
しい農家に生れて少年時代學校教育
を受けたことがない。彼が自らその
學殖の淺いのを慨し騎兵監の要職に
ありながら陸軍大學に通學したこと
は有名な話である。

明日の領域

極東、シベリアの諸建設について

ソヴィエト聯邦研究の重要性は、昨日より今日の領域にあり、今日よりも明日の領
域にあるのは勿論である。私はこの章で日本に比較的近いソヴィエト北東方、極東
シベリア等に於いてこれから行はれんとする建設事業の中若干を紹介しソヴィエト
聯邦に於ける計畫建設事業の一斑をそれによつて窺ひ度い。

北氷洋上の征服

ソヴィエト當局が北氷洋航海に第一歩を踏み出したのは、歐露北氷洋岸方面及び西部シベリア
を赤軍が白衛軍と外國出兵の手から取り返へしてからである。即ち一九二〇年、オビ河及びエニセ
イ河流域の木材とシベリアの穀物を十隻の汽船につみこみこの兩河を下航し、北氷洋のカラ海を經
てアルハンゲリスクに輸送したのがはじめである。

その後ソヴィエト當局の北氷洋探検並に航海は年々進み、一九三二年には碎氷船『シビリヤコフ』號は北氷洋を一航海で西より東へ横斷し、北氷洋航行史上に新たな一頁を開いた。『シビリヤコフ』號の成功に自信を得たソヴィエト當局は『北方海路總局』を新設し北氷洋の征服に拍車をかくることとなり、各種探検隊の増派、極地觀測所の増設をはかる一方、一九三三年には半碎氷船にして貨物積載船のタイプなる『チエリユスキン』號をしてレーニングラードよりムルマンスク經由北氷洋突破に發程させた。

同船はベーリング海峡附近まで航行し、あと一息といふところで堅氷に閉され之を脱出することを得ず。四ヶ月間氷上を流され遂に北氷洋上に難破した。が、粘り強いロシア人は『チエリユスキン』の失敗にも屈せず、一九三四年には碎氷船『リトケ』號をもつて東より西への北氷洋一航海横斷をやつてのけた。

一九三五年四月一日『勞働國防會議』が北方海路總局に對して發した指令

『一九三五年度よりは北氷洋を經由しムルマンスク、ウラヂオ間に商船による貨物輸送をなすべし』

は、ソヴィエトの對北氷洋工作上極めて重要な意義あるものであつた。碎氷船を以てする北氷

洋航海は試験済みだ、普通商船で乗り切れといふのである。

一九三五年は北氷洋が營業航路としての出發をなした年として特筆さるべきであつた。同年北氷洋を遊弋した汽船の数は七十餘隻に上り、それらの方面を航行し活動したが、前記『勞働國防會議』の指令に基き汽船『アナドイル』『スターリングラード』は貨客を積んでウラヂオ發ムルマンスクに向ひ、貨物船『イスクラ』と『ワンツエツチ』は同じく貨客を満載してムルマンスク發、逆コースをとりウラヂオに向つた。この四隻は碎氷船にあらざる汽船をもつて一航海による北氷洋横斷の新記録をつくり、各寄港地にそれら貨客の積み下しをなしつゝ、無事目的地に着いた。氷原に前途を遮らるゝ場合の嚮導船として北氷洋を四區に分け『クラシン』『リトケ』『エルマー』ク『レーニン』の四碎氷船を各所に配置したほか、洋上及び沿岸數十ヶ所にある極地觀測所と、多數の飛行機とが北氷洋上の各船舶の耳目となつて活動したことはいふまでもない。

次に同年度は北方海路總局が碎氷船『サツコ』號を派して北氷洋西北部の高緯度探検をなさしめ、重要なさまぐの調査を遂げさせたことも附言して置かねばならぬ。『サツコ』號が同年度になし得た探検は北氷洋上の一部に過ぎないが、ソヴィエト當局は北氷洋を完全に征服するためにはこの種の探検船をこれからも残された海上に派遣する必要を感じてゐる。現に『サツコ』號は本年

度の計畫中にも再び昨年探検海區以東に出動することになつてゐると傳へられてゐる。

『白海よりベーリング海峡までの北氷洋海路の設備を完全にし、航行の安全が保證さるゝ状態に置く』

といふソヴィエト政府の命令がそのまゝ實現するまでにはまだ時日を要するであらう。しかし、北氷洋が商船、貨物船で航海出来る時代になつたことは注意せねばならぬ。

一九三六年度、ソヴィエト當局はいかなるプログラムを以て北氷洋に臨まんとするか、北方海路總局長シュミット氏のいふ所を聞かう。

『本年度北氷洋横断輸送計畫に参加する汽船は昨年の二倍、即ち八隻で、うち六隻はレーニングラードよりウラヂオに向ひ、二隻は逆コースをとるであらう。本年も四隻の碎氷船が昨年同様の部署について嚮導船の役目をつとめ、碎氷船『サツコ』『マルイギン』『セドフ』は海洋調査にあたり『シビリヤコフ』『ルサーノフ』は極地観測所のために奉仕する。貨物輸送の任を帯びて北氷洋に動く汽船はカラ海商船キヤラバンに屬するものを除いて二十五隻の豫定である』

といふのである。ソヴィエト聯邦が北氷洋を征服し、これを自由に驅使利用する時代はもう見えてゐる。その曉

に於いて北氷洋がソヴィエトの經濟上、政治上、軍事上果して如何なる役割をつとむるであらうかは見ものである。

カラ海の商船キヤラバン

カラ海航路はヨーロッパからオビ河及びエニセイ河の河口へカラ海を越えていたる航路である。

シベリア産物輸出の路として同海航行の歴史は既に十六、七世紀頃からはじまつて居る。

ソヴィエト政權になつてからのそれは前に書いた通り一九三〇年にはじまり、爾來定期的な航海となりシベリアから穀物、木材その他の産物を世界の市場に輸出し、ヨーロッパからシベリア及びウラル地方に農具その他の加工品を輸入する。

カラ海の氷を衝いて先導する碎氷船の後に、數隻の汽船が一直線に北氷洋上に黒煙をみなぎらしつゝ續いて行くのは、まさに海上のキヤラバンである。このカラ海キヤラバンは鐵道に恵まれぬシベリアと世界市場との物資交換の路として經濟上重要な意義あるもの。これを表に示すと

年次	船數	輸出 (單位千トン)	輸入 (同)	沿岸貿易 (同)	總計 (同)
一九二一	五	四、九	八、四	—	一三、三

二六	五	一〇、一	九、一	—	一九、二
三一	一六	四八、九	一四、六	三、三	六六、八
三二	二八	八〇、一	七、〇	九、二	九六、三
三四	二八	一〇四、六	—	一一、〇	一一五、六
三五	三八(?)	—	—	—	—

年々船數も増せば運送貨物も激増してゐる。

もとはカラ海の解氷期を見はからつて商船キヤラバンを進めたものであるが近年碎氷船、飛行機、北氷洋無線電信局、海中標識等の援助が行届き海洋調査もすんだために、同海の航行可能期間がだん／＼なくなつてゐる。即ちオビ河口のノーヴィ・ボルト、エニセイ下流のイガルカ港に於ける航行期間は一九二九年には四十日であつたのが三四年には五十四日となつてゐるのだ。それにソヴィエト極北經營基地としてのイガルカ港が發展し、エニセイ河河口に位するデクソン島が北氷洋の石炭供給基地となつてゐることなどもカラ海航海の前途を好望に導くものである。

シベリアは廣く、鐵道の便をうけず、その大部分交通の動脈はまだ河川の時代にあるといつてよからう。海上の施設と陸上の現實、そこにカラ海商船キヤラバンの明日の隆盛を約束する客觀的狀勢がある。

極北の新都イガルカ

一九二八年まで何もなかつたエニセイ河沿岸、北極圏からずつと北に寄つた極地に忽然として生れたのがイガルカ市。最近までソヴィエト聯邦出版の地圖にも載つてゐない都市。エニセイ河の河口から七百キロ。七百キロといつてもシベリア大陸を流るゝエニセイの様な大河のことにするらずつと下流のところ。海洋船舶の遡江出来るまでの水深と、繫船場と、極北基地都市としての各種の條件が考慮に容れられて造られた新港都市である。

一九二九年に製材工場の建築に着手、三〇年に百五人の人口が五年後の一九三五年には一萬二千人となつた。しかも同年の夏期には一時一萬六、七千からの人がある。カラ海のキヤラバンをはじめ北氷洋の船舶がこゝへ遡江するもの多く、一九三五年には三十五隻の船がこの新港を訪れてゐる。

イガルカこそは、計畫經濟の命ずるところによつてあくまでソヴィエト式に出現した都市である。今では製材工場、毛皮商館、馴鹿放牧ソフホーズその他各種企業機關あり、學校、病院、託兒所もあり映畫館、クラブもあり、極北唯一の日刊新聞も出てゐる。その新聞は夏期、カラ海商船キ

ヤラバンの寄港期には特に外國船員のために英、獨語による特別附録まで添へて出してゐるといふ。昨年夏はソヴィエト北氷洋征服の御大、シユミツト北方海路總局長がわざわざクラスノヤルスクから飛行機でこの「極北の首府」を訪問した。

イガルカはエニセイ河がサモエドスキイと稱する大きな島を抱く曲線の一角に打ち建てられた港都であるが水深十三、四メートルに達してゐるので八千トン級の海洋汽船も平氣でそこに繫泊するといふ。が、何分北極圏内に人工的に急造した都市のこと故、無理も多く文化的、娛樂的機關の充實も必要であり生活に不便の點も少くないので昨年は同市の代表がモスクワへ陳情委員となつて上つて行つた。ロシア共和國政府は必要の補助金を同市に交付し、新興都市としてその生存、繁榮のために生活、衛生、文化その他の方面に對しあらゆる援助を與へることにした。

北極圏内の都市として同地方が耕作に適するか否かは將來の繁榮に大きな關係をもつものであるが穀物の栽培はあまり望みがないらしく、たゞ大根、胡瓜、キャベツ、馬鈴薯等の野菜は生育するといふ。とにかく、この極北に於ける港都、北氷洋經營の基地イガルカは、ソヴィエトの北氷洋征服、カラ海航路の發達と並行して發達するであらう。

レナとコルイマ

オビ、エニセイと共にシベリアの三大河の一と呼ばるレナ河は前兩河からずつと東に離れ、同河流域たるヤクーツク共和國の開發未だよく行はれず、レナ河口は北氷洋東西兩門戸より最近まで殆んど隔離されてゐた。歐露方面よりレナ河へ貨物船キヤラバンをおくつたのは漸く一九三三年がはじめて、材木船三隻がこれにあてられた。翌三四年にまた三隻、三五年に五隻航行した。エニセイ、レナ兩河間は海上未調査のところもあり航海の難所も少くないが歐露よりレナ河への貨物船の定期航路はかくて開かれた譯だ。

コルイマ河はアジアの最東北端チユコト地方の頸部を扼する大河、その流域に天然資源も少からず、漁業地としても有名であり、ベーリング海峡に近いためにウラヂオから同河口への航路は二十五年前からひらかれてゐる。昨年はウラヂオより三隻の汽船がコルイマ向貨物を積んで同地に航したほか、一隻の貨物船を特にアルハンダリスクからコルイマに差し向けた。これは歐露より貨物船が同地まで航行したはじめてのことであつたが同船は途中六十四日の短日時を以て無事アルハンダリスク、コルイマ間を往復した。コルイマ地方への從來の貨物輸送経路は、歐露より陸路ウラヂオ

に送り、同地より汽船がベーリング海を廻航してコルイマに行つたもの、それを歐露から直接北氷洋經由で輸送が出来るとすればその距離を短縮するだけでもその意義は大きい。

コルイマ河以東チユコト、ベーリング海峡地方はこれまでウラヂオよりする露船、東よりするアメリカ、カナダ等の船舶等がしばしば來航したものである。北氷洋航路開拓の恩恵に最も潤ふのはレナ及びコルイマ地方であらう。シベリア北東地方の開発が明日の問題になることはいまでもないが、昨年局長自らがエニセイを視察した北方海路總局では、局長代理ベルガウイノフ氏をレナに派遣し『北方の經濟的征服の進行を検討』させてゐる。

コルイマ河の一支流スレドニカンに水力發電所建設の計畫あり、昨年夏技師の一行が現地視察に到着したことが當時露紙に傳へられてゐた。これはコルイマ地方礦産業のために電力を供給せんとするもの、その規模を明にしないが一九四〇年にはその發電所は完成の豫定であることを新聞紙は報じてゐた。かくの如くシベリア北東地方開發のノックは後から後へ間斷なく聞えてゐる。

ソヴィエト聯邦で『北方』と呼ばれる北氷洋岸のツンドラ地方、並にそれにつゞく原始林地帯はその面積が全歐洲のそれにも匹敵するにかゝわらず、そこに住む人口は僅かに九十萬、うち十數萬は殆んど原始人に近い土人で、彼等は多く馴鹿と共にツンドラに遊牧する生活を今もつてつゞけて

る。ソヴィエト聯邦一部の所謂『教化政策』が少しでも及んでゐるのは前述諸河川の流域だけで、他には今日未だ文明も産業もそこまで届いてゐないと見てよからう。

しかし、ソヴィエト聯邦の各種建設は多くの探検調査と苦しき経験の後で、陣痛のために母體を苦しめつゝ生れ出てゐる。不毛無人の凍原として一顧も與へられなかつたシベリアの極地が、世界の注意圏外においていつの間にか開發されないと誰が保證し得やう。

強化さるゝ極東の交通網

日露關係の緊張の傳へらるゝ時にあたつてソヴィエト聯邦が極東方面に於ける鐵道及び一般交通網の強化に渾身の努力を拂ひつゝあるのは注意せねばならぬ。

ソヴィエト聯邦は北滿鐵道を滿洲國に讓渡した。が、同國の極東鐵道政策の立場からいへばかの黒龍鐵道（前のウスリー鐵道アムール線）は南方に北滿鐵道を有することによつて僅かに複線の作用をもち得たもの、北鐵を失つたソヴィエト聯邦が黒龍鐵道の複線化に邁進するのは當然の行き方かも知れぬ。ソヴィエト聯邦は強制労働囚人を驅役しつゝ晝夜兼行その複線工事を急いだといふが、舊冬十二月、遂にカルイムスカヤ——ハマロフスク間二千二百二十八キロの複線化を完成した。

本年初春、交通人民委員カマノヴィチ氏は親しく極東交通状態を視察に來たが彼がモスクワへ歸着するや直に令を發し、極東の各鐵道を極東鐵道と黒龍鐵道に、東部シベリア鐵道を東部シベリア鐵道とクラスノヤルスカヤ鐵道に分け而して極東鐵道はウラヂオ——アルハラ驛間、黒龍鐵道はアルハラ——クセンチエフスカヤ驛間、東部シベリア鐵道はペトロフスキー・ザウオード——タイシエツト驛間、クラスノヤルスカヤ鐵道はタイシエツト——マリンスク驛間、ザバイカル鐵道はペトロフスキー・ザウオード——クセンチエフスカヤ驛間とし、極東鐵道廳をハバロフスクに、黒龍鐵道廳をスワボードヌイに、東部シベリア鐵道廳をイルクーツスクに、クラスノヤルスカヤ鐵道廳をクラスノヤルスクに置くことにしそれ／＼鐵道長官を任命した。これは極東に於ける鐵道事業の合理化、強化をはかつたものであることはいふまでもない。

昨年秋、ソヴィエト聯邦はまた十八ヶ月の日子を費やしハバロフスク——ウラヂオ間延長八百キロの大道路を完成してゐる。この間を自動車で走ると乗用自動車に於いて十八時間、貨物自動車で三十時間を要するといふ。これは極東の中心地と太平洋を結ぶ意味において經濟文化上のみならず軍略上にも意義ふかきものである。

極東交通網の強化工作は以上の諸建設、諸施設のみに止らない。このほかに黒龍鐵道の北方に、

これに並行してシベリア鐵道の一から太平洋に出づべき鐵道の建設がある。

ソヴィエト聯邦當局がシベリアの南、北、東方に於いて幾線かの新鐵道を計畫したことは幾度か傳へられたが、決定線と調査及び工事については何等信頼すべき發表をしてゐない。たゞ第十七回共產黨大會において首相モロトフ氏の試みたる報告演説中、第二次五ヶ年計畫の鐵道建設に言及し

『鐵道建設中注意すべきは延長一、四〇〇キロメートルのバイカル——アムール幹線の建設にして、之はザバイカルと黒龍江下流とを聯絡し、今日まで利用されてゐない廣大なる地域を經濟化するものだ』

といふ一節が世の注意をひいたのみである。バイカル——アムール幹線は所謂『バム』と稱せらるゝ新線で、その正確な線路通過區域、鐵道の調査、工事の進捗等とはもとよりわからないが、公に發表された建設計畫の必ず實行さるゝこの國の事例に照しても、この新線路も案外早く敷設されるかも知れない。もとシベリア鐵道一線の東西交通路しかもたなかつたロシアが、北に北氷洋の航路を加え、さらに北方シベリア鐵道を有するに到るであらうことは、東方交通網強化の上に重大なソヴィエト聯邦の躍進と認めねばならぬ。

ブルストロイとアンガロストロイ

極東及び東部シベリアにおいて二つの大きな総合企業地帯が生れやうとしてゐることも特筆しておかねばならぬ。ブルストロイとアンガロストロイだ。

ブルストロイの建設といふのは黒龍江の支流ブレイヤ河の沿岸に推定一千四百億トンの石炭を埋蔵するブレイヤ炭田と五億トンの鐵礦を藏するといはるゝ小興安嶺地方を基礎としてそこに大きな総合企業地帯をつくらうとするのである。

アンガロストロイとはバイカル湖から流るゝアンガラ河の水量多く且つ水勢の急なるを利用して六個の大なる發電所を起し、その電力と同地方が豊富に有する石炭、鐵礦、亞鉛その他の鑛産並に無盡藏の木材資源によりて一大総合企業を起し、これを以て東部シベリアの企業の大中心地をつくりあげんとするもの、アンガロストロイの規模の如何に大きいものであるかを一の数字で説明すれば、かの五ヶ年計畫の生んだ巨大な事業としてソヴィエト聯邦が盛に國の内外に吹聴する歐露のドニエプロストロイと比較するに、その發電所の電力生産高においてアンガロストロイはドニエプロストロイのそれに比し約二十五倍、即ち六百十七億キロワット時を生産する筈であるといふ。な

ほ付言すべきはアンガロストロイの重要價值がその電力供給の豊富に加え、電力原價の安價（一キロワット時原價〇・三哥）にありといはるゝことである。

兩企業ともまだ調査時代、準備時代であり急速にその實現を見やうとも思はれない。即ち明日の領域にある。殊にアンガロストロイは既に數年前より大仕掛な調査をはじめてゐるがその精密なる調査の完成するのは少くとも一九三七年であらうと傳へられる。従つて第一期建設工事が調査完了後直に着手するゝものと假定してもあの老大な建設が現出するのは前途遠慮である。けれども、統制經濟の力と、どんな犠牲を拂つても根づよく押しきるこの國のやり方からして、計畫があまりに大きいからといつて實現性がないとはいひきれない。

この兩企業はその完成の曉においては、かの有名なウラル・クズバス総合企業と共にシベリアの三大企業としてソヴィエト北東方並にシベリアの開発、諸建設に母體的役割をつとめるであらう。殊にブルストロイ、アンガロストロイともにわが國に近く殆んど滿洲國とは隣接する地方にある。われ等は深甚の注意をもつてその建設の進行を見やう。

對極東關係

日ソ關係

日ソ關係の第一期

日ソ關係の過去を顧みるものは、強大なる國家と國家とが隣接する時——殊に國體相反するソヴィエト聯邦と隣する場合——その間にいくに多くの問題が起るものであるかに想到する筈である。帝政時代の昔から日露關係は必ずしも單調ではなかつたが、ソヴィエト聯邦となるにいたつてそれは急速度を以て複雑化し險惡化する様になつた。しかしながら今日ほど兩國關係の複雑、晦澁にして次々に發生する大問題の殆んど總てが解決にいたらず、兩國間の空氣の險惡を極めた時はなかつたといつてよからう。

日ソ兩國を交は一九一七年の十月革命によりボリシエヴィキが露國の政權を握つて後斷絶したま

ま八年に及んだが、大正十四年一月二十日北京において日ソ基本條約、正確にいつて『日本國及びソヴィエト社會主義共和國聯邦間の關係を律する基本的法則に關する條約』の締結、調印さるゝに及び日ソ兩國は正規の外交關係に入つた。田中吉士が初代駐ソ聯大使としてモスクワに赴き、ソヴィエト聯邦よりはコツプ大使が東京に來た。そして兩國大使館はそれ／＼開設され、少しごたごたがあつた後ソヴィエト聯邦駐日通商代表部も東京に看板を掲ぐるこゝとなつた。

兩國を交開けてより最初の仕事は各種利權に關する會商であつた。まづ日ソ基本條約によりて北樺太の石油及石炭利權の兩協約はモスクワにおける半歳の交渉を経て何れも同年十二月十四日調印を了し、次いで昭和二年四月には沿海州森林利權契約が露領林業組合とソヴィエト中央利權委員會との間に成立し、昭和三年一月二十三日には別記日ソ漁業條約が調印され、かくて兩國關係はとにかく一歩々々整調されて行つた。一方、經濟關係においても各方面に種々の困難はあつたが相當の成果を收め、貿易も盛になり、國交成立後の六七年間は毎年殆んど定期的におこる漁業關係の紛争や、時に問題となつた第三インターの赤化工作に關したこと等を除けば大した難問題もなく比較的順調に兩國は提携をつゞけ親善をすゝめたといへるであらう。

滿洲事變後の日ソ關係

昭和六年九月に勃發した滿洲事變によりてアジア大陸に發生した新事態は日ソ關係に畫期的の影響を投げつくるものであつた。即ち滿洲國は誕生し、日本の力は大陸にのびてここに鬱勃たる日滿の勢力は蜿蜒數千キロにわたる滿ソ國境を距てて五ヶ年計畫に邁進するソヴィエト聯邦の力と對立する結果となつたのである。

滿洲事變を楔機として日ソ關係の重心は明かに滿洲に移り、面倒な問題が日ソ間、日滿對ソヴィエト聯邦間に次々におこり險惡なる状態が一度ならず發生した。けれどもソヴィエト聯邦ははじめの期間は概して平和的妥協的態度を持した。それは帝政ロシアの遺産にしてソヴィエト聯邦勢力の滿洲における最後の足溜りであつた北滿鐵道を滿洲國に讓渡した事實を以ても實證するものといつてよからう。しかしソヴィエト聯邦の和協的態度も北滿鐵道讓渡を最後として打切りの形となり、爾來日に強硬となつて今日にいたつてゐる。ソヴィエト聯邦が強硬となつた理由としては、ソヴィエト聯邦がトーチカ、飛行基地、兵營の建築等により國境の防備をかため優勢なる軍隊を極東に集中した一方、五ヶ年計畫の進行にともなひその國力着々充實しつゝあることなどが擧げられて

る。

間斷なく繰り返される國境紛議、日ソ兵の衝突事件、外蒙軍の日滿軍攻撃事件、對外蒙問題等の惡性にして險惡な重要諸問題が今日頻發しつゝある一方において、改訂期を前にする日ソ漁業條約改訂交渉もあり日ソの外交は頗る緊張し、モスクワに、東京に重大折衝が昨今ひきつゞき行はれてゐるがソヴィエト聯邦の態度は硬化し和協の誠意を容易に示さうとしないことが傳へられる。最近、日本の國內多事なりと觀てか、ソヴィエト聯邦の強硬態度にはこのごろ更に拍車を加えた様に見受けらるゝ所のあるのは注意すべきことである。

漁業問題

われ等は國境の諸問題、對外蒙古關係等については項を別にして説いてあるのでこゝには日ソ兩國間の懸案たる北洋漁業及び北樺太石油利權問題につき略述する。

北洋とは北緯四十二度以北、鮮ソ國境より北に位する日本海、オホーツク海、ベーリング海を包含する海洋を指し同方面は世界三大漁場の一に數へられこゝに産する重要水産物は鮭鱒類、鯨、鱈、大鱈、蟹、鯨等にして右のうちその全漁獲高の九割迄を占むるものは鮭鱒類である。鮭鱒類

漁獲總量は大漁の年においては實に一億五千萬尾にも上るといはれてゐる。鮭、鱒類には鮭、鱒、紅鮭、銀鮭、鱒の助等の各種あり、右のうち鱒、鮭として外國市場に輸出され價の最も高いのが紅鮭、北洋漁場において漁獲高の多いのが鱒、體形の最も大きなのが鱒の助である。

現在北洋において邦人の手によつて行はるゝ鮭、鱒漁業を大別すれば、

(一) 日ソ漁業條約に基きソヴィエト聯邦領陸上において行はるゝ漁區によるもの、その年産額は四千萬圓を超える。

(二) ソヴィエト聯邦領付近公海における母船式漁業、所謂『沖取漁業』で、昭和四年の創始でその歴史はまだ新らしいが年々躍進し、今この年産額は一千萬圓と稱せられる。

(三) 北千島における流網漁業、北千島において邦人が鮭、鱒漁業に着手したのは漸く昭和六年からであるが成績極めてよく昨年度は既に一千二百萬圓以上の産額を示した。

の三種である。が、右のうちポーツマス條約により確保されたわが漁業權によりての漁業はソヴィエト聯邦領陸上に行はるゝ漁區によるものだけであることを特筆せねばならぬ。

海の子、日本人は昔から海洋の勇者として活躍してゐる。日本人が遠く北洋へ漁業のために進出したのは舊幕時代のこと、明治時代に入つてからも極東露領沿岸には日本人が盛に出漁し、北洋漁

業の今日ある基礎はむしろ日本人がひらいた様なものであつた。

ポーツマス條約によつて日本は露國より『日本海、オホーツク海及びベーリング海に瀕する露國領地の沿岸における漁業權』を得、このわが國權たる漁業權の基礎の上に最初の漁業協約が明治四十年七月二十八日、日露兩國政府の間に調印された。

日ソ基本條約がポーツマス條約を確認することに於いて同漁業協約の改訂されたのが昭和三年五月二十三日御批准を経て新日ソ漁業條約。しかして同條約は昭和十一年五月二十七日を以て期間満了となる譯である。昨年六月十二日以來モスクワにおいて日ソ兩國政府代表の間に行はれてゐるのが漁業條約改訂交渉である。

いふまでもなく北洋漁場における日本人の漁業權はポーツマス條約によつて確保した權益であり、これが運行細目を決定した漁業條約が完全のものであつたなら別に改訂の必要もない筈である、が然し、事實は過去の紛争が示す如く全く缺陷だらけといつてもよい程であつた。折角締結された漁業條約がいよいよ實施されて見るとかくの如く常に紛争の種となつて兩國の感情を刺戟し、漁業問題は實に日ソ兩國間の癌となつた。北洋漁業問題が幾度となく日ソ兩國關係を危地に導いたことは周知の事實である。即ちこの癌を除去せんとすることは長い間の希望であり、その絶好のチ

ヤンスが、今日の改訂交渉なのである。現行漁業條約は前述の如く五月二十七日満期となるが改訂希望の際は條約満期の一年前に通告、交渉に入るべきこととなつてゐるので昨年わが國より改訂通告を發し、ソ聯邦側もこれに同意して交渉が開始されたのである。

わが方は公正妥當なる取きめをなすべく開會劈頭、多年實地によつて得た經驗を基礎とした根本案を提示して速やかに解決せんとしたのである。即ち

- 一、漁區安定協定の長期延長
- 二、競賣制の廢止
- 三、ループル貨安定

- を三原則とし、これに附屬條件として
- (イ) 魚族保護
- (ロ) 報償金(借區料その他)
- 納入條件の改正
- (ハ) 河川における漁獲禁止問題
- (ニ) 魚類の重量計算方法に關する件

等その他種々細目にわたる技術問題を一括した根本案を提示して交渉に入つたが廿數回の折衝の後ソ聯邦側は最後の回答を寄せたが遂に妥協解決點に達せず、このまゝ五月二十七日の條約満期にいたれば全く無條約状態になるのでわが方では關係當局も最後の腹を決めるにいたつた。無論本交渉不成立の場合と雖も、現行漁區安定協定(昭和七年廣田、カラハン協定)は本年一杯有效であり且つまた技術的取極めも本年分を既に解決してゐるので出漁には差支へないことにはなつてゐる

が、實際問題として無條約状態に入つた場合、種々の突發事件が豫想されるので、現行條約を本年一杯延長する暫定協定を結んでこの場の息をつけることゝなつた。

條約上の取極めでは改訂交渉不成立の場合には暫定取極めのなされるべきことが定められてゐるのでこの暫定取極めが選ばれたが、要は本年末までに改訂交渉が順調に進捗するか否かで、もし本年中に不成立の場合は無條約状態となり由々敷い問題となるのである。

石油利權問題

ソ聯邦領北樺太における石油採掘權は大正十四年十二月締結された利權契約によつて確保した權益である。

同契約によつて大正十四年十二月十日以前に北辰會が手をつけてゐた北樺太における油田、即ちオハ(約百五十三萬坪)、エハビ(約九十八萬坪)、ピリツン(約七十三萬坪)、ヌトウオ(約百五十三萬坪)、チャイオ(約七十三萬坪)、ヌイオ(約九十八萬坪)、ウイグレーク(約四十九萬坪)、カタング

リー(約九十八萬坪)の八ヶ所約八百萬坪は既開油田として完全に四十五年間の採掘権を得てゐるのである。この既開油田の採掘権と同時に未開油田の試掘権といふのを得てゐる。これは十一ヶ所一千平方露里(約三億四千五百萬坪)である、が然し、この試掘権の方には期限が昭和十一年十二月までと規定されてゐるので、このまゝ放棄しておいては折角試掘権を得てゐながら所期の目的を達せずしてその権利を返還せねばならぬ、こゝに試掘期限延長問題が起つたのである。

これがため北樺太石油會社では特に代表をモスクワに派し、政府の支持を得てこれが折衝にあつた。その結果、ソヴィエト聯邦側は

- 一、昭和十一年十二月試掘期限満了後更に二ヶ年間試掘延長を承認する(但し行政命令による。)
 - 一、昭和十三年十二月迄に試掘完了に至らざる場合、必要に応じて我が延長交渉に應じ得る用意
- あること(但し當分同問題は表面的のものとせず)

以上二ヶ條を承認した。これによつて會社側の主張してゐる五ヶ年延長は認められなかつたが實質的にはその主張が容認されたかたちとなつたので、目下のところ、この問題は落着の態である然し、ソ聯邦側は利權契約の根本にふれて延長を承認したのでなく單なる行政命令によるものである以上、今後試掘實行にあたり種々の不安が豫想されるので、わが方としては依然前起二ヶ條件に

は全幅的に満足せず、試掘期限五ヶ年延長の契約更新を今後とも主張する建前をとつてゐる。

滿ソ關係

國境緊張

滿洲事變以來滿ソ關係は屢々緊張を繰返して來たが昨年三月の北鐵讓渡交渉成立によつて、紛争の一禍根が取除かれたため俄かに明朗化し滿ソ關係はこゝに著しく緩和された如き印象を與へた。しかし、ソ聯邦政府が一方北鐵讓渡によつて『北滿洲より退却』を執行すると同時に、他方、極東駐屯軍の兵力を倍加し、また滿ソ國境一帯にわたりトーチカと稱する最新式の築城工事を施しいはゆる『退いて守る』の態度に出たため、必然滿洲國をして國境の兵備を強化せしむる結果となり、滿ソ兩國はこゝに黒龍江(アムール)烏蘇里河をはさんで武装對峙の姿勢をとることとなつた。これがため終始越境事件勃發し、滿洲國政府筋の發表によると、滿洲國建設以來本年一月末までに滿ソ、滿・外蒙國境を通じ二百四十七件の國境紛争事件が起つたといふことであるが、最近にいたつて更に數を増し、しかも揚木林子事件、綏芬河北方事件、金廠溝事件、長嶺子事件乃至は綏

芬河附近の不法射撃等いづれも滿ソ兩國正規兵の正面衝突による血腥い事件を繰返し、國境一帯の空氣は益々險惡となつた。いふまでもなく北鐵問題解決後、その舞臺が北滿洲より國境へ移動するとともに滿ソ兩國の紛争事件は却つて一層尖鋭化して來たのである。

現在の諸情勢から見て、これ等國境紛争事件が、いま直ちに戰爭にまで擴大されるとは思はれぬが國境紛争の勃發は國交關係を至極不明朗化してゐることは明瞭なる事實で、よし兩政府間に積極的戰爭の意志がないにしても、知らぬ間に引きづられる危険性は多分にある。かかる意味からするも國境紛争を『またか』と輕々に棄て、おくことは出来ない。

殊に極く最近、關東軍の發表によつて興安北省長凌、同省第一警備軍參謀長福齡一味のソヴィエト内通事件が暴露され世間をアツと言はせたが、北鐵讓渡によつてソヴィエト人の滿洲における地盤が縮小され、且つ滿洲國內の整備充實とともに凌陞の如き不逞の徒が漸次根絶するに従ひ、從來手にとる如くソ側にわかつてゐた滿洲國內部の事情も不明瞭となり、新興滿洲國の基礎いよいよ堅く、充實興隆せる姿をもつてソ領と對峙するにいたれば、今日の如く、國境紛争を末梢神經の昂奮として輕々視出來ぬこととなるは明白である。

國境不明確が禍根

かく現在の如く頻々と繰返される國境紛争のよつて來たる原因は種々あらう。目下しきりに軍備の強化を誇示せんとしてゐるソヴィエトが國境の不明確なるを利用し、これを中央統制下の政策に使用してゐることもあらう。即ち不遜な相手を見縊つた如き態度は滿ソ、滿蒙國境、北支等において同時に反滿的示威行動として現はれてゐるのである。

モスクワの中央で一本の糸を操れば東西南北、自由自在に動くソヴィエト式戰術(政治篇参照)をもつて對極東策に腐心してゐる以上、國境紛争を只單に國境のみの問題として解決しても根本療治の不可能であることも想像に難くない。殊に對滿政策を或は領事館閉閉問題にからみつけ、或は國境劃定を滿ソ間と言へば滿外蒙國境線劃定も同時にいふ如く、右すれば左するといふわけで巧妙に言ひ抜け徒らに遷延策を講じてゐる點から見れば國境紛争の處理は希望せぬでもなからうが、これを解決處理する以前にあらゆる工作を施さんとする舉に出でゐるもので、現在は所謂ソヴィエト式外交の駈引き時代であるから、或一定の時期——即ち滿洲國がソ側の見る或整備期に達する迄——しかく簡單に解決に乗り出して來ぬのではなからうかとも見られる。就中、ソヴィエト独自の

鴉片外交は滿洲國の背後にある日本をその交渉目標の基準とし、その内外事情を深く考慮にいれると共にソヴィエト自らの内外状況を織り込み、一問一決主義を採らず常に關聯綜合主義で臨んでゐる以上、國境——即極東問題としては解決し得ず、又之を解決し様とはしないのではないか。然しながら現在の如く頻々と起る越境乃至は不法射撃事件は、そのよつて來るところを見ると國境の不明確に基因し、これが悪用されてゐることはいふまでもなく、いまにこの禍根を一掃せずば將來に悔を深めるのみであらう。それにしても最近東部滿洲國境畫定と併行に國境紛争處理委員會が設けられることになつたのは滿洲關係を明朗化するものである。

滿洲國境とは

滿洲國の直面してゐる滿洲、滿外（外蒙古の部参照）國境問題中の滿洲國境は▲アルグン河——約八百六十キロメートル▲アムール（黒龍江）ボクロフカ、大黒河間、——八百九十キロ、大黒河、ハバロフスク間、——約九百四十キロ▲ウスリー河（烏蘇里）、ハバロフスク虎林、ウスリー間——ロ、合計三千二百廿キロ餘の河川國境と、西部三百六十八キロ、東部六百三十二キロの陸地國境と約五百卅キの二つに分つことが出来る。

滿洲（露支）國境が最初に條約上に現はれたのは一六八九年の尼布楚條約であるが爾來二百五十年間において滿洲（露支）國境に關し左の如き十二の條約、界約、協定が結ばれてゐる。



- 1 尼布楚條約（一六八九年八月廿七日調印）
- 2 布拉條約（一七二七年八月）
- 3 阿巴該圖條約（一七二七年十月）
- 4 恰克圖條約（一七二七年十月）
- 5 愛琿條約（一八五八年五月十六日）
- 6 天津條約（一八五八年六月）
- 7 北京追加條約（一八六〇年十一月十四日）
- 8 興凱湖界約（一八六一年六月）
- 9 琿春界約（一八八六年五月）
- 10 齊々哈爾協定（一九一一年）
- 11 露支協定（一九二四年五月）
- 12 奉露協定（一九二五年十月）

ソ聯の重壓下に締結した協定

如上の條約、界約、協定等をつぶさに検討すると、現在の國境はソ聯の東方侵略政策の重壓下に

支那が屈服と讓歩を餘儀なくされて締結したものと見られる。しかも、從來よりあつたいくつかの條約でもなほ不確定であつた境界は北京追加條約によつて、

「今後兩帝國の東洋における國境線はシルカ河とアルゲン河との合流點に至るものとす、黑龍江の左岸(北方)に位する地方は露西亞帝國に屬し、其右岸(南方)に位する地方は烏蘇里河との合流點迄支那帝國に屬す、更に烏蘇里河合流點より興凱湖に至る烏蘇河及ソングチャ河に沿ふ國境線の右岸に位する地方は露西亞帝國に其左岸は支那帝國に、更に兩帝國の國境線はソングチャ河が其水源より興凱湖を越えベレンホウ河に向ひ、同河の河口より山嶺に従ひハウプトウ河の河口に至り同所より珲春河と該河より圖們口に至る迄の海との間の山脈をもつて之を劃す、該全線も同様、其東部に位する地方は露西亞帝國に其西部に位する地方は支那帝國に屬す、前記の國境線は圖們河口より二十支里の海上に及ぶものとす」(以下北京追加條約參照)

と規定された。が然し、一片の紙上協定に過ぎないものが多く、常に境界の不明確をめぐつて紛争は續けられて來た。

以下その主なるものを摘記して見よう。

一、東部國境

最近日滿、ソ兩國正規兵の正面衝突事件をおこした長嶺子を含む東部國境線六三二キロ、即ち興凱湖以南の陸境地帯には密林あり、濕地あり、高原丘陵ありといった具合で地形極め

×

×

て錯綜し、しかも北京・珲春條約によつて設けられた文字界牌九ヶ所、番號標識廿六ヶ所計卅五の國境標識でさへ不十分の上、現在既に皆無となつてゐるもの十八、不明四、移動三で現存僅か一個といふ有様である。全部現存してさへ各標識間の平均距離は十八キロであるが、現在の如くその過半數を消滅してゐてはその不明確なもの寧ろ當然といはざるを得ない。

二、北部國境

北部國境線はアルゲン、アムール、ウスリー河等によつて劃されてゐるから問題の起る餘地はない筈であるが、時々移動する水路によつて河川中の島嶼歸屬問題に關し紛争は絶えな

い。

一昨年六月、國境河川の水路會議が滿ソ間で開催されたが島嶼歸屬問題がからんで停頓、漸やく本年四月卅日再開の運びとなつたが、島といつても對島の如きものもあり、その歸屬如何によつて國防上重大影響をもつので、しかく簡單に解決されぬ。その主なるものを擧ぐれば左の如くである。

(イ) 黑瞎子島(撫遠縣三角洲)歸屬問題 一名カザケーヴィチ水道問題といひ、黑龍江と烏蘇里河との合流點にあるハバロフスク前面の大三角洲である。近距離航路として從來滿洲國に沿うた三角洲の一邊、所謂カザケーヴィチ水道を航行してゐたものである、ウスリー、アムールの本流によ

つて國境を劃しその間に挟まれた右三角洲が滿領であることは明白であるが、ソ側は一九一八年以來無法にこれを占領、自國領と強辯してゐるのである。

(ロ) ボヤルコフ水道問題IIブラゴウエシチエンスク東方のボヤルコフ附近の三角洲を繞つて兩國は前記力水道同様對立してゐる。

(ハ) この外バビハ、ケトールウオ地方の問題があるがアルゲン河、アムール、ウスリー兩江中には數百の川中島の歸屬が全然決定を見てゐぬ。

三、西部國境 滿洲里方面陸地國境(アバガイドから滿蒙露三國境界點の五十八號標識に至る)は一九一一年のチチハル協定によつて大體劃定を見てゐる筈であるが、東部國境同様不明となり、しかも全線三六八キロにわたりソ側は支那側の勢力振はざるに乘じ不法に二キロ乃至四キロづゝ滿洲國領に喰ひ込んでゐる。

以上の如く、滿洲國境線は多數の紛争の禍根を残してゐる。これが根本的解決を期し、滿洲國側はソ聯邦及外蒙古政府に對し、國境劃定委員會を組織し、國境を明白に劃定すべきことを提議した。これに對しソ側は國境は既に確定してゐるとの見解をとり、紛争を除く紛争處理委員會を設く

べしと主張してゆづらず徒らに今日まで遷延させ、その間種々の不祥事が勃發したのである。

かくて最近では金廠溝事件の現地共同調査委員會の構成をはじめ國境河川水路會議の復活乃至は全面的國境劃定等の議が起り前途に多少曙光を見せてはゐるが、ソ側があくまで一局部的禍根の除去に關知せず、反つてこれを他に利用せんとする不誠意なる態度に出る以上、眞に胸襟を開いて談合するのは至難と見られ、國際政局の變化、ソ側の内外諸情勢がこれに有利に變らざる限り、前途多事多難を想はせるのみである。

尼布楚(ネルチンスク)條約

一六八九年八月廿七日調印

(前文省略)

第一條 露西亞國と支那國との境界は「チエルナヤ」河附近に於て其左岸が「シルカ」河(黑龍江の支流)に合する「ゴルビチア」河を以て之を劃す同河の水源より海に至る境界線は同河の水源地たる山脈の頂上に沿ひ之を劃すべし兩國の管轄區域は之を分ちて前記山脈の南方斜面より流出し黑龍江に合する一切の河川又は水流の流域は之を支那帝國に、又前記山脈の北方より流出する一切の

河川の流域は之を露西亞帝國皇帝の支配に屬せしむべし露西亞國の『ウード』河と前記山脈との中間に横はる他の河川——黑龍江の附近より海に流出するもの——の流域にして現に支那國の支配の下に在るもの、管轄權の問題は後日に之を譲るべく本問題につき露西亞國大使は、現在露西亞國皇帝よりの明確なる訓令を有せざるを以て今後兩國大使が各自國に歸國の後露西亞國皇帝及支那國皇帝は互に全權委員を派遣するか又は文書の往復により親交の條件を以て之を決定すべし。

第二條 黑龍江に流入する『アルゲン』河の全線は同様に兩國の境界を劃す其左岸の地域は支那國皇帝の支配の下に、其の右岸は露西亞國皇帝の下に置かるべし、其南方の住民は北方に移住せしむべし。

第三條 露西亞國皇帝陛下の建造せる『アルバチン』の城邑は全然之を破壊すべく其住民は一切の軍用及其他の貯藏品を携帶せしめ露西亞國領域へ移住せしむべし該移住民は其一切の財産を携帶することを得べく差押により之等住民に損害を蒙らしむることを得ず。

第四條 本條約の日附以前に一方の地方より他方の地方へ逃亡し定住せる者は現儘定住することを得べく何れの側よりも其引渡を請求することなかるべし但し本條約の日附後何れかの締約國に逃亡する者は遲滯なく之を國境に送還し且直に地方の長官に引渡すべし。

第五條 兩國政府は本條約締結の時より兩國の臣民は正當の旅行券を所持するにおいては私用の爲及商業を營む爲國境を越え往來することを得べきことを約す。

第六條 本條約の日附迄に兩國臣民間に生じたる一切の紛争は今後之を争ふことなく且右紛争より生ずる請求は之を受理せず但し今後私用の（適法の）爲國境を越えたる兩國の臣民中財産及生命に對し暴行罪を犯す者は直に之を逮捕し其者の屬する國の國境に送還し且地方の長官（軍憲）に引渡すべく該長官は右犯罪の處罰として之を死刑に處すべし兩國は私人が國境に犯す罪及暴行を以て戦争及流血の原因となすを得ず此種の事件生ずるときは其發生地における官吏をして兩國主權者に報告せしめたる後友誼的態度を以て外交上の交渉により之を解決すべし。

支那國皇帝が兩國使節の協定せる前記國境條約の規定を石碑に彫刻し標記として之を國境の或地點に存置せむと欲するときは自由に之を爲すを得べく之を爲すと爲さざるとは全然支那國皇帝の任意とす。

愛 琿 條 約

一八五八年五月十六日愛琿に於て調印

一八五八年六月二日清國皇帝批准
一八五八年七月八日露國皇帝批准

大露西亞帝國は

東部西比利亞總督「アレキサンドル・ニコライウイツチ」皇帝附侍從武官陸軍中將「ニコラス・

ムラヴィエフ」を其代表者とし、

大清帝國は

侍從武官黑龍江將軍奕山

を其代表者とし

各其人民の利益の爲に兩帝國間に恒久且最も緊密なる友誼を確立せむことを希望し左の如く協定せり。

第一條 黑龍江の左岸にして「アルグン」河より黑龍江の河口に至る迄は露西亞帝國に所屬し其右岸江に沿ひて烏蘇里河に至る迄は大清帝國に所屬するものとす、烏蘇里河と海洋との間に介在する地域は前記二國の國境の確定を見る迄從來の通り兩國の共有するところとす、黑龍江、松花江、烏蘇里河の航行は之を清國及露西亞兩國の船舶に對してのみ許容す右諸川の航行は他の凡ての國家

の船舶に對して之を禁止す「ゼイア」河より南方「ホルモンデン」村に至り黑龍江左岸に住居する滿洲の住民は滿洲政府統治の下に永久其舊居を保持することを得べく露西亞住民は右に對して何等侵犯することを得ず。

第二條 兩國臣民の和親の爲烏蘇里河、黑龍江、松花江の河岸に住居する兩帝國の臣民は相互に商取引を行ふことを許し且當局は右兩岸の取引業者を保護するものとす。

第三條 露西亞帝國全權陸軍中將「ムラヴィエフ」及大清帝國全權黑龍江將軍奕山により、一致協定せられたる諸條項は確實に且不可侵に永遠に實行せらるることを期す之が爲陸軍中將「ムラヴィエフ」は露西亞帝國を代表して露西亞語及滿洲語を以て作成せられたる本條約の一通を大清帝國を代表する將軍奕山に手交し將軍奕山は大清帝國を代表して滿洲語及蒙古語を以て作成せられたる本條約の一通を露西亞帝國を代表する總督「ムラヴィエフ」に手交せり。
本條約に記載せる一切の條項は兩帝國の國境に住居する住民に告示するものとす。

一八五八年五月十六日愛暉市に於て

ニコラス・ムラヴィエフ
ピエール・ペロフスキイ

(印) (印)

天津條約追加條約 (北京追加條約)

一八六〇年十一月十四日北京に於て調印

露西亞國と支那國との間に現存する條約を詳細審査したる結果全露西亞國の獨裁君主たる同國皇帝陛下及大清帝國皇帝陛下は一層兩帝國間の相互的友誼關係を確保し通商關係を發達せしめ且一切の誤解を避けむことを欲し若干の追加條項を規定することに決し此目的の爲左の如く其全權委員を任命せり。

露西亞國皇帝

陸軍少將 『ニコライ・イグナチエフ』

大清帝國

恭親王

右各委員は互に全權委任状を示し其十分なることを認めたる後左の如く協定せり。

第一條 一八五八年五月十六日 (咸豐八年舊曆四月廿一日) 愛琿に於て締結せられたる條約第一條

を明確にし且同年六月一日 (舊曆五月三日) 天津に於て締結せられたる條約第九條を實施する爲左の如く定む。

今後兩帝國の東洋に於ける國境線は『シルカ』河と『アルグン』河との合流點に至るものとす黒龍江の左岸 (北方) に位する地方は露西亞帝國に屬し、其右岸 (南方) に位する地方は烏蘇里河との合流點迄支那帝國に屬す、更に烏蘇里河合流點より『ヒンカイ』湖に至る烏蘇里河及『ソングチヤ』河に沿ふ國境線の右岸に位する地方は露西亞帝國に、其左岸は支那帝國に更に兩帝國の國境線は『ソングチヤ』河が其水源より『ヒンカイ』湖を越え『ペレンホウ』河に向ひ同河の河口より山嶺に従ひ『ハウプトウ』河の河口に至り同所より琿春河と該河より圖們口に至る迄の海との間の山脈を以て之を劃す該全線も同様に其東部に位する地方は露西亞帝國に其西部に位する地方は支那帝國に屬す前記の國境線は圖們口河口より二十支里の海上に及ぶものとす。

尙天津條約第九條の實施を確保する爲地圖を作製し國境線を明瞭ならしむる爲赤線を以て之を記入し且露西亞語『アルファベツト』を以て地名を記入すべし兩帝國の全權委員は該地圖に署名調印すべし前記記入の地名中支那國臣民の住居せる地方ある時は露西亞國政府は右居住を認め且居住者が從來通り狩獵及漁業に従事することを許可すべし國境標を建設したる後は前記國境線は之を永久

突 山 (印) 印

に變更すべからず。

第二條 從來確定せざる西方の國境線は今後山脈及大河流の方向並事實上支那國境衛兵の駐屯せる線により之を定むべし即ち恰克圖條約の締結後一七二八年（雍正六年）に建設せられたる『シャビンダバガ』（沙賓達巴哈）と稱する國境標の最後のものを起點とし西南に向ひ『サイサン』湖に至り同湖より『インク・クル』湖の南方に位する山脈（『シエレスト』山脈の南方支脈にして『デングリシヤン』其他の名あり）を経て浩罕の屬領に至る線を以て之を定む。

第三條 將來發生することあるべき一切の國境問題は本條約第一條及第二條の規定により之を定むべく且東方に於て『ヒンカイ』湖より圖們江迄西方に於て『シャビンダバガ』國境標より浩罕の屬領に至る迄の國境標建設の爲兩國政府は委員を任命すべく東方國境視察の爲該委員は明年四月中烏蘇里河合流點に於いて會合すべく西方國境を視察する爲同委員會は『タルバガタイ』に於いて會合すべし但し其時期は之を決定せず。

前記委員は本條約第一條及第二條の定むる基礎により地圖及國境線の詳細なる説明書四通を作成すべく右二部は露西亞語を以て他の二部は支那語又は滿洲語を以て之を作成すべし該委員が前記地圖及説明書に署名調印したる後兩國政府に其保存用として露西亞語及支那語又は滿洲語の二部（各

一部）宛を交付すべし。

前記地圖及國境線の説明書の交付に當り委員は其署名調印により確定せる調書を作成すべし該調書は之を本條約の追加條項と認む。
（第四條以下第十五條迄略）

ソ聯邦の傀儡・外蒙古

滿・外蒙關係の緊張

帝政ロシアの傳統とした東方侵略策をそつくりそのまゝ繼承したソヴィエト聯邦が革命後の國內統制に一段落を告げるとともに漸次東方にその鋭鋒を現はした。就中外蒙古に對するソヴィエトの態度はつとに各方面から注視的的となつてゐた。

が然し、一九二二年外蒙古を占據した白衛軍を撃退してソヴィエト勢力が完全に侵蝕して以來といふものはソ獨特の秘密主義がごとごとと奏功し、ために外蒙は開かずの秘境化せられ、赤色支配下の『謎の國』となつてその實情は殆んど外間に漏れなかつた。

然るに昨年一月、突如この『謎の國』が開かずの扉を破つて滿洲國に對し積極行動を開始し例のハルハ廟事件を惹起するにいたつたので俄かに外蒙に對するわが朝野の關心は高まつた。

建國以來隣邦との親善工作を畫し、その端緒の到來を待期してゐた滿洲國はハルハ事件を絶好のチャンスとし、直ちに外蒙古に向ひ直接折衝の交渉を開始し、漸やく滿洲里會議の運びとなつた、が結局ソヴィエトに操縦された外蒙代表の積極的非妥協態度によつて數ヶ月に亘る同會議も何らの結實を見ず、双方對立したまゝ物別れとなり、これと相前後して外蒙首相ゲンドウン以下要人のモスクワ訪問が行はれスターリンはじめソ大官連との會談、乃至はブリヤート、モンゴル共和國、唐奴、烏梁海等滿洲國近接地方代表の參集、對滿洲策の協議等が噂され、又頻りにソ蒙軍事密約説或は對滿ロシア勢力プロツク形成説などが亂れ飛んだ。

かくの如くソ・外蒙關係の密接化が放送されるとともに外蒙兵の滿洲國領侵入事件、外蒙兵の滿蒙國境集結、ソヴィエトの外蒙警備強化等が報道され、遂にヘルムト事件、ポイルノール事件にいたつて事態はいよいよ悪化して來た。最近にいたり問題のソ蒙相互援助條約（別掲参照）の公表と相前後し三月廿四日及び同卅一日ハルヘン附近において勃發した日滿・外蒙軍の正面衝突を見、兩軍に多數の死傷者を出したので滿蒙關係は緊迫、滿蒙國境異狀ありの印象を與へるにいたつた。

が然しこれを検討するに外蒙古はソヴィエト聯邦にとつて極東進出のための所謂赤色路線上の一前哨地であり又その兩境に連なる新疆と共にソヴィエトの一つの生命線となされてゐるが故に、滿蒙問題は單に滿洲國と外蒙古人民共和國との問題でなく、根本的には、東亞の安定勢力をもつて任ずる日本の大陸政策と、東方被壓迫民族の解放をスローガンとするソヴィエトの東方進出と、この二大勢力の對立衝突の問題といふことになるのである。だから滿蒙問題を中心とした微妙な動きも無關心ではあり得ない。

ソヴィエト勢力の確立

鎖國外蒙が完全にソヴィエト化され、ソヴィエトの傀儡・屬國化されてゐることは本年三月十二日外蒙首府ウラン・バートル・ホタ（庫倫）において調印された『ソ・外蒙古相互援助條約』の公表によつて白日下にさらされるに至つた。外蒙が露國の勢力下に入つたのは實に古い。いはば外蒙は帝政時代から革命後の今日までロシアが傳統的に抱く極東制覇の踏臺となり、その間一進一退はあつたが、支那の一部でありながら地理的に本土から孤立してゐたため常にロシアに接近、醜弄され、傀儡的存在を續けて來たのである。

外蒙古はロシア革命に先だち一九一一年支那辛亥革命に乗じて同年十二月一日東部蒙古喀喇沁王が主動者となつて内蒙古東四盟（哲里木盟、卓索圖盟、昭烏達盟、錫林郭爾盟）の王侯等は庫倫（ウルガ）に革命政府を樹立し支那に對し外蒙の自治を宣言したのに初まる。この宣言はいふまでもなく豫てから外蒙進出の機を窺つてゐた帝政ロシアの指針であつて、これ以來ロシアは陰に陽に外蒙への關心を露骨にしていよいよ進出しはじめたのである。

一九一二年 外蒙古自治政府との間に露蒙修好協定及附屬（通商）議定書を締結

一九一三年 北京において支那政府と外蒙古に關する宣言書調印

一九一六年 六月露支蒙三國協定署名

等を行ひ、前記諸協定によつて支那政府は外蒙古の自治の承認に同意したが、もともと外蒙の背後にロシアがあつたため止むなく自治承認の舉に出たものであつた、だから一九一七年ロシアに革命が勃發するや支那はこれこそ絶好の機會であるとし外蒙に對する完全なる主權恢復を企て、且つ活佛をたて、一九二〇年十一月さきに露支蒙協定によつて承認した外蒙の自治權を取消してしまつた。

かくて一時外蒙は支那中央政府に實權が移つたが一九二二年シベリアより追はれたコルチャツク

配下のウングレン軍が外蒙に侵入、庫倫を占領したので、ソヴィエト軍は白軍掃討の名をもつて外蒙に進出、當時ソ聯の支援で反中央の旗印をたてて政變を起してゐた蒙古人民革命政府と通謀して遂に白軍を撃破し、七月庫倫を占領してしまつた。ウングレン軍逃走し外蒙には活佛を君主として新革命政府が組織された。

かくて外蒙古は當時内部的に社會・經濟組織改組の機運に達したのでこれを見てとつたソヴィエトは巧みに操縦、容易に外蒙古を自國勢力圏内に懐包することに成功し別掲の如き露蒙修好取極を締結してしまつた。

革命後のソヴィエト聯邦が外蒙に確固たる地盤を築くに至つたのは實にこの時である。

一九二四年ソ支國交恢復し、同年五月卅一日外蒙に關する協定（別掲参照）が成立するに及びソ聯は外蒙における既得權を拋棄し支那の外蒙古に對する完全なる主權を認めたのであるが、ソ側は一九二二年以來外蒙古との間に相互に交換しつゝあつた代表者をそのまゝとし、一九二五年三月ソ聯中央執行委員會において時の外務人民委員チエリンはソ聯は外蒙古を支那領土の一部を認むるも同國は自治制を享有し、その内政は支那の干渉を受けず外國に對しては獨立をなし得るものと認むと報告、この趣旨に立脚してソ聯は益々對外蒙工作を進めたのであつた。

その結果一九二四年十一月外蒙古は活佛の死を機とし外蒙古國民共和國たることを宣言し、同年十一月ソヴィエト聯邦に範をとり共和國憲法を發令し（一）共和國の樹立（二）總ての天然資源の國有化（三）國家管理による統制經濟政策の採用等を宣言し、且つ外國貿易も亦漸次事情の許す限り獨占を行ふ旨聲明した。

翻へつてソ側はこの間シエルスチ（羊毛輸出部）シブ・ゴストルグ（シベリア國營商業部）ネフチ・シンヂカート（石油）等の活動開始と相俟つて對蒙貿易大躍進を試み、又内外爲替業務を獨占する蒙古銀行がゴスバンク（モスクワ國立銀行）との共同出資によつて開設、新幣制が設定され、引續き一九二四年十月三日、ソ・外蒙間電信連絡協定締結、一九二六年一月ソ蒙實業俱樂部の組織等があつて兩國間の經濟關係は益々親密増進を加へ、同年六月六日にはセレンガ航行に關する協定が成立してソ側は外蒙古内河川航行權を獲得、翌二七年二月廿二日前記電信連絡協定を二九年一月一日まで延長する旨を協定し兩國通商關係は益々密接となつた。

一九二七年三月シエルスチ、織物、皮革の三シンヂカート及工業製品輸出株式會社の四貿易機關により資本金百五十萬ルーブルの對蒙ソ聯邦株式會社を組織した。この合同の結果ソ蒙貿易は急激に發達し、諸外國殊に支那を壓倒し、英國商館は退去を餘儀なくされた。かくてソ聯邦は外蒙との貿

易特に羊毛買付に關し一九二八年以來事實上の獨占權を掌握するにいたつた。

その後一九三〇年五月六日ソ蒙國民國境通過簡易取扱に關する條約、又一九三四年十二月一日ソ蒙通商及經濟決濟に關する條約等を締結した。

ソヴィエトの對外蒙輸出品中主なるものは穀物、石油産物にして斷然他を凌駕してゐるが織物、砂糖、セメント、化學藥品、化粧品、金屬及同製品、電氣器具、燐寸等も近年頗る増加してゐる。一九二九年以後外國貿易に關する國家獨占方針を徹底するに至つたので一九二七年貿易總額の六五、五%を占めてゐた、私營貿易は俄かに減少し、一九三〇年には僅か四、八%となつた。かく國家獨占の強化勵行と共に外蒙におけるソ聯邦の支配力は益々強化され、完全な獨占的地歩を占めるやうになつた。

一九二八年以降のソ蒙貿易狀況を窺ひ得べき貿易統計を掲ぐれば左の如くである（單位千ルーブル）

年次	ソヴィエトより外蒙へ輸出	ソヴィエトへの輸入
一九二八—二九年	一六、〇〇〇	一五、二〇〇
一九三〇年	一七、八一九	一九、七四五
一九三一年	三七、三四二	二八、八三三

一九三二年
一九三三年
一九三四年

四一、三九五
三五、二四六
四四、八一〇

一九、二七八
一三、四七一
二〇、五六一

滿・外蒙國境紛爭問題

何十回となく繰返される滿・蒙國境附近における越境、血腥い衝突事件は一體何に起因するか。最近の如く外蒙軍が積極的行動を起すのは將して自信ある整備が出来た（別項外蒙軍隊参照）とするのか、或は示威運動か。

無論外蒙軍が一單位をもつて滿洲國領に進出し得る程の實力を裝備したとは思はれぬ、これにはソヴェト側の支援、後押しがあつて始めてなされることであつて、滿蒙國境紛爭は只單にこゝ一ヶ所の問題でなく、滿・ソ國境乃至は日滿支關係、或はソヴェトのヨーロッパにおける環境等が微妙に作用してゐることを見逃すことは出来ぬ。

しかし滿・蒙國境地帯における赤軍の反滿行動が、しかく露骨であるのは赤軍の強化が一原因であることはいふまでもないが、只單に強化・擴充のみでかく積極的であるとは思はれぬ。

かく積極的になつたについてはいくつかの客觀的情勢が擧げられる。即ち

- 一は相手國、日滿兩國における現状
- 二は赤軍の威力を誇示すべき時にあること
- 三は積極行動によつて滿洲國民を動搖させること
- 四は滿洲國建國以來外蒙の事態は急變し、從來の如く安閑としてゐることを許されず、且つ外蒙國民の動搖を未然に防止する必要に迫られたること

かゝるいくつかの原因がからんでこゝに滿・蒙國境における外蒙軍の積極行動となつて現はれたものと見られるのである。いふまでもなく滿洲國と外蒙との國交が開かれ、有無相通じて親善關係を持続してゐるならこの不祥事が起らぬことは明々白である。

故にこの根本的原因たる親隣關係の提携に關し滿洲國側は再三、再四、外蒙側に希望を申込んで交渉開始を慫慂して來たが、後で糸引くソ聯側に操縦されてか、滿蒙だけの紛爭解決に同意せず、遂に今日にいたつてゐるのである。

いま滿蒙兩國間の衝突事件、反覆・繰返される抗議の内容を見るに常に國境線の不確立が導因となつてゐる。そして水掛論的薄弱な論據をもつて兩軍對峙・衝突の繰返されることの面白からざることはいふまでもなく、又滿洲國住民と兄弟の關係にある外蒙人をしかく敵視する必要も毛頭ない

ので滿洲國側は大乘的に滿蒙提携をとき、この水掛論の根據たる國境線の劃定をなさんと提議してゐる。

將してしからは滿蒙國境線はかく不正確のものであるかといふ問題になるが、一口にいふならば國境線といふものは全く無いといつてもよい状態にあるのである。

滿蒙國境線

滿洲國と外蒙古の國境線は蜿蜒七百餘キロ、その國境線は地圖の上ではいつも無造作に描かれてゐるが、實際は甚だ不正確、曖昧至極なのである。

第一最も肝腎な國境標識など全然なく、ポイル湖より滿洲里附近に至る三百餘キロの國境地帯は見渡す限り際しない草原と丘陵の起伏で國境を定むべき地形に據りどころがない。冬季降雪季など一眺千里、萬里を白色で色塗られて全く見わけがつかなくなる。ポイル湖より察哈爾境界までの四百餘キロの國境地帯は興安嶺に源をもつハルハ河が東南から西北に流れてポイル湖に注ぐので、昔から、その河が自然的に境界線となつてゐる、だからその流域だけは、やゝ國境が明確とされてゐるが實はこの河が一番の曲者で、時により季節によつて河道を十餘マイルも變へるので昨日

の滿洲國領が今日は外蒙領に變はることも珍らしくなく、この河があるため却つて國境紛争がはげしくなるといはれるほどである。(ハルハ廟はこの河口數キロのところにあるので真先に問題となつたのだ)

滿洲國境がこんな曖昧であるのには二つの理由がある。一つは歴史的因縁で、二つはこの邊一帶に住む蒙古人達が先祖代々遊牧し、國境などに極めて無頓着であるといふことだ。歴史的因縁といふのは一體滿蒙の國境といふが滿洲國が生れるまでは外蒙古共和國と支那(黒龍江省)との國境であり、外蒙が支那から獨立する以前(十二年前)までは同じく支那領であつたので外蒙と内蒙を内政的に區別する境界に過ぎなかつたのである。

外蒙古の現勢

領土・地勢 所謂外蒙古といふのは一九一五年六月七日恰克圖において調印された外蒙古自治に關する露支蒙三國協定第十一條に規定された範圍内をいふ。即ち『自治外蒙古の版圖の包括するところは、庫倫辦理大臣、烏里雅蘇臺將軍及科布多參贊大臣の統轄のもとに在りたる地方にして、東は呼倫貝爾地方、南は南蒙古、南西は新疆省及西は阿爾泰地方を以て境とする喀爾喀四盟の諸蒙